弘前大学農学生命科学部・農学生命科学研究科

# 平成 24 年度　教育改善に向けたアンケート調査

# 報　告　書

平成 25 年 12 月 25 日

弘前大学農学生命科学部

自己評価委員会

# 巻頭言

農学生命科学部長　佐々木　長市

平成14年度に開始された「卒業生を対象としたアンケート調査」が今年で１０回目となりました。学部では，自己評価委員会が解析の労を執り、教育改善委員会とともに検討し、構成員に有意義な情報を開示し、共通の悩みの解決策について示唆下さっており、この結果の解析は、学部の教育研究に対する改善点や継続すべき点を我々に示してくれています。

近年、「講義・授業方法，学生への教育指導方法の改善・工夫方法」についての検討は日常的に行われています。本学部においても，年に数回の開催が恒例となっております。このアンケートでは、大学院の教育のあり方や教員の教育に対する考え方を聞くという他に例を見ない「教員対象教育評価アンケート」もなされていることが大きな特色であります。さらに、毎年欠かさず「卒業生を対象としたアンケート調査」の結果報告会が開催され，委員会による分析結果に対して学部教員相互の意見交換が行われていることも特筆すべき取り組みであると思います。

大学及び学部も学生に対する教育の質の向上を図るため，アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーそしてディプロマポリシーの公開と、この方針に従った教育実施を目指しています。これら方針の認識のもとに教育が実施されてこそ、初めて大学あるいは農学生命科学部らしい個性的な教育の深遠化が進むものと推察されます。こうした認識を学部共通のものとし、教育の改革を進める一助にこの取り組みは大いに貢献しているでしょう。

大学としては、佐藤学長のリーダーシップのもと、教育の充実と国際化が大学としての目指すべき方向となっています。学部としても、教育のますますの充実は意を同一にしているところです。こうした状況の中で、平成25年度には７年毎に実施される大学の認証評価がなされました。「教育内容及び方法」の基準で、農学生命科学部のガイダンスの内容が適切であること、シラバスが学生にとって有効であることなどがこのアンケート結果により確認され、有用性を発揮しています。今後も「教育の質の向上」や、その達成度の評価の問題を議論する場合、また学部の教育研究目標が時代のニーズに適合したものかなどの評価を実施する際に、「卒業生を対象としたアンケート調査」の毎年の結果はますます重要となるでしょう。

平成25年度に文部科学省から求められた学部の「ミッションの再定義」では、育成する人物像や教育の改革の方向などのビジョンを明確にすることが求められました。こうした方向に鑑みた場合でも、「卒業生を対象としたアンケート調査」は重要であり、これらの結果が本学部／研究科の教育の充実のために積極的に活用されることを期待いたします。

最後に，本調査に対し、労をいとわずとりまとめてくださった自己評価委員の各位に深甚なる謝意を表したいと思います。

# 目次

巻頭言 ..... 1
はしがき ..... 3
Ⅰ. 学部卒業時学生対象　教育評価アンケート ..... 4
１．アンケート調査内容 ..... 4
２．調査結果 ..... 5
Ⅱ．研究科修了時学生対象教育評価アンケート ..... 51
１．アンケート調査内容 ..... 51
２．調査結果 ..... 53
Ⅲ．教員対象授業アンケート（学部授業および研究科授業） ..... 76
１．アンケート調査内容 ..... 76
２．学部授業に関する調査結果 ..... 77
３．研究科授業に関する調査結果 ..... 86
Ⅳ　教員対象教育評価アンケート ..... 93
１. アンケート調査内容 ..... 93
２．調査結果 ..... 94
Ⅴ．アンケート調査結果に対する各学科の見解 ..... 111
生物学科 ..... 111
分子生命科学科 ..... 112
生物資源学科 ..... 113
園芸農学科 ..... 114
地域環境工学科 ..... 115
Ⅵ．教育改善委員会（平成２３年度教育改善にむけたアンケート調査についての意見）. 116
学部卒業時・研究科修了時学生対象教育評価アンケートについて ..... 116
教員対象授業アンケートについて ..... 118
教員対象教育評価アンケートについて ..... 118

はしがき

農学生命科学部の自己評価委員会は，学部ならびに研究科の教育の適正化，カリキュラムの改善などを目的に，学部４年の卒業予定学生及び研究科２年修了予定学生を対象にした授業評価と，各教員を対象とした専門科目の授業評価についてアンケート調査を実施してきた。平成 14 年度(15 年2月実施)以降，これまで 9 回行われ，今回は第 10 回目である。平成 17 年度からの調査では，それ以前の内容に加えて学生と教員を対象として教育評価アンケートが実施された。そのアンケートにおいては，学生および教員対象の各アンケートに同種の質問項目を設けており，学生と教員との間における意識の相違についても読み取れる。本年度もこれまでのアンケートとの継続性に配慮し，それらの内容を踏襲して次の４種類とした。

Ⅰ．学部卒業時学生対象教育評価アンケート
Ⅱ．研究科修了時学生対象教育評価アンケート
Ⅲ．教員対象授業評価アンケート　・学部授業に関する調査　・研究科授業に関する調査
Ⅳ．教員対象教育評価アンケート

各アンケートの設問内容は，それぞれのアンケート調査結果の冒頭に示した。設問は主に選択肢の中から１つを選ぶものと，その回答理由を記述させるもので構成した。選択肢として，「強くそう思う」，「そう思う」，「どちらとも言えない」，「そう思わない」，「全くそう思わない」等の５段階を設定した場合は，順に 1～5 の番号を付して選択するものとした。設問の回答に関する分析では，「強くそう思う」と「そう思う」を併せて「肯定的な評価」とし，「そう思わない」と「全くそう思わない」を併せて「否定的な評価」とした。また，学生の回答理由の記述は，明らかな誤字や個人名以外は，できるだけ原文のまま箇条書きで記し，各学生が選んだ選択肢番号を行頭に付し，学科別に掲載した。

本アンケートの設問の設定については，昨年度と同様大きな変更はせず，設問の趣旨が的確に受け取られるような範囲の変更にとどめている。これは，本報告書の内容は，教育改善や組織評価等に活用されると想定され，さまざまな取り組みの成果や問題点の把握を可能にする経時的データの役割をなすためである。但し,今年度は組織改編前の農学生命科学研究科修了生の最終年度となる。

本アンケートの結果は教育改善に活用されるべきことから,昨年度と同様に教育改善委員会と各学科の学科長にも本報告(案)の一読を願い，それに対する見解，意見を提出してもらい，本報告の最後に掲載した。

今回の卒業・修了時学生によるアンケート結果にも，本学部・研究科の授業や教員の教育方法に対して厳しい意見や，教育体制に関する建設的な意見が数多く含まれている。関係各位および教育改善委員会におかれては，カリキュラムの教育内容や方法の改善のためにはもちろん，教育体制の充実を図るためにも，それらを大いに参考にされることを望む。

## Ⅰ.学部卒業時学生対象　教育評価アンケート

### １．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学部の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，４年間この学部で教育を受け，今まさに卒業しようとしている学生を対象に，学部教育について総合的な評価を得ることを目的とした。

調査方法：指導教員をとおして研究室所属の学生にアンケート用紙を配布し，無記名方式で行った。回収は正面玄関に設置した回収箱で行った。

調査対象：平成 25 年 3 月学部卒業予定者 210 名

調査期間：平成 25 年 3 月 21 日～4 月 5 日

有効回答者数：132 名　（回答率 63%）

調査項目：設問は以下のとおりである。（ただし，下記の[　]の項目名は，回答結果の分析にあたってグループ化のために設けたものである。）

設問 1．あなたの所属学科をお答えください。

[学部・学科の教育目標等の認識]

設問 2．本学部の教育理念，教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3．あなたが所属する学科の教育目標および入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

(1) 教育目標について　　(2) アドミッションポリシーについて

設問 4．

(1)あなたが所属する学科の教育目標は添付資料の通りですが，学科のカリキュラム（21 世紀教育科目および専門教育科目）はその目標に合致していると思いますか。

(2)上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

[学科の専門教育について]

設問 5．本学部では年度初めに学年毎にガイダンスを行っていますが，ガイダンスの内容は適切だったと思いますか。

設問 6．シラバスは受講科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

設問 7.

(1) あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

[教員の指導について]

設問 8.

(1) 所属する学科の教員の，講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応に満足していますか（卒業研究については設問 15 で別に聞きます）。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 9．履修した科目の成績評価について質問します。

(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。

(2) 疑問や異議があったときは，学部教務に「成績評価の問い合わせ」を提出し問い合わせできることになっていますが，あなたはそれをしましたか。した場合，その回答に満足しましたか。具体的に記入して下さい。

[学生の主体的学習について]

設問 10．講義や演習の受講に当たり，あなたは 1 日平均どの程度の時間を予習や復習に当てましたか。教員が課した課題に対するレポート作成に要した時間も含みます。

設問 11．大学教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。

(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

(2) 実験・実習についてはどうですか。

(3) 大学在学中のカリキュラム（21 世紀教育も含む）の中で，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。それぞれについて簡潔に記入して下さい。

[学生への教育支援，施設・設備について]

設問 12．本学部や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，下記のような 10 のルートを用意しています。在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。（　）内に番号を記入して下さい。

(1) 学業（　　）　(2) 学生生活（　　）　(3) 進路（　　）

設問 13. 本学部図書室の利用について質問します。

(1) あなたは在学期間を通して，平均どのくらい利用しましたか。

(2) 以下の項目について，どのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

設問 14. 本学部の以下の施設について，どのように感じていますか。

(1) 下表の該当する欄に○を書き込んで下さい。

(2) 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

［卒業研究について］

設問 15.

(1) 卒業研究を行ったことに満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 16.

(1) あなたの卒業後の進路は次のどれですか。

(2) 本学部のカリキュラムで学んだことは，進路の決定にどのように影響しましたか。

(3) 本学および本学部の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

［本学部の教育のあり方について］

設問 17.

(1) あなたが本学部を卒業するに当たり，大学卒業者としての知識や学力を身に付けたと感じていますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 18.

(1) 本学部の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を，次の項目の中から一つを選んで下さい。

(2) 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

設問 19.

(1) 総合的に判断して，本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。

## ２．調査結果

### 設問１．あなたの所属学科をお答えください。

表１．各学科の卒業生と回答者数の推移

| | H24 年度 | | | H23 年度 | | | H22 年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 所属学科 | 卒業生数 | 回答者数 | 回答率（%） | 卒業生数 | 回答者数 | 回答率（%） | 卒業生数 | 回答者数 | 回答率（%） |
| 生 物 | 43 | 28 | 65 | 36 | 27 | 75 | | | |
| 分子生命 | 45 | 26 | 58 | 39 | 28 | 72 | | | |
| 生物資源 | 41 | 24 | 59 | 29 | 24 | 83 | | | |
| 園芸農学 | 44 | 31 | 70 | 38 | 19 | 50 | | | |
| 地域環境 | 30 | 19 | 63 | 31 | 23 | 74 | | | |
| 生物機能 | 0 | 1 | – | 3 | 1 | 33 | 39 | 35 | 90 |
| 応用生命 | 2 | 0 | – | 3 | 4 | 133 | 48 | 27 | 56 |
| 生物生産 | 2 | 3 | – | 2 | 1 | 50 | 52 | 36 | 69 |
| 地域環境 | 3 | 0 | – | 6 | 3 | 50 | 33 | 29 | 88 |
| 合 計 | 210 | 132 | 63 | 187 | 130 | 70 | 172 | 127 | 74 |

平成２３年度の卒業予定学生 210 名のうち、回答者は 132 名、回答率は 63%で、平成２２年（74%）、２３年（70%）と低くなる傾向にある。学科別では、園芸農学科が 50%から 70%に上昇したが、分子生命科学科、生物資源学科が 58%、59%と減少した。

**［学部・学科の教育目標等の認識について］**

**設問 2. 本学部の教育理念，教育目的および教育目標を知っていますか。**

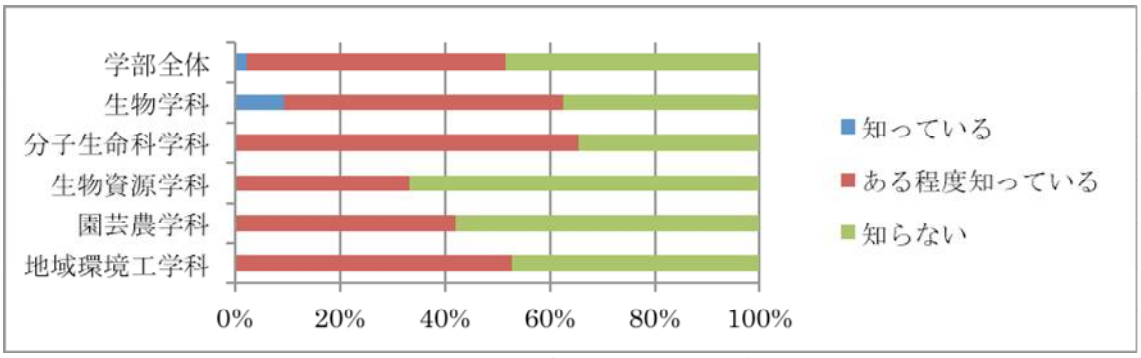


図１．理念、教育目的および教育目標の認識

学部全体で見ると、「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 50%強で、昨年度と比べて変化はない。しかしながら、生物学科と分子生命科学科が 60%以上と上昇したのに反して、生物資源学科が 40%以下に減少するなど、学科の間で大きな差ができている。学部の改組から２年目であり、ガイダンスや高校説明会などで、各学科の教育理念などを学生に地道に説明を継続する必要があると考えられる。

**設問3. あなたが所属する学科の教育目標および入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。**

**(1) 教育目標について**

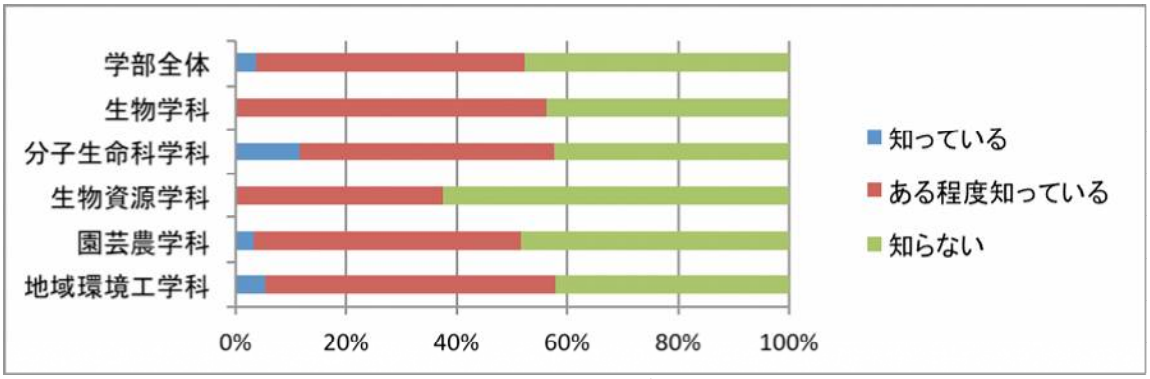


図２．学科の教育目標の認識

学部全体では、「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 50%強で、昨年度と比べてほぼ同程度であるが、生物資源学科が 40%弱と減少しているが、概ね学生にはガイダンスを通じて理解されてきていると考えられる。

(2) アドミッションポリシーについて

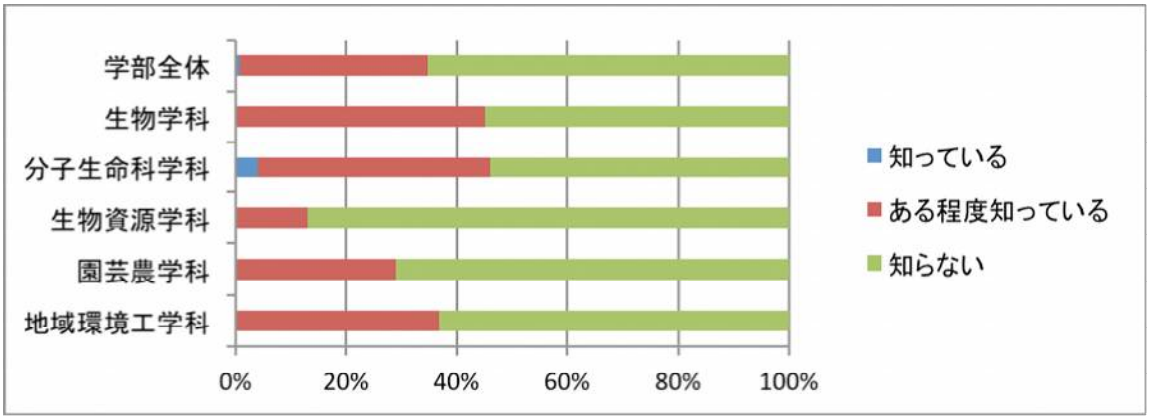


図３．学科の入学者受け入れ方針の認識

学部全体では，「知っている」と「ある程度知っている」の合計は 40％弱であり，昨年度とほぼ同

程度である。学科別では，生物資源学科が低かった。教育目標および入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）は昨年まで地域環境工学科が最も高かった。これは，JABEE に関連してガイダンス等で周知徹底が計られているために，その効果が表れていることを反映するものと推測される。これは、卒業後の進路にも関係してくる項目であるため、さらに周知されるような方策がとられることが望ましいと考えられる。

**設問 4．(1) あなたが所属する学科の教育目標は添付資料の通りですが，学科のカリキュラム（21 世紀教育科目および専門教育科目）はその目標に合致していると思いますか。**

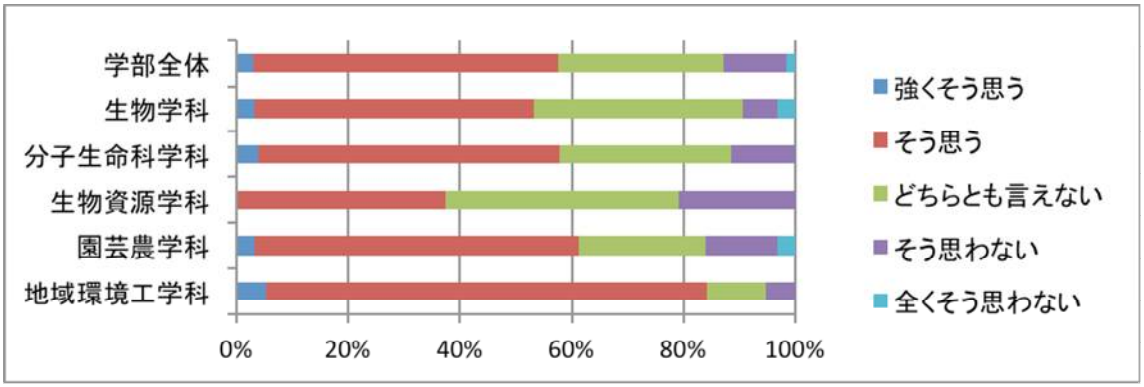


図４．学科の教育目標とカリキュラムの合致

学部全体で見ると、肯定的な評価が 80%を越えており、昨年度とほぼ同程度である。生物学科では向上しているが、生物資源学科では肯定的な意見が低くなっている。地域環境工学科では、昨年同様高い評価である。

**(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。**

**1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない**
**5. 全くそう思わない**

[生物学科]

1　泊まりがけの野外実習もあり，ここでしか学べない生物学を学べたから。
2　おおむね遺伝子工学の知見を扱っていた。
2　教育目標に沿ったカリキュラムだと思う。
2　生態学研究室に所属し，青森県の自然に実際に触れ，学習できた。
2　各先生方の授業の内容がその理念に沿っていたと感じたため。
2　いろいろな分野の勉強ができた。
2　自分がまずまずその目標を達成できた。
2　教育目標にあるような知識を得ることができたから。
2　21 世紀の授業内容（生物学の基礎とか）は高校生物・化学と同じでとてもレベルが低い。専門科目は充実している。
2　生命科学分野に関しては，基礎的なことを学ぶことができたからこそ応用力がついたと思う。農学分野のカリキュラムは，基礎が応用力がつきにくいと思う。農学分野も取り込むのであれば，基礎的な講義を増やすとともに，農場実習も必修にすべきでは。
2　植物や生物の生態をまんべんなく基本的なことから応用的なことまで学ぶことができるから。さらに知識を深めるために他学部（科）の授業を受けられるシステムがあるとなおよい。
2　講義を受けてそう思った。
3　どちらともいえないから。
3　特に目標に沿ってるとは感じなかったから。
3　目標が分からない。
3　実感しないが，言われればそうかもしれない。
3　選択必修が多いように感じる。もっと選択の幅を広げてもいいと思う。
3　分子・細胞レベルで生命現象を理解できているとは思えない。特に，卒業研究発表において，

自分自身が実験結果を理解できていないために，質問を受けても的外れなことを言うのが多かった。
3　まじめに勉強している人は，知識を身につけていると思うが，そうでない人もいるので。
4　教員が好きなように授業しているように感じるから。
5　まさか，こんな目標があったとは，授業からは全く伝わってきませんでした。大学側は，理念と授業の実体との溝をご存じなのでしょうか。授業は，結局先生たちがやりたいようにやっていらっしゃるだけでした。

［分子生命科学科］
1　生物系・化学系・物理系の全てを必修することで目標へアプローチしやすかったから
2　ある程度の広い分野において，取るべき単位が多かったため。
2　授業を受けていてそう思った
2　専門に関しては，やや疑問に感じる点もあるため
2　分野に偏らず，生命科学に関連する広分野の科目展開があるから
2　授業内容や，研究室での指導を受けている中で，カリキュラムが目標と合致していると感じた
2　海外の論文を読み，実際にそれで行われている実験をすることができたから
2　幅広く学べるカリキュラムであったため
2　表記されている科目については学べる適切な時期に学ぶことができたと思います
3　知識だけ学んでも実際に試してみなければわかりづらいこともあったから。
3　専門科目は幅広い範囲を扱っていて，目標に合致している一方で 1 科目の内容が幅広すぎる
3　目標が漠然としているから
3　最先端の技術や最先端の教育を受けたとは思えない
3　教育目標通りの指導や教育は行われていると思うが，学生がそれをあまり知った上で，勉強していると思わないから
4　別に最先端というわけではない。どこの大学でも普通にやってることしかやってない。むしろ，卒論・修論発表を見ていると，他大学よりクオリティが低いと思う
4　1 年次より実験室に配属し，自分で実際に実験を行いながら勉強ができる環境をつくるべきである

［生物資源学科］
2　疑問には思わなかったため
2　目標を達成するために学ぶべきことを学べるカリキュラムだと思う
2　きちんと内容にそった講義の実験を行っているから
2　食品系から植物土壌まで幅広い知識を学べることからも合致していると思う
2　教育目標の基盤となる学習にはなっていると思える
2　科目が専門的であり，それぞれの科目で参考文献などを紹介してくれるので，さらに専門的な知識が得られるような機会が与えられてるからです
3　昆虫学を必修にする意味が分からない
3　目標を知らないから
3　それぞれの専門の先生がそれぞれ好きに講義しているので，合致しているともいないともいえないと感じる
3　わかりません
3　（3）を満たすためにも，海外に行く機会等があるとさらによいと思う
3　なんともいえない
3　カリキュラムの内容は良いと思うが，問題解決能力などを養う機会がなかったように思うから
4　広く浅くという感じでイマイチ最終目的がわからない
4　座学の時間が多い。もっと実験の時間を増やさないと専門的な知識は身につかない
4　教育目標が達成できるほどの授業コマ数に達していないと感じたため。特に，教育目標達成のためには，1.2 年次の専門科目割合をふやすべきだと感じた
4　21 世紀教育科目を学習する意図があまり良く分からない
4　生物多様性保全の理解が良く分からない

[園芸農学科]
2　実習で生産を学ぶことができるし，経済についても，必修であるので，学ぶことができていると思った
2　学んだ科目が添付資料のとおりだったから
2　園芸は科学的な面と社会的な面どちらも幅広く学ぶことができるようになっているから
2　必修や選択必修で作物学・蔬菜学・花卉学・畜産学および生産機械学や流通などの経営経済分野を学から
2　授業を通してカリキュラムのようなことを学ぶことができたから
2　自分の学びたい分野だけでなく「農業」というくくりで，様々な方向から学べたので良いと思います
2　食と農業をめぐる課題や現状を幅広く学べたから
2　授業を通してそのように感じた
2　専門的な知識を身につけているという面で合致していると思う
2　幅広い授業選択が出来，経済的側面・農業（園芸学）的側面その他の側面から学ぶことが出来たため
2　教育目標に述べられている内容についての基礎はカリキュラムに含まれているから
3　授業のとり方によっては，偏った分野で単位取得できるので，実際，私は農業機械系の講義は1つも受講していません
3　全ての科目が目標に合致しているとは思わないから
3　合致していないところもあるため
3　多岐にわたる学習内容ではあったが，その分，実際的・応用的な学習は少なく思われる
3　専門教育科目については目標と合致していると考えるが，21世紀教育科目が合致していないと感じたため
3　テーマ科目が多いように感じ，時間の制限があったため
4　専門科目は良いとして，21世紀教育科目は不要に思えるものもいくつかある気がし，意欲がわかなかった。もっと幅広い選択ができた方が良いと思われた
4　幅広く農業について学べたから
4　幅広く学べるとは限らないため
4　1年間にとれる単位数が限られている
5　21世紀教育科目自体，意味のある授業だとおもわないから

[地域環境工学科]
1　JABEEの認定を受けた教育プログラムなので，目標を満たすに値する高い水準の専門教育を受けることができたから
2　どの教育科目についても技術者となる上で非常に重要であると感じたため
2　カリキュラムを通してそう思うから
2　専門教育を受講する上で，必要な基礎知識を身につけることができたので，いきなり専門教育を受けるよりスムーズに学ぶことが出来たと思う
2　実習や実験などを通して授業で学んだ知識をどう活かせるのかが分かるようになっているから
2　あまり偏ることなく幅広く履修するようになってたと思うから
2　学期毎にチェックしているため
2　講義の内容が教育目標にそっていた
2　農業に関する様々な知識を習得できる環境にあり，農業土木技術者を育成するにあたっては特に熱心に指導が行われていたため
2　生物学の知識や社会系基礎が必修であるから。ただテーマ科目の修得すべき単位数がやや多い気はする
2　本学科の理念と制度（JABEE），及び資格（測量士補）に準ずる科目であるため
2　幅広い分野の学問を学んだため
3　生態系や社会制度，環境保全についての知識はあまり得られないと思うから
3　目標を達成するには4年は短い気がする

**設問 5. 本学部では年度初めに学年毎にガイダンスを行っていますが，ガイダンスの内容は適切だったと思いますか。**

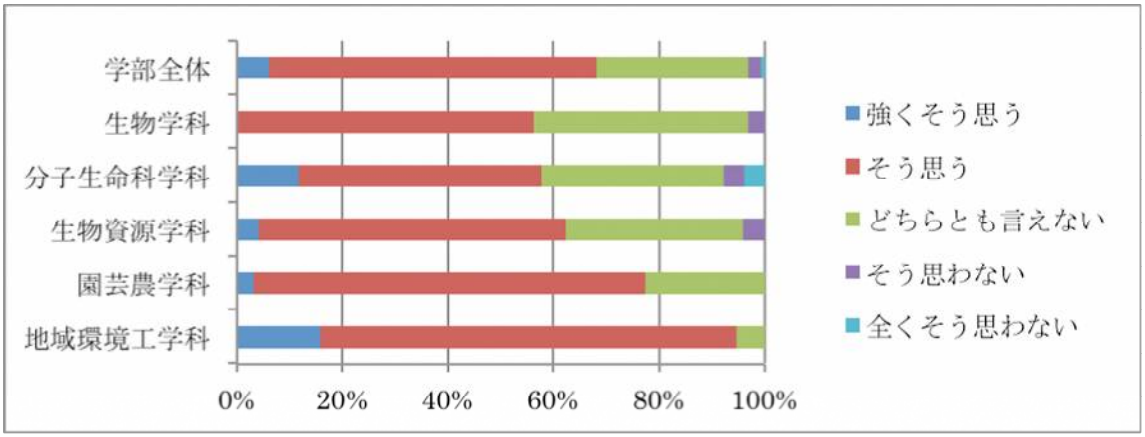


図５．ガイダンス内容が適切だったか

学部全体としてみると、肯定する意見の割合は昨年度よりやや上昇しているものの（70%弱)、園芸農学科と地域環境工学科の高い伸びに支えられ、むしろ他の学科は減少している。しかし、否定的な意見の割合は減少している。卒業単位に必要な科目はコースによっても異なるため、ガイダンスの説明には、さらに工夫が必要と考えられる。

**設問 6. シラバスは受講科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。**

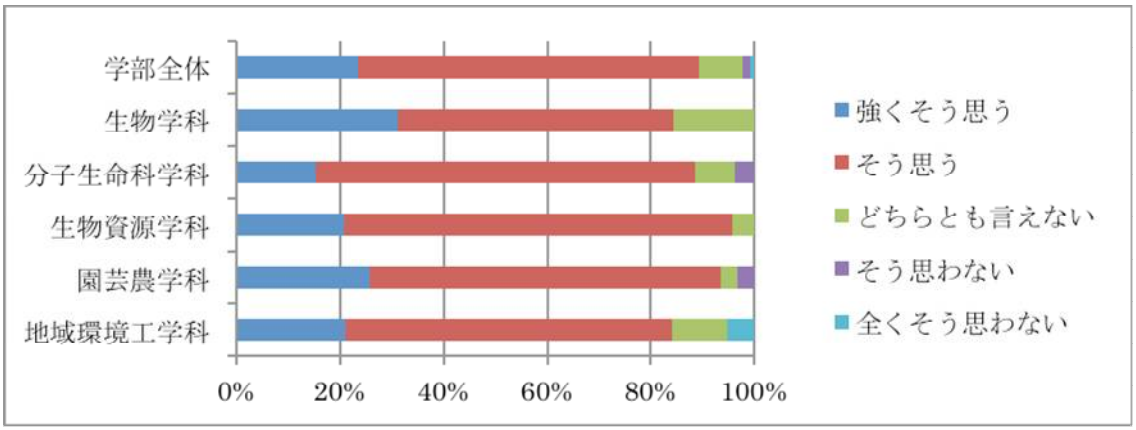


図６．シラバスは役立ったか

学部全体としても肯定的な意見が多く、昨年度よりも向上していることから、シラバスの書き方が統一され、内容も詳細に書かれるように向上してきていると考えられる。

**設問 7. (1) あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか。**

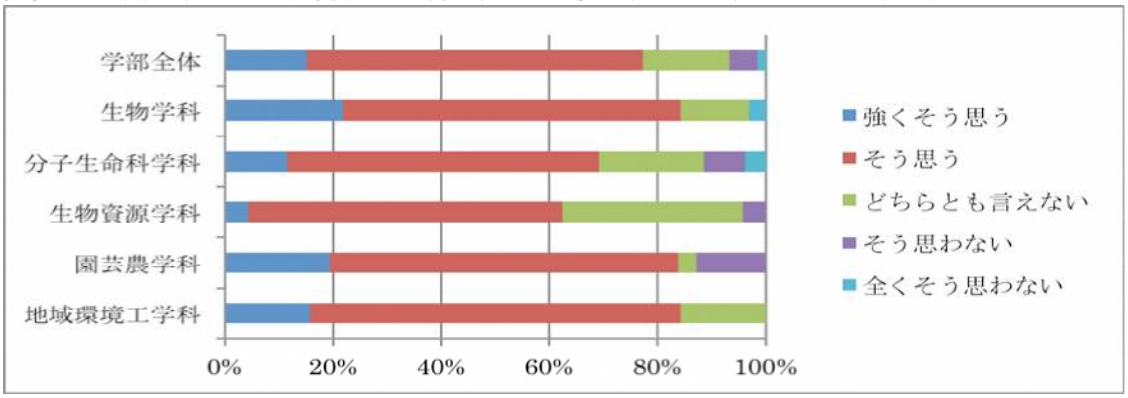


図 7．あなたが所属する学科で受けた専門教育に満足していますか

学部全体では, 肯定的な意見が 77%であり昨年度の 63%よりも上昇した。また否定的意見が一昨年

は 13%あったが，作年度は 6%,今年度は 13%と 10%前後で推移している。このことから一般的に専門科目に満足を感じてた。

**(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。**

**1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない**
**5. 全くそう思わない**

概ね好意的な回答が多かったが,「どちらとも言えない」の選択者で時間割の問題や,専門科目　の選択方法などに対する不満など,カリキュラム上の意見があった。今後改善してゆく余地がある　と考えられる。

[生物学科]

- 遺伝子工学の他，生化学の基本を学べた。
- 強く興味を持ったものについては，自分なりに深めていくことができたから。
- 研究内容が頭に強く残っている。
- 興味を持てる講義が多かった。
- 楽しかったから。
- 専門科目は多様な授業を受けられるのでおもしろかった。
- とても興味深い授業が多かったので。
- さらなる知識を得られたと思ったから。
- 自分の興味の持てる授業がたくさんあった。
- 専門的な内容の理解が深まった。城田先生のようなユーモアのある講義があっても良いと思う。
- 卒業研究に役立つため。
- 専門科目は，その分野を理解する上で必要な基礎知識。各分野における現状，展望など幅広く学ぶことが出来たと思う。
- 単位とるのは楽ですが，身につかない。もっと英語に特化してほしい。ゼミに入ってからの 2 年間は充実していた。そうすれば他大学に負けないと思う。2 年次までの授業は高校の延長しか感じない
- 結果的には自分の研究に合わない授業や合うものでも全然もの足りたい部分もあったが，全体的な知識の吸収には役に立った。
- とても興味深い授業が多かったから。
- 学科外でも興味のある授業を幅広く受けることができ，内容もわかりやすく説明する先生が多かったため。
- 生物学科の生態コースの講義をもっと充実させてほしい。
- 授業の内容自体は興味深く良かった。自分が興味をもった分野を詳しく知るために，他の授業が受けられたらなおよかった。
- 農学生命科学部という名前は，農学と生物学の融合だと聞いていました。実際は「農学のための生物学」でした。基礎生物を学びたかった私は残念に思いました。また，基礎と生態の 2 コースありますが，生態に比重かけ過ぎです。学科の教育目標に人材育成について書かれてますが，「生物の基礎的現象の～人材」（基礎，1 行未満），「生物が持つ多様性～人材」（生態，3 行）です。基礎生物で欲しい人材なんて 1 行もいらないぐらいでかたれるのですね。本当に基礎生物学をなめないでいただきたい。これは基礎生物で日本を世界を変えようとする学生に対する侮辱だと受け取っております。
- 興味を持っていたことについて良く知れたから。
- 教授の話（専門的な話）が面白く，教科書で学ぶ以外の勉強ができたから。
- 面白い講義もあって良かったと思う。

[分子生命科学科]

- どの教科も専門的で興味深かったが，もっと深い内容も知りたかった。
- 自分の興味のある分野だけでなく，周辺分野も含めて学べたため。
- 専門教育・研究などに興味のある学生にとっては，満足のできるものであったかもしれないが，私は特に興味がなかったので，満足はしていません。受ける学生によって意見は違うと思います。

- 知らなかったことがよくわかった。
- 自分のやりたかった勉強ができたから
- 生命科学の研究について，自分で考えて実験することができたし，教員の姿勢も勉強になった
- 専門によっては，難しすぎるところもあったため
- 自身が卒業研究を行う上で，学んだ内容がとても役立ったから
- 授業での説明が丁寧だから
- バイオインフォマティクスや，実験方法論の講義や教育があってもいいんではないだろうか
- 学生実験で様々な実験ができたから
- 満足しているものばかりでなく，特にカリキュラムに乗っ取っている講義もあったため
- 生命科学について広く知れたが，特に物理系の科目は21世紀で行ったことから飛躍しすぎていて，ほとんどわからなかったから
- おもしろかったから
- 入学前から興味のあったものが学べたから
- 自分の学科の講義は良かったが自分の学生は学科編成されて2年目だったので関係ないものや他学科の先生が少し冷たい講義もあった
- 他の興味のある分野が講義多過ぎて受講できなかたから。広い知識を要求するなら縛りすぎはよくないと思う
- 学びたい科目をきちんと勉強できたと思うからです

[生物資源学科]

- 学びたかったことが学べた
- 自分の進路を選択する上で役に立ったと思うから
- 分野が広すぎて中途半端になる気がする
- よくわからなかった
- 設問（4）と同様
- 途中で変更があったため
- 専門といえ様々な分野の授業で試験があるので，結局その場限りの暗記になってしまうから
- 興味のあることに関しての講義を受けることができたから
- 幅広く学習出来たため，今まで興味のなかった分野を知ることができた
- 特に学ぶ必要性を感じない教科が必修であることがあった
- 農学での幅広い分野での重要性を知ることが出来たと感じたからです
- 最終的に卒業研修をしていく中で，講義の内容が合致したり，興味深い講義を沢山受けることができたため
- 実験実習の単位が少ないと思うから
- 満足した授業もあれば不十分だと感じる授業もあったため
- 昆虫はいらない
- ゼミに所属するようになってからあらゆる場面で授業内容を活用することがあったため
- 満足はしたが，そう思わないものも多少あった
- 興味のある，またはそれに関連した科目は役に立ったが，その他の全く関係のない分野が必修になっていたから
- 専門的な知識は得られたと思うから
- 私のやりたい事が見つかり，その事柄について簡潔に分かりやすく教えて頂き，さらに参考文献も教えていただき，その参考文献が図書館にあって知識を深められたからです

[園芸農学科]

- その授業でのみしか学べないことが多く，有意義に感じるものが多かった。
- おもしろかったです
- 様々な分野の勉強ができたため
- 自分が興味を持った分野について学ぶことが出来たため
- 幅広い分野を学ぶことができた
- 薄くあるが，広い分野において知識を得たと思うから
- 様々な専門知識を身につけられた

- 大学の授業が板書しているだけだから。文字だけ見ても興味が出ない
- 科目による
- 資料や説明が丁寧だったから
- どの講義・実習・演習も楽しく受けることができたから
- 専門性を感じられなかった
- 知りたい事を学べたから
- 基礎的なことから，専門的なことまでを学べました
- 幅広く色々なことを学べた
- ニュースに関心を持つようになったから
- 実習が充実してた
- 実践的であった
- 実習や見学など座学以外にも様々に学ぶことができたから
- 興味のある授業を受けられたから
- それぞれの先生の専攻がより深く学べた。個性豊かな方が多く，面白かった
- 選択科目が多かったため，関心のある分野を様々学ぶことができたが，授業によってはあまり広く学べないものもあったため
- 経済系の科目が少なすぎる。「現状」についてなどの授業内容が多く，中途半端な知識しか身につかない。農業経済分野は農生に配置されていることを念頭に，経済経営ではできないようなことをやるべき
- 基礎的内容を広く学べたから

［地域環境工学科］
- 土木技術を学ぶ上で基礎からしっかり学ぶことができたため
- 専門科目の講義には満足しているが，研究室配属がもっと早ければより充実した専門教育を行うことができると考えるから
- 就職先でも役に立つ知識を 4 年間の専門教育で学ぶことができた
- もっと研究や実験・実習などがあると思ったから
- 卒業後も使う知識を学ぶことができたから
- 興味を持てたから
- 社会に出た際に役立つため。想像しやす
- 知らなかったことをたくさん学べた
- 設問（4）の理由と同じです
- 専門教育そのものは有意義であったが，最終的に自分自身がやりたかったことに合致しなかったため（転学科も考えたが，結局できなかったのも大きい）
- 不満なことはなかったから
- 農業土木を中心とし農村山間地など幅広い分野を学ぶことができたから
- 就職に有利な教育だと思う
- 将来的に実務として充分に発揮できる内容であると思ったため
- 楽しく学べたため

**設問 8.（1）所属する学科の教員の，講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応に満足　していますか（卒業研究については設問15で別に聞きます）**

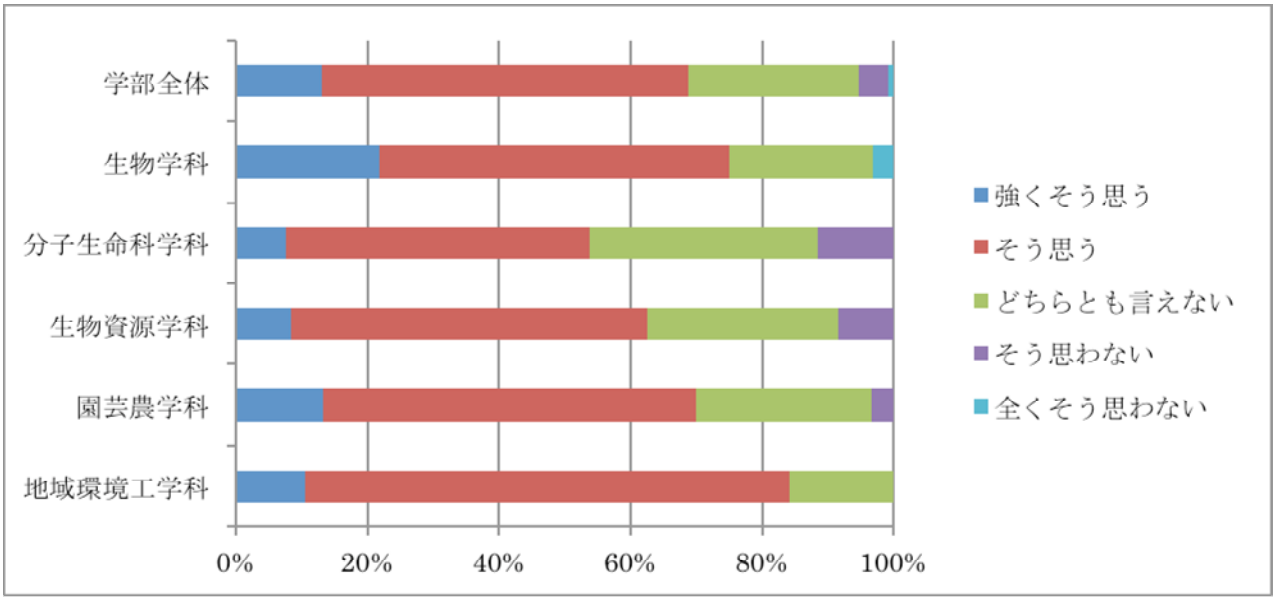


図8. 教員の指導や対応に満足か

学部全体では, 肯定的な評価が一昨年度の 57%, 昨年度 67%, 今年度 69%へと上昇した。また, 否定的な評価「そう 思わない」「全くそう思わない」は昨年度 6%, 今年度の 6%であった。このことから教員の 指導や対応に満足した学生が増加しつつ傾向がある。一方, 学科別に見ると昨年度は生物学科の「どち らとも言えない」の選択者が 44%と他学科に比べると高い値であったが, それは改良されているようにみられ, 今年度は分子生命科学に不満者が多かった。

**(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。**

**1. 強くそう思う 2. そう思う 3. どちらとも言えない 4. そう思わない**
**5. 全くそう思わない**

概ね教員の対応を評価する意見が多かった。一方否定的な評価をした学生の回答としては, 一部 の講義などでの対応や講義に対する不満が原因となったようである。

[生物学科]

- 講義はわかりやすかったものが多い。
- いろんな先生がいて楽しかったです。
- 研究や就活に配慮したカリキュラムを組んでくれた。
- お世話になった。
- 先生には感謝しております。
- 熱意ある親切な教員が多いため。
- テストが独特だった。
- 生物学科の先生は生徒への対応が丁寧ですばらしい。
- 教員により満足できたかどうか異なるため。
- よく面倒を見てくれた。
- パワーポイントを使用した講義などは資料をダウンロードできるように（全て）しておいてほしい。
- 先生が時間通りにこない
- 研究室を伺うと丁寧に教えてくれた。
- 講義等ではもちろん，授業についての質問などにも熱心に応じてくれた。
- 講義はつまらない。実習・演習は良かった。

- 一部ものすごくわかりにくい授業もあったため，「そう思う」にしたが，全体的には満足。
- 先生たちにOA機器の使い方をもう少しマスターしてほしい。
- 講義や実習で行う教育の域を超えて，困った時には様々な面で先生方がアドバイスなどをくれたので，とても満足です。
- 熱心にしどうしてくれる先生もいればまたこの逆もいるから。
- 熱心にご指導下さったことに感謝しております。
- 全体的に分かりやすく丁寧な対応でした。時々早口で説明されたり，あまり説明がなかったことがあり困りました。
- 大変素晴らしく，私にとって恩師である教員の方もいらっしゃいます。しかし，実際には，教える気がない，学生に興味がない人間がいたというのも事実です。ほとんど学校に来ない教員とか，その研究室の学生は本当に幸せだったのでしょうか。
- 楽しかったから
- 教員によっては講義の内容がわかりにくかった人もいたので。

[分子生命科学科]
- もう関わりたくないです。
- 各授業いよって指導の方法が異なっているため。
- 学生にわかりやすく教えようとしている教員もいるが，全然何を言っているのかすらわからない教員もいたので，授業科目によって違います。
- 行き過ぎた指導をしていると感じた教員がいたから。
- 親切だった
- あからさまに学生と話したり，授業するのが嫌いであるということを口にする教員がいる
- 講義・実習ともに，教員によってはあいまいな態度を示していたように思われる。時に講義にかんしては質問しにくかった
- 講義時間外であっても質問に対して丁寧に指導していただいたから
- 授業以外の時間でも真剣に指導してくれるため
- いい先生もいるけど，コイツダメだなと思う奴もいる
- 特に満足しない教員がいなかったため
- 特に問題はないが，質問はしづらいと感じた
- 教員によって差があり過ぎる
- 指導が丁寧だから
- 満足できる人もいるが，そうでない人もいる
- ほとんどの先生は平等かつ丁寧に指導して下さっていたが，教員によっては生徒の意見をまったく聞かず，最初から決めつけて文句を言う方もいたから
- 所属学科にあった指導だったと思います

[生物資源学科]
- 満足する科目としない科目があるため。勉強しても，きちんと評価されないとやる気がなくなる
- いつでも相談に乗ってくれる
- 様々な分野の実験ができて良かった
- 人によります
- 分からない所を聞きに行けば丁寧に対応してくれたので
- 分かりやすい講義だったと思うから
- 一概に満足したともしてないともいえないから
- 日常的に実技を行う習慣をつける土台となったからです
- 分かりやすく工夫をこらしたご指導がある一方で仕事だから仕方なしにしているのではないかと感じられる講義（21世紀科目でした）もあたため
- 基本的に講義などはわかりやすかったから
- 2年の学生実験へ不満があったため
- 一部教員のスライド。黒板が非常に見づらい
- 教授らは教授であって学校の先生とは違うため教え方には難がある。そのため教授も教育実習を行った方がよいとかんじる
- すべてにおいて，親身に対応してくれていた
- 分かりやすく，かつ，ユーモアや身近な話題をおりまぜてくれていたから

- 指導は適切であると思えるから
- 講義はわかりやすくて良いのですが，出席の確認の仕方や授業中の学生のおしゃべり等の注意が良くないと思います

［園芸農学科］
- 丁字な講義が多かったが，多人数の講義では教え方にムラがある，丁字さを欠く，わかりにくといったものもあった
- 先生によっては大分適当だったなぁと
- どの学科の教員よりも，丁寧に指導してくださったから
- 特に不満を感じなかったため
- 満足できる先生もいれば，そうでない先生もいるから
- 教員の中には学生を見下しているような人もいる
- 農場実習はとても良い経験でした
- 質問用紙の配布がある講義もあったりしてよかったから
- 先生によります
- 授業のわかりやすさにばらつきがありすぎる
- だいたいの先生が丁寧に指導してくれたから
- 質問をしやすく，丁寧に答えていただきました
- 実習や実験など，あらゆる分野で的確な指示を頂けた
- 熱心だったから
- きちんと指導してくれたから
- 親切な対応だと感じたから
- 様々な課外活動を積極的に行っており，大学内だけではない実際の現場を学ぶ機会を多く持たせてもらった
- 資料を多く頂けるので，復習等がやりやすく，多くの知識を身につけることができたため
- 人によりけり。学生の事を考えた授業をする人もいれば，いやみしか言わない教員もいる
- 教え方１つで学ぶ楽しさは変わってくるから

［地域環境工学科］
- 質問に行くたびに丁寧にご指導いただいたので
- 提出したレポートに対し，しっかりアドバイス（コメント）をくれるから
- きちんと指導してもらえたから
- 講義の進めるスピードや理解度をその都度受講者に確認しながら進めていたので，安心して授業に取り組むことができた
- 先生方はみなさんフレンドリーだったから
- 分からない所を質問しに行ったら丁寧に教えてくれたから
- 人によります（自分に合うかどうか等）
- あいさつを中心としたコミュニケーションがとりやすい
- 教員による
- 先生方は学科の人数が少ないこともあり，非常に全員に分かりやすいような講義や実習の体系を考えてくださっていたから
- その教員も親身になって質問や相談に答えてくれたため
- 講義の内容を聞きにいった際に，丁寧に対応してくれた
- スライドや配布資料を用いて分かりやすく説明してくれたため
- 板書，プリント，スライドを用いて分かりやすく説明してくれるから
- 実務上でも十分に発揮できるとおもったため
- 先生によるため

**設問 9. 履修した科目の成績評価について質問します。**

**(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。**

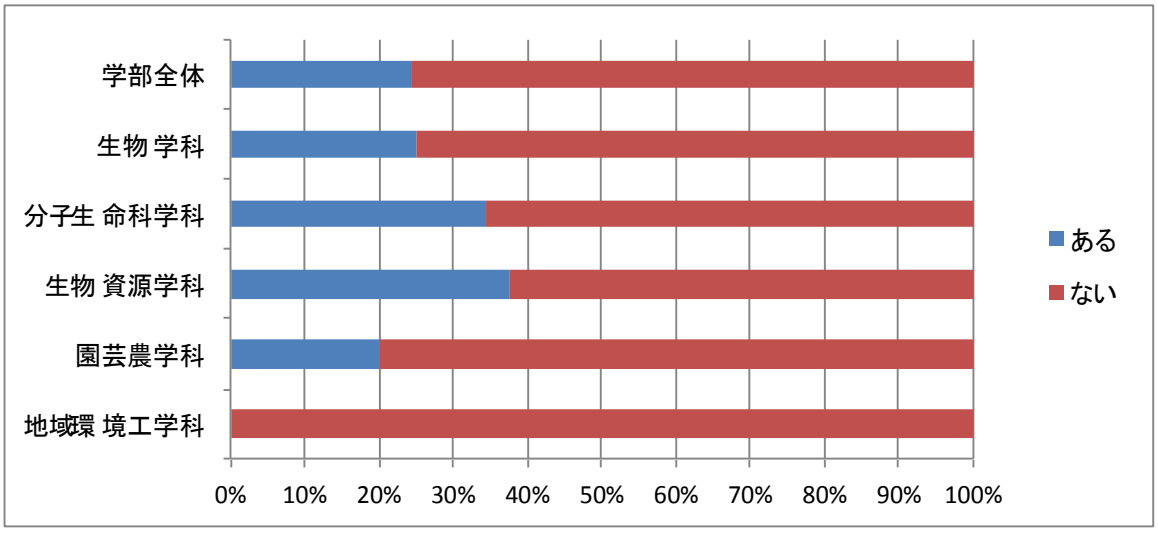


図9(１). 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはあるか

学部全体で成績評価に疑問があったと回答した学生の割合は 昨年度は29%であり, 今年度は24%とほぼ同じであった。

**(2) 疑問や異議があったときは, 学部教務に「成績評価の問い合わせ」を提出し問い合わせできる ことになっていますが, あなたはそれをしましたか。した場合, その回答に満足しましたか。具体的に記入して下さい。**

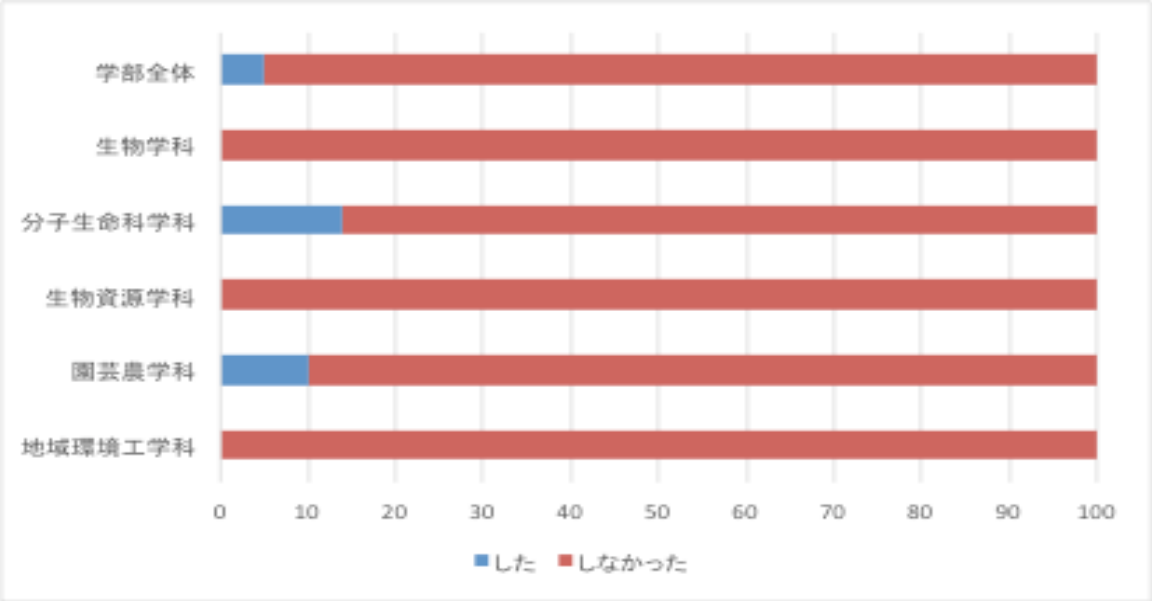


図9(2). 成績評価の問い合わせをしたか

学部全体では成績評価について 95%（昨年度 94%）の学生が学部教務に問い合ていなかったことが明らかとなった。自由記述の回答では教員や教務に行くことにより解決していた。

［生物学科］ ない

［分子生命科学科］

- 評価がされていない科目があったが，学務でしっかり対応して頂きました。
- 直接教員に話を聞きに行ったところ，自分が勘違いをしていたことや，今後のことまで相談にのってくれたため，満足しています。
- はっきりと自身の点数を述べられず，どの点が間違っているのかを把握できなかったため
- 問い合わせ方法がわからなかった。特に評価がその後に関係しないと感じたから

［生物資源学科］

- 教務の人の態度が悪くて相手にしてくれなさそう
- 問い合わせをしたことで，自分が不利になるのではと不安だったのでしなかった。また，問い合わせできることを最初知らなかった

［園芸農学科］

- 知らなかった

［地域環境工学科］ なし

**設問 10. 講義や演習の受講に当たり，あなたは1日平均どの程度の時間を予習や復習に当てました か。教員が課した課題に対するレポート作成に要した時間も含みます。**

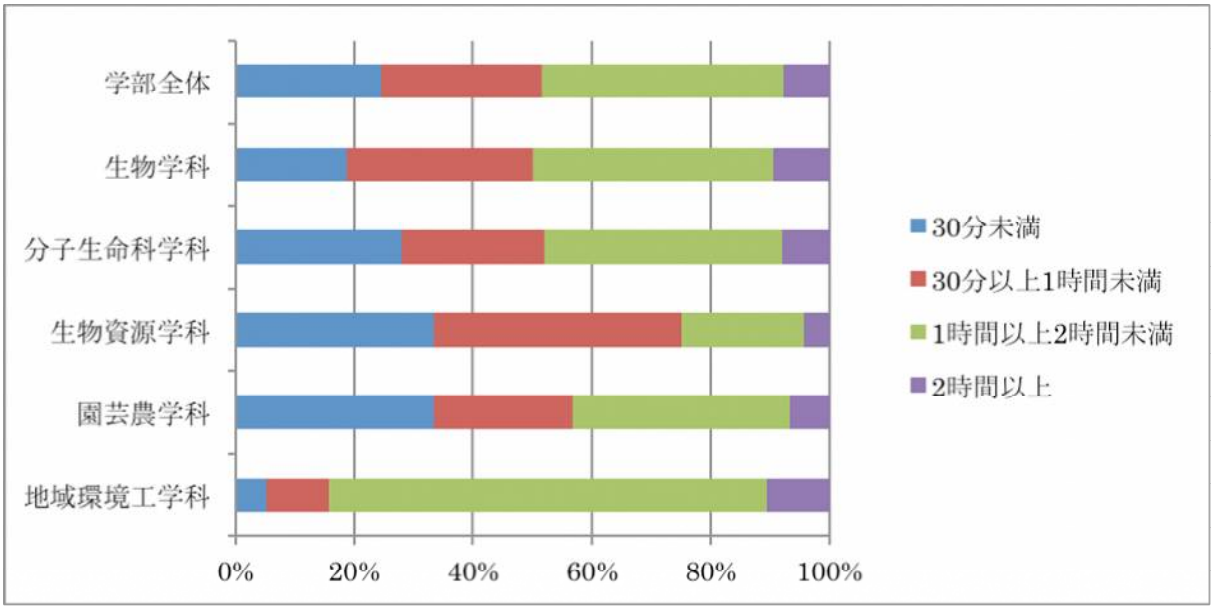


図10. 1日平均どの程度の時間を予習や復習に当てたか

1日当たりの予習・復習時間 学部全体で１日の学習時間が「１時間未満」と回答する割合はここ数年 60－70%で推移している（６０%→６５%→６７% → ６０%→５８%）。「30 分未満」の回答者が昨年度の 23%と同様に 24%もおり，また 2 時間以上が 7%しかおらず，大学生とは到底思えない学生が大半を占めている。単位認定を厳しくするなど，強硬策を取らないと学力低下が防げない状態に来ていると思われる。

**設問 11. 大学教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。**

**(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。**

昨年度の回答では,講義に欠席しないことが主体的で意欲的な学習であるという認識している回答が多く見受けられたが,今年はその傾向が更に高くなった。「板書を正確に写すこと」,「レポートをきちんと出すこと」,「試験をきちんと受けること」など,主体的な学習の認識としてかけ離れた回答も多い。これまでの小中高校の教育において,講義を受けることが学習であるという認識で学んできていると考えられる。講義から得た知識やから更に自ら学ぶという考えを広める必要があるのではないか。

[生物学科]

- 重要な知見を吸収しようとした。
- 必要と感じられることは自分でプラスして調べる。講義の内容の中で自分に必要ないと感じられることは参考までに。
- 先生の面白小ネタは，あまさずノートに記した。
- 積極的に取り組んだ。
- 全力
- 興味を深めるように
- 吸収できるものを多くするように集中した。
- 静かに真剣に
- 可がとれれば良いと考えていた。
- 何事にも疑問を持つこと。
- 予習復習を積極的に行った。
- 受け身な姿勢であった。
- 興味ある授業に関しては真剣に取り組んだ。
- 復習を必ずする。休まない。
- 授業にてできる限り理解を心がけた。
- がんばった
- 内容を理解しようと努力した。
- 予習はしなかったが，復讐は高頻度で行った。特に講義前は必ずノート・プリント等を読み返し前日の復習を行った。
- 気分は高校までの授業と同じ。与えられた or 紹介された試料以外は使用しなかった。
- 予習・復習が必要であれば必要に応じて。
- 先生の話をよく聞いて，ノートを取った。
- 出席点って意味あるの？と日々思い続けました。
- 意欲的に取り組んだ。
- 興味を持って取り組んだ。「なぜ」という気持ちを持っていた。
- 説明をよく聞き，まず内容を正確に理解することに努めました。
- あまり自主的に望むことはできなかった。
- やるべきことはちゃんとやる
- 受け身

[分子生命科学科]

- 興味を持って，取り組むことが多かったと思う。
- 講義だけでは内容が難しく理解しにくい部分があったため，関連専攻を自分で調べたりした。
- 基本的に全ての授業において予習をしたことはありません。ただし，専門英語や文献講読といった英語系の授業に対してだけは予習しました。
- 寝ないようにがんばった。
- 寝ないようにがんばった。
- しっかりと見に付くように取り組んだ
- 積極的に
- できるだけ数科目の内容を関連付けるような学習
- 仮ノートを作成し，その後丁寧に書きなおした
- できるだけ講義中に全てを吸収できるよう，どの科目でも前例で受講した

- 予習はしない，復習はする
- 講義をナメてました。あまかったです
- 講義を楽しもうという姿勢で受けたつもりです
- 単位とれればいいか
- 興味関心のあるものについてだけ，積極的に取り組んだ
- 1 年の頃は，さまざまな分野を学習出来たが，学年があがると，理解度や興味の違いで，集中できない講義があった。
- 提出物は期限 2 日前までに出せるようにしておく
- 講義にもよるが，予習復習を行っていた
- 予習は教科書を読む程度で復習は必要があると思った時に行った
- あらかじめ予習をし，わからないところを探しておいてそこを重点的に聞いた
- 講義によって様々でした。予習復習をきちんとした科目もあれば，全くしない科目もありました

［生物資源学科］
- 毎回出席した
- 自分の就職や成績のためにも頑張って勉強した
- 内容を聞きもらさずメモをとる
- ノートをとってテスト等に向け勉強できるようにした
- がんばった
- 受け身
- 覚えた方がいいと思った所はしっかり学習した
- やや受動的であった
- 先生の話をなるべく聞き逃さないようにした
- 重要なことはしっかり覚えようと努力した
- 毎日来ることを心がけました
- 受け身の姿勢がほとんどでしたが，自分のペースでできたのがありがたかった
- 興味・関心のある科目に対しては主体的・意欲的に取り組んだ
- 興味のある講義には意欲的に取り組んだ
- 単位がとれるような姿勢
- 興味のあるのもはもちろんだが，ある程度単位がとれそうなものを中心に講義に取り組んだ
- かなり受け身だった
- 遅刻・居眠りをしないように心掛けた
- 興味的な意欲が注がれる内容に関しては積極的に学んだ
- 予習を行っていたものは少ないですが，講義でわからなかった点は教科書等で調べていました

［園芸農学科］
- ものによってはしっかり受けた
- 単位くれ
- 講義により意欲がちがった
- 3 年次以降から，事前の予習や復習をし，意欲的な姿勢で取り組んだ
- 自分の目指す研究室の分野以外の科目であっても，幅広い視野を持って学ぶように意識しました
- 無遅刻・無欠席を心がけた
- 意欲的に取り組んだ。
- とりあえず出席をし，授業を聴く
- レポート提出やテスト勉強といった単位取得に必要最低限の学習しか行ってこなかった
- 積極的に
- できるだけ講義の理解をするよう努めた
- しっかり見て，聞いて，必要に応じてメモをとったり，ノートに写したりしながら取り組んだ
- 受け身
- きちんと話を聞き，メモをとりながら取り組んだ
- 少しでも内容を理解し，整理できるように
- 真面目に取り組もうと努力はしたが，居眠りをしてしまうことがあった
- 全ての授業に出席することを心がけた
- 聞き逃さないように

- 授業の中で１つ１つ学んでいくという姿勢を大事にした
- 聞き逃さないようにした
- できるだけメモをとる
- 休まないように気をつけた
- 基本的に自分の関心のある科目を選び，予習はほとんどしなかったが，復習はテスト期間問わず行った
- 単位がとれればいいと思っていた。その中で，興味のある授業だけしっかり勉強した
- 受け身に周りがちで，意欲に欠けていた

［地域環境工学科］
- 単位を取得すべく，真面目に取り組むことを心がけていました
- 講義の前日に前回の講義の内容を簡単に復習
- 講義の前日に前回の講義の内容を簡単に復習
- 主体的に取り組んだ
- 予習・復習を怠っていた時の方が多かった
- 知識を身につけようと取りくみました
- 先生方の話す内容のうち，大事な所を聞き逃さないように注意した
- 講義中にある程度理解しようとしました
- 前に座り，自分自身に鞭をうつ！
- 単位取得のために必要な姿勢
- 分からないことは聞く。真面目に取り組んでいました
- 積極的なものもあれば，消極的だった講義もある
- 真面目に取り組んだ
- 講義の内容を理解できるように，自分なりにかみくだきながら受講した
- 復習はそれなりにした

**⑵ 実験・実習についてはどうですか。**

実験・実習については，「積極的に取り組んだ」と捉えられる回答が多い傾向であった。

［生物学科］
- 手早く課題を出そうとしたが，うまくいかなかった。
- 釈迦に出てからも必要なことが多く，時右ｂんの意識次第でプラスにできる。
- 他の人が誰もやりたがらなかったので，これ幸いと色々やらせてもらった。
- 積極的に取り組んだ。
- 全力
- 将来困らないように
- 事前の予備知識の習得に力を入れた。
- 楽しかった
- 良以上を取りたいと思っていた。
- 少人数での実験は主体的に行う良い機会だった。
- 自ら学んだと思う。
- 同じ
- 集中して取り組む。友達と議論する。
- 一度しかないのでとにかく集中。何が起きているかを理解できたか後に見直しをした。
- たくさんした
- 積極的に取り組んだ。
- わからないことは自分で調べることを基本とするが，それでも解決できなかった場合，友達と討論した。
- 興味がもてないものについては意欲的ではなかった。ただ，最低限のことは行ったつもりである。
- 同じ
- 仲間と協力しながら，楽しく，真面目に取り組んだ。
- 楽しかった

- 実験も実習の努力した。
- 実験や実習が終わってから，経験したことや得たデータについて考えたりさらに調べるようにしていた。
- 説明を良く聞き，手順方法をおさえ自主的に行うことに努めました。
- 同じグループの人と協力して考えながら取り組めた。
- 不満はない。比較的真面目に取り組んだ。
- 受け身

［分子生命科学科］
- 主体的にはできなかったと思う。
- 1つ1つの操作の異議を考えて，常にやっていることが理解できるように努めた。
- 予習が必要そうな実験については予習した。
- おもしろかった
- 楽しくできた
- 積極的に
- に同じ
- 実験について詳しく話を聞いた
- 他人任せにせず自分で実験操作をしたり，率先して意見することを心がけた
- 進んで先生に質問できなかった
- 十分だと思います
- に同じ
- 研究室の雰囲気わかればいいか
- もっと増やした方が良いと思う
- 意欲的に行えたと思う
- 班のメンバーと主体的に取り組んだ
- 真面目に取り組んだ
- 分からない時には積極的に質問した
- 教員の注意事項に従い，積極的に質問をしながら実験に取り組んだ
- 自ら論文を探し，常に知識を増した
- 予習をして本番慌てないように気をつけてました

［生物資源学科］
- 積極的に行動できた
- 実験は班ごとに行っていたので，みんなと協力しながら失敗しないように行った
- 分からない所は聞く
- できるだけ理解して取り組めるようにした
- 指示通りにやった
- 受け身
- 先生方の話を聞き，失敗のないよう心掛けた
- 受動的であった
- 実験の際，その実験の目的や原理を理解しようと努めた
- 自力で全てできるように話を聞き実験・実習を行った
- に同じ
- 協力して実験する際，メンバーの域が合わないことが多々あり苦労した
- 主体的・意欲的に取り組んだ
- 実験の意図がわからないものが多かった
- 早く帰りたかった
- ある程度力を入れたが，さぐりを入れる程度
- 積極的に取り組めたと思う
- 実験結果から自分なりの答えを出し，周囲と討論した
- 周囲の人間との協調を試みた
- 実験予定表が配られていたため，実験当日の予習を行っており，実験後はノートに記録していました

［園芸農学科］
- 予習を行うなどし，意欲的に行った
- 単位くれ
- 興味深いものだったため，意欲的に取り組めた
- 知らないことを知れて，ためになった
- 就職活動と実験の両立はとても大変でしたが，空いた時間を見つけ，効率的に取り組めたと思います
- 自ら動くよう努力した
- やろうという意欲はあったが，次どんなことしたら良いのか分からない時には作業をまかせてしまうこともしばしばあった
- 一生懸命取り組んだ
- 自ら進んで行動
- 主体的に取り組んだ
- 楽しかった
- 自分でやるべきところは自分でやるよう努めた
- 説明を良く聞き，それに従って行った
- 受け身
- 手順のとおりに協力して取り組んだ
- 作業の意図をりかいするとともに作業を楽しむこと
- 楽しく取り組めた
- 積極的に取り組んだ
- 楽しかった
- 常に真剣に取り組んだ
- 安全に注意した
- 積極的に参加。わからないことは質問する
- 楽しんで行うことができた
- 実験・実習の目的を意識して行った
- 実験・実習には興味がなかったので，最低限の姿勢で取り組んだ
- 意欲的に行動し，体を動かしていた

［地域環境工学科］
- 学んだことを実際に実験・実習することでより深めようと心がけていました
- 参考書などを図書館で借りてたらない知識を補った
- 友達と協力しながら取り組んだ
- 専門的な実験・実習に触れて
- グループでの活動が多かったので，チームワークを大切にしました
- 実験・実習はグループで行うことが多かったので，同じグループの人達と協力し，スムーズに進められるようにした
- よくわからない状態では取り組まないようにしました
- 主張はした！
- 実習では緊張感をもって取り組んだ
- に同じ
- ほとんど積極的に取り組んだ
- 周りの人に任せる感じだった（実験）
- 積極的に行動しようと努力した
- 真剣に取り組んだ
- に同じ
- 一生懸命取り組んだ

**(3) 大学在学中のカリキュラム(21 世紀教育も含む)の中で，もっとも印象に残った科目があれ　ば，その科目名と理由を記入して下さい。**

実習系の科目の印象が良い結果であった。特に園芸農学科は農場実習の回答者が非常に多く，

満足度の高い科目であったことがうかがえる。

［生物学科］
- 進化生態学
- 動物行動学
- 複数ある。
- 体育
- 読書論は趣味を学ぶことができておもしろかった。
- ドイツ語→友達が優しい先生をキレさせたから。
- 生物学実験
- ドイツ語→大学に来て初めて教師に怒られたが，その後，授業をしっかりやって無事単位をもらえた。
- 東日本大震災復興論→大学の力が問われたときに，有効なひとつの対策を打ったと思う。
- 実験
- 臨海実習→3 泊 4 日で楽しかった。
- 卒業研究→自分が希望した研究室で，2 年近く，興味があることをできた。
- 進化生態学→全て英語だったから。課題やテストも英語で課せばよかったのに。
- 生物学実験→単純におもしろかった。
- テーマ科目：民族音楽の世界→実施に音を聞けて色々な音楽があるんだなと，おもしろかった。
- 英語(21 世紀の)→朝早く学校に行く能力があれば高評価，英語ができても早起き苦手なら低評価。最悪。
- 生化学Ⅱ→先生の話がおもしろかった。
- 芸術の世界（テーマ科目：岩井先生）→自分の知らなかった興味がなかった世界をみることができた。とても美術分野に興味を持つことができ，新たな世界が広がった。
- 食品栄養学→食品成分や食品表示など普段分からなかったこと気になっていたことが分かり，これからの生活にも活かせると思ったから。　臨海実習→泊まりで実際に海に入って生物を採取したりと普段出来ないことを体験できたから。
- 基礎ゼミ→学生自らテーマを考え，課題に挑むというのが大学らしいと思ったから。
- 生物学実習→現地にての勉強はおもしろい。

［分子生命科学科］
- 学生実験全般→実際に作業が伴うため学べることが多かったため。また，自分の興味のある部分だったため。
- 生化学Ⅱ→この授業を担当した片方陽太郎教授は授業中に学生が飽きないように時々雑談も含めてくれたのでとても楽しく授業が受けれました。
- 酵素科学→酵素系の勉強をしたいと思っていたから。
- ゲーム理論
- 分子機能科学→ひきつけられた
- 植物生理学Ⅰ→授業内容もわかりやすく，質問にもきちんと答えて下さったのが印象的でした
- 生化学Ⅱ→身近なものを題材とし，学生目線の指導で大変楽しく分かりやすかった
- 食品栄養学
- 生化学Ⅰ→陽太郎がおもしろい
- 東日本大震災復興論→実際に被災地に行って，ボランティア活動をする機会があったから
- 化学の基礎Ⅱ (A)→高田先生の教え方がすごくわかりやすかった
- 学生実験→大学に入って初めての実験だったし，レポートの大切さを痛感させられたので
- 生物学

- 化学の基礎Ⅱの片方先生の講義。授業だけでなく，社会の生き方なども教えてくれた
- 糖鎖工学→板書きから説明から進行まですごくわかりやすかった
- 食品科学→これで食品に興味を持ちました

［生物資源学科］
- 農生概論Ⅱで白神山地に行ったこと。初めて白神山地に行ったので，良い経験になった

- 応用昆虫
- 応用昆虫学→言わずもがな
- 応用昆虫学→レジュメが全て英語だったので
- 病害管理学→今後の農業はどうするべきか自分で考えるようになったからです
- 作物生理学→最新の知見などを分かりやすく紹介してくれて非常に有意義であったから
- 生物有機化学Ⅰ→テストが難しすぎた
- 植物育種学Ⅰ→1年生には内容が重すぎる
- 応用昆虫学→単位がとりずらく，勉強も大変で非常に苦労した思い出しかないから
- 食品分析学→身近な話題が多く，覚えやすかったから
- 食品安全学→授業が面白く簡潔に分かりやすかったです

[園芸農学科]
- 農業思想論→独学等では学べないものなので良かった
- スポーツファーストエイド→テストで行ったシンフロナイズドAEDが楽しかったから。
- 専攻実習→実際に体を動かし，体験することで良い経験となった
- 作物生理学→自分の努力と相応な評価をしてもらえて，とても嬉しかったから
- 津軽学→青森県ならではの科目だと思いました。実践的な内容になってたらもっと良くなると感じました
- 歴史学→先生が一切板書をしないため，ノートをとるのが大変だったが，話すのが上手で学ぶのが楽しかったから
- 農場実習→日常ではなかなかできないことなので，とてもいい経験だった
- 現代オセアニア論→それまでの考えを覆させられるような興味深い講義だったから
- 農場実習→普段は絶対に出来ないことを体験でき，農業者の苦労を知ることができた
- 社会と私？キャリア系の講義→飽きのこない講義でした
- 農場実習→普段絶対にできないような体験をさせてもらった
- 農場実習
- どれもおもしろかった
- 経済学の基礎（飯島）・思想文学の世界・地域農業戦略論（澁谷）・農業経営管理論（吉仲）
- 園芸農学実習→実際に農場で，果樹・蔬菜・畜産・作物と幅広い内容を体験・学習できたから

[地域環境工学科]
- 地域環境工学実験
- 地域環境工学実験→様々な実験ができたことはとても貴重だったし，何より座学だけで得た知識が理解しやすくなった
- 数学の基礎Ⅱ（B）
- フランス語→初めて英語以外の言語を学んだから
- 人間のこれから→唯一，他学部他学科の人とグループを組んだ科目だった気がします
- 構造力学Ⅱ→教員の生徒に対する好き嫌いが見てとれた
- 農場実習→私がいた地域環境工学科ではなかなか触れることのできない分野について実際に体験することで学ぶことができたから
- 水圏生態学，保全生物学，山間地環境計画学
- 技術者理論→深い話だったから
- 国際地域を考える（C)→先生の話がおもしろく，授業内容がすんなり理解出来た
- 生物学の基礎（C)→必要な科目であることは承知の上だが，その内容が，自分の学科の内容とは無関係だった点に疑問
- 最新医学の現状が医療に比較的興味があったので印象に残っている

**[学生への教育支援，施設・設備について]**

**設問 12.本学部や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談･苦情を受け付けたり，皆さん のニーズを把握するために，下記のような10のルートを用意しています在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。(　　) 内に番号を記入して下さい。**

**(1) 学業**

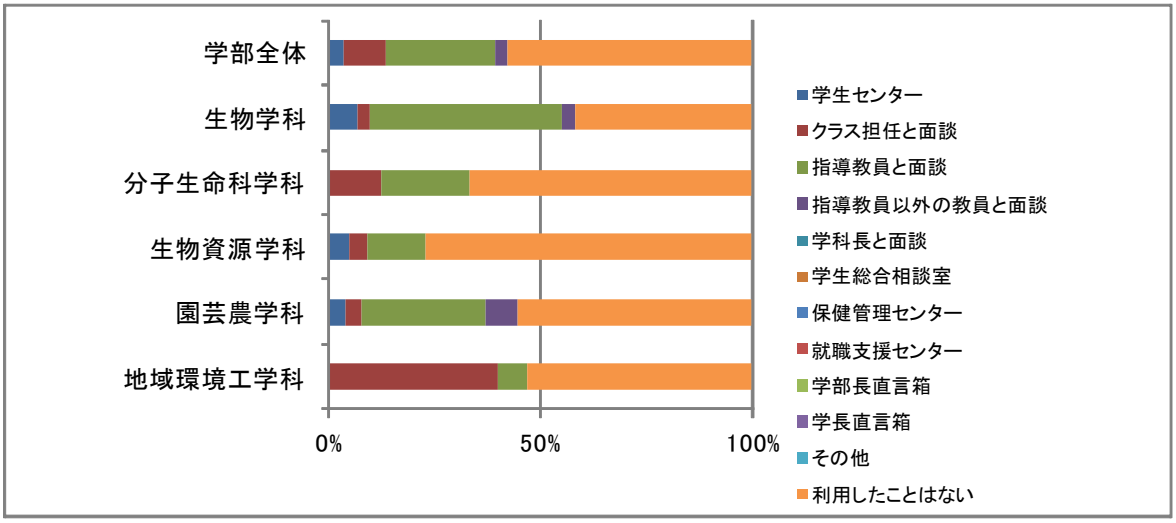


図12(1)．学業に関する相談窓口

学部全体では昨年度，一昨年，昨年と同様に半数の学生が利用したことがないとの回答であった。最も相談対応として多かったのが「指導教員との面談」で 26%であった。これは昨年度と同様（31%）であり，学業に対する相談は卒業研究などのこともあり，指導教員が重要な役割を果たすことが　わかった。地域環境工学科は他学科と異なり「クラス担任と面談」が 40%と高いことである。このように利用が多いということは，学生　が気軽に相談や助言を求めやすい工夫をおこなってきた成果であると考えられる。

### (2) 学生生活

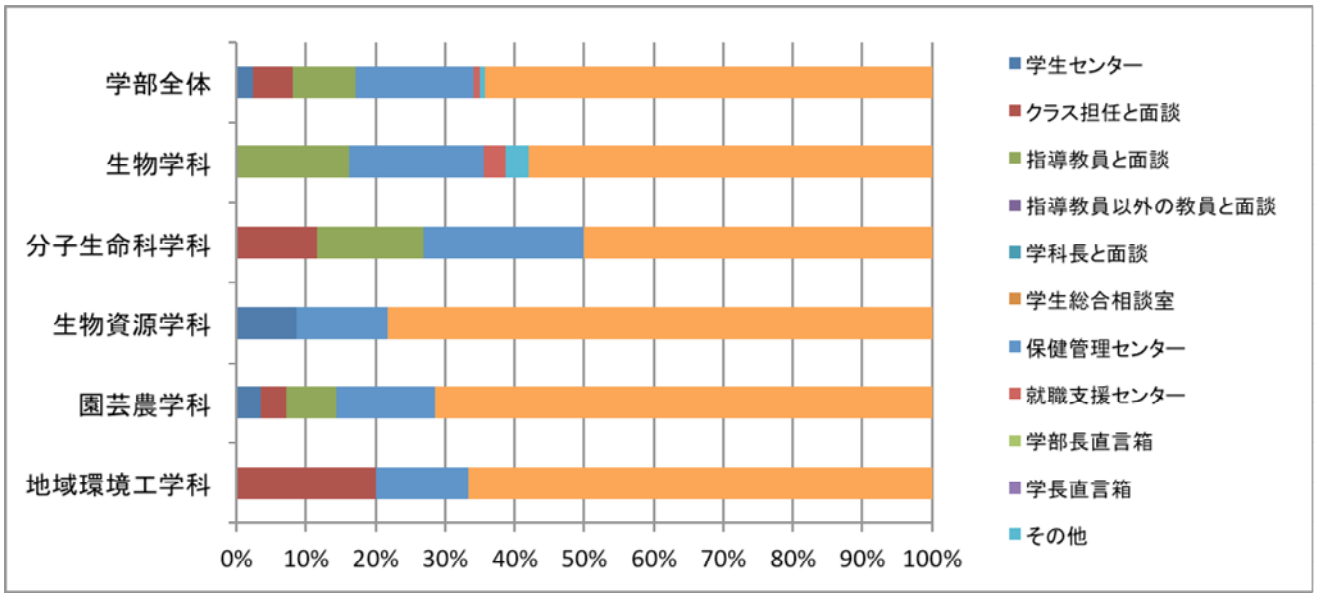


図12(2). 学生生活に関する相談窓口

学部全体では「利用したことがない」の割合が 64%であり, 昨年度(54%)から減少している。最も利用が多いのは「保健管理センター」で18%あった。次いで「指導教員との面談」であった。

### (3) 進路

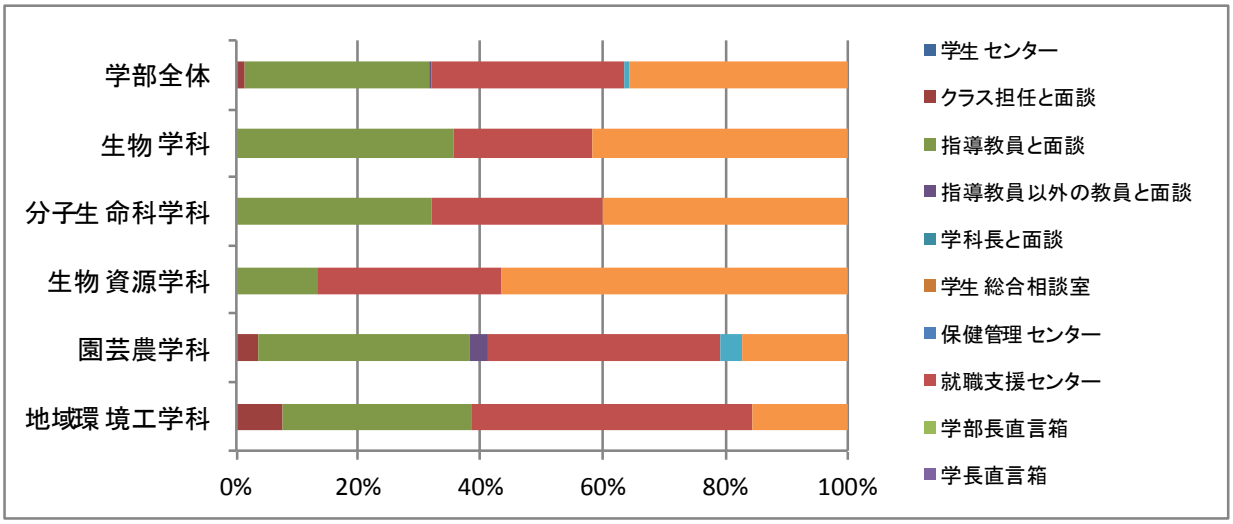


図12(3). 進路に関する相談窓口

学部全体で進路についての相談を「利用したことがない」が一昨年度は35%であったが, 作年度は22%, 今年度は 36%であった。年によるばらつきが多くみられた。最も回答が多いものは「就職支援センター」で 17%であった。

**設問 13. 本学部図書室の利用について質問します。**

**(1) あなたは在学期間を通して，平均どのくらい利用しましたか。**

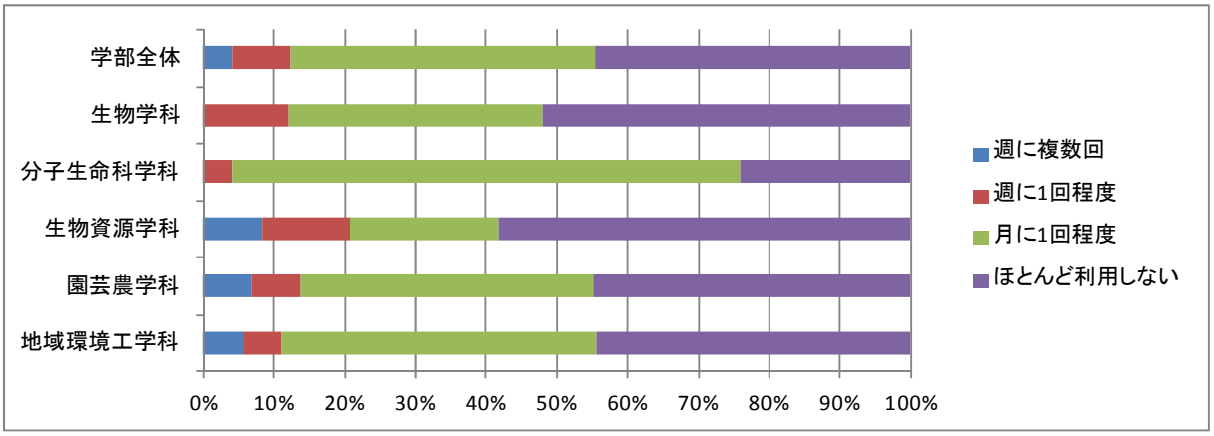


図 13(1)．図書館の利用頻度

図書館の利用頻度を学部全体で見ると，「ほとんど利用しない」との回答者が 45%であり，一昨年度（54%）から減少傾向にある一方、週に 1 回以上利用する学生は 12%にすぎず、やはり減少傾向にある。これに対して，「月に 1 回程度」の学生は 43%と昨年度より増加した。「ほとんど利用しない」学生は，生物資源学科が 50%以上で昨年度と同様に多く，分子生命科学科は 24%で昨年度（52%）と比べて顕著に減少した。

**(2) 以下の項目について，どのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。**

**1. 所蔵図書（和書および洋書の単行本）**

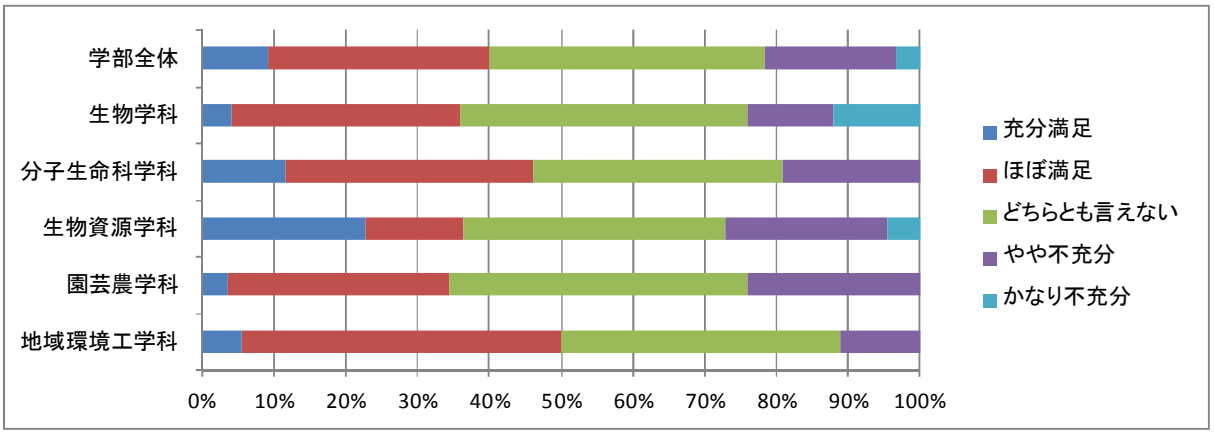


図 13(2)．所蔵図書

学部全体では，「充分満足」および「ほぼ満足」の合計が 40%，「やや不十分」あるいは「かなり不十分」といった否定的評価が 21%であり，いずれも昨年度とほぼ同じであった。「どちらともいえない」という回答は 38%であり昨年度と同様に高く，図書館の利用頻度自体が低いためと考えられる。否定的な評価の割合は，園芸農学科や生物資源学科で多かった。否定的評価の理由としては，蔵書数の少なさに加えて新刊書の少なさが指摘された。

**2. 閲覧スペース**

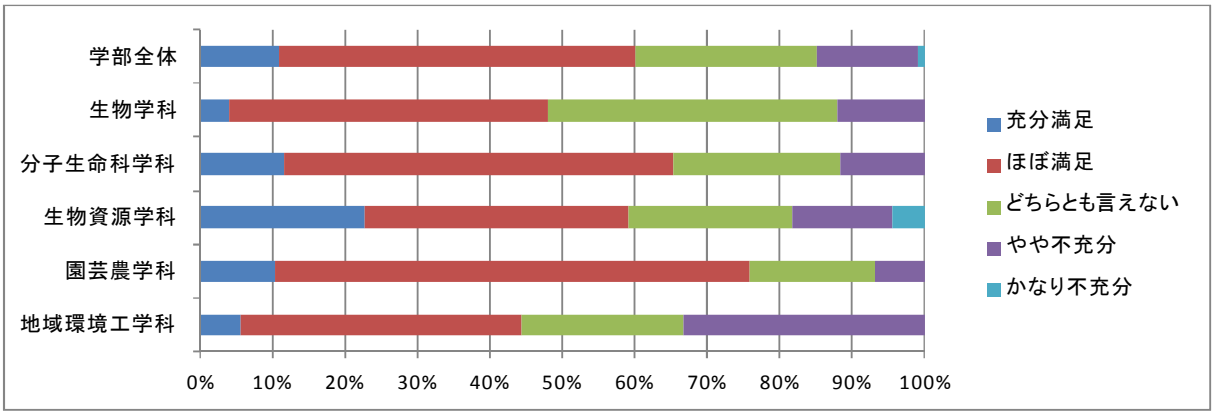


図 13(3)．閲覧スペース

学部全体では，「充分満足」と「ほぼ満足」の回答者 60%に達し，一昨年度（49%）から増加が続いている。「やや不十分」と「かなり不十分」は 15%で，ほぼ昨年度と同じであった。否定的な評価の割合は地域環境工学科で最も多く，園芸農学科で最も少なかったが，昨年度とは異なる傾向であった。

**3. 開館時間**

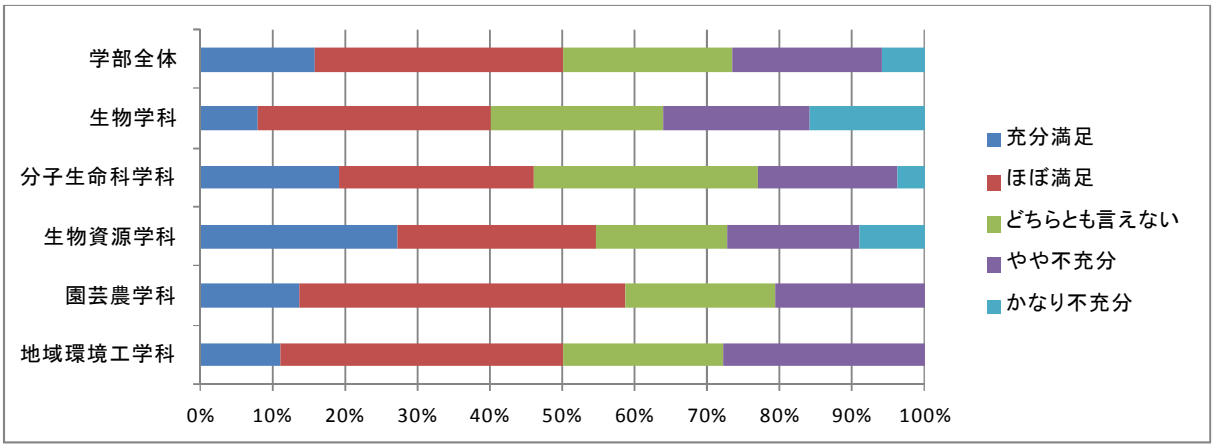


図 13(4)．開館時間

学部全体では，「充分満足」と「ほぼ満足」を合計した肯定的な評価が 50%であるのに対し，「やや不十分」と「かなり不十分」は 27%で，満足度は昨年度より若干増加し，一昨年度と同程度であった。否定的評価に関しては，生物学科が最も高く，園芸農学科で最も低かったが，昨年度とことなる傾向であった。

**設問 14. 本学部の以下の施設について，どのように感じていますか。該当する欄に〇を書き込んで下さい。**

**1. 講義室**

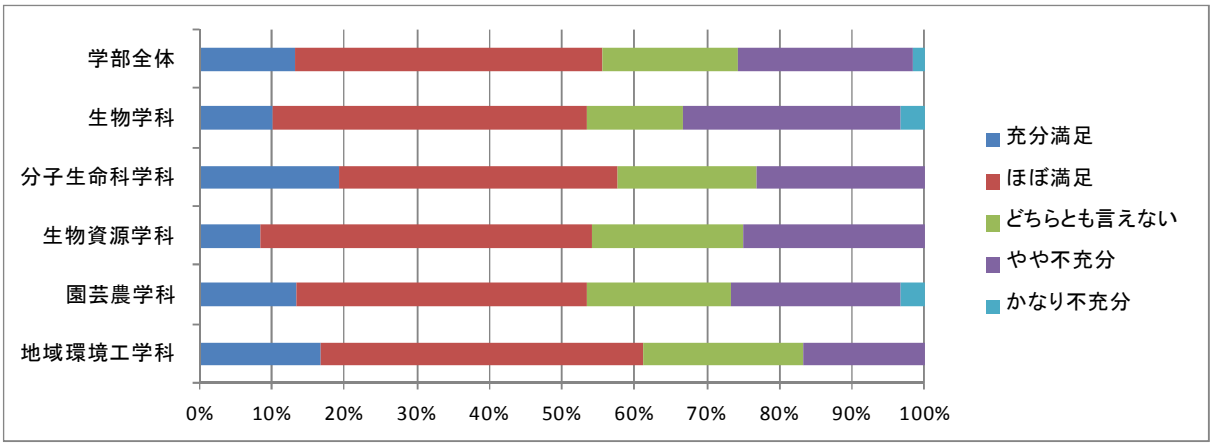


図 14(1)．講義室

学部全体では，肯定的な評価が 55%で昨年より３%回復したものの，３年前（67%）から減少傾向にある。否定的な評価 26%で昨年度より４%増加し，３年前（17%）から増加が続いている。各学科とも例年と同様に講義室の冷暖房に関する不満が多かった。

## 2. 実験・実習室

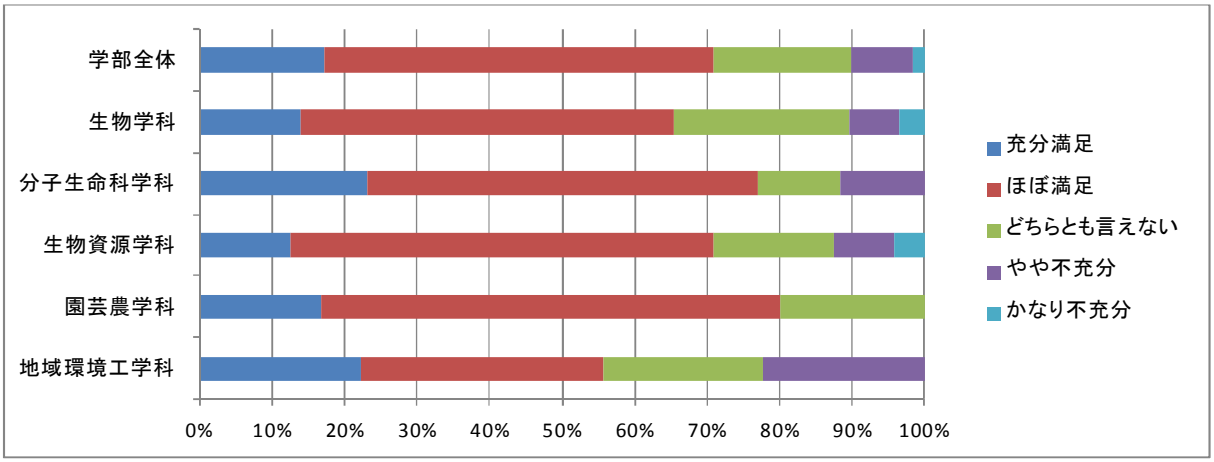


図 14(2)．実験室・実習室

学部全体では，肯定的な評価は経年的に増加しており，本年度は 71%に達した。否定的な評価は 11%であり昨年度より僅かに減少した。否定的な評価は昨年度と同様，地域環境工学科が最も多く，園芸農学科が最も少なかった。不満の理由は，スペース不足や設備不十分，冷暖房の不備などが挙げられた。

## 3. 情報処理演習室

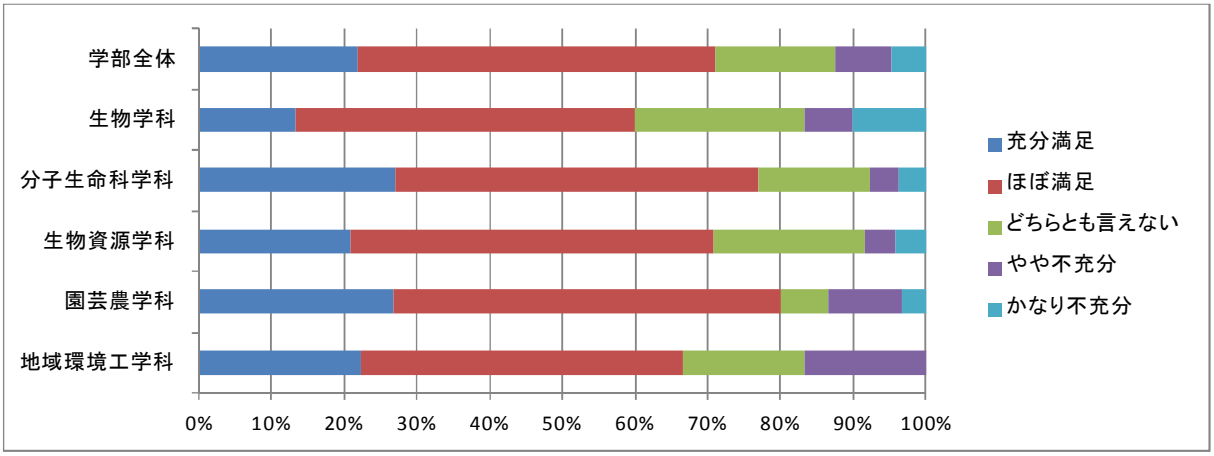


図 14(3)．情報処理演習室

学部全体では，肯定的な評価が 71%であった。過去数年間 67～72%で推移しており，今年度も変動はなかった。否定的な評価の割合は地域環境工学科が最も高く，例年と同様な傾向であった。理由の記述では，パソコンの性能に関する不満が挙げられた。

### 4. 卒業研究を行った研究室

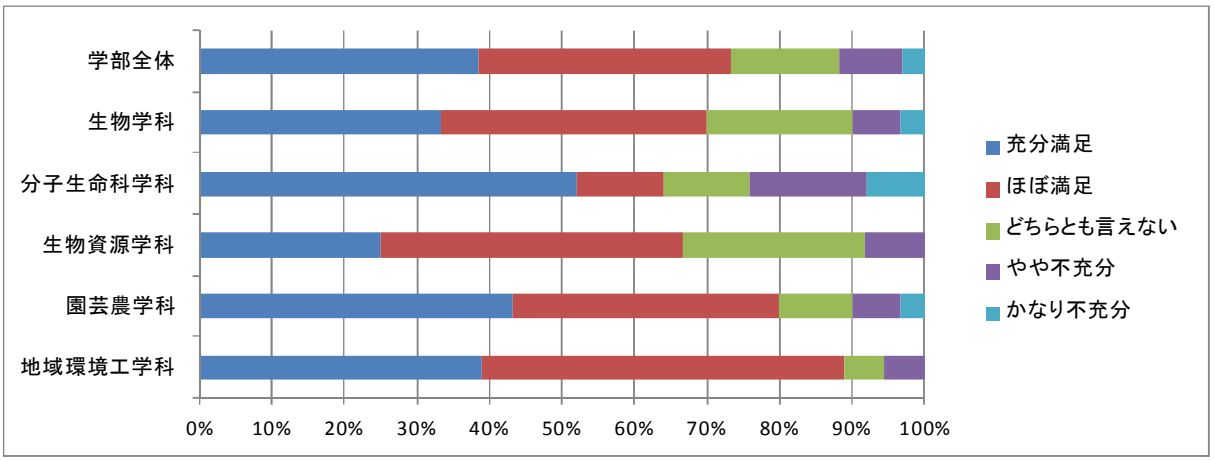


図 14(4)．卒業研究を行なった研究室

学部全体では，肯定的な評価は 74%で昨年度（79%）より減少したものの，一昨年度（65%）より高かった。学科別に見ると，地域環境工学科で大幅に増加し，他の４学科では減少した。分子生命科学科は「十分満足」が 50%を超える反面，否定的評価の割合も他の学科より高く，研究室単位で状況が異なることがうかがえた。不満の理由として，スペース不足とスペース配分の不平等などが挙げられた。

### (2)．各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

今回の調査でも前回同様に講義室の冷暖房に関する記述が目立った。また，遺伝子実験施設と農生校舎間連絡通路の設置要望が複数あった。

［生物学科］

**（講義室）**

夏の講義室暑すぎです。

講義室が小さいと思った。

全体的に薄暗く光を取り入れる構造にすべき。大教室は後ろの席でもみえる配置であるべき。

講義室にもっとカンニング対策して下さい。後ろの方に座ってカンニングし放題とか何か悔しい。ずるい。

講義室→部屋によってはイスが壊れたり，夏は暑過ぎて講義どころではない。

農生の講義室は冬寒い。

**（図書室・情報処理演習室）**

図書館：理系の本が古すぎる。科学は日々進歩しているのに，本の更新しなさすぎです。農場実習で課せられたレポートに「図書館の資料を使うこと。昭和以前不可」とあったが，昭和に書かれた本ばかりで絶句した。

図書→専門書類が少ない。新しいものもあると良い。農生の図書館，暖房があまりきいていなく寒い。

情報処理→コンピュータの起動に時間がかかり過ぎる。

**（実験・実習室）**

GRC の開館時間を延ばしてほしい。

人数に応じて研究室の広さを考慮して頂きたいです。

実験・実習室→設備・装置の数が少なく，そのせいで実習の待ち時間が以上に長い。また，机と机の間がせまく，教室内を移動しずらい。

研究室→コラボにあるのですが，1 つのフロアに入る研究室の数と部屋の数が合わず割り振りを工夫して，各研究室が多少遠慮しなければならない。

**（提案・その他）**

コラボ弘大のトイレの位置がめんどくさい。（土日はセキュリティカードがないといけないので）できれば 17 時以降や土日も暖房がつくとうれしいです。

［分子生命科学科］

**（講義室）**

4 階の講義室でプロジェクターの調子が悪い講義室がありました。

クーラーがあったら良いと思います（特に講義室）

講義室にクーラーが欲しい

講義室は夏場ものすごく暑くなるので，電気代は上がると思うが，冷房を取りつけて欲しい

夏で人の多い「講義室」は「暑過ぎて」「学習どころではない」

**（図書室・情報処理演習室）**

図書館の空調が不満。寒い。暑い。

学部図書館は蔵書が良く分からないので整理して欲しい

Nature cell Science 論文を見れるようにして下さい

**（実験・実習室）**

私が所属していた研究室は，実験スペースが狭くまた控室と実験室が一緒だったので，気持ちの切り替えも難しく大変だったのでせめて控室があった方がいいと思います。

次世代シーケンサー，高解像なレーザー顕微鏡，マウスエスタン検出器（Las3000），

**（提案・その他）**

シャワー，喫煙室，仮眠室

［生物資源学科］

**（講義室）**

講義室の冷暖房をもう少し快適にしてほしい

**（図書室・情報処理演習室）**

1 コマの授業が 8：40 からなのに図書館が開くのは 9：00 なので，もう少し早く開館してほしい

**（実験・実習室・研究室）**

所属人数にあった研究室がほしかった

研究室をもっと拡張してほしいです。実績のあるところ

研究室や控室が人数の割に狭く，中に入れない人がでるなど不便な時期が多々あった

研究室によってれいぼうがあったりなかったりはおかしい。冷房完備にしてほしい

研究室に冷房をつけてほしい。長時間の滞在のため，バテテしまう。また土日も冷暖房をスイッチ等でつけれるシステムの導入を求める

**（施設・提案）**

農生入口の自動ドアを使わないなら撤去して手動のドアを作って欲しい

［園芸農学科］

**（講義室）**

他学部と農生の講義室などのつくりの差がすごくあるとかんじました

特に講義室の床がきたないのでカバンとか置けなかったです

冬期間教室が寒過ぎる

講義室の暖房を 5 コマ終了（17：30）までつけてもらいたいです

暖房の制限がきびしすぎる

講義室の冷暖房を適切にしてほしい

講義室の暖房は 12：00～13：00 につかないのですが，3 時限目の開始は 12：40 からなので，寒い 20 分をどうにかしてほしいです

**（情報処理演習室）**

農生の学生レベルを考えたら，PC に UNIX を入れる必要ないんじゃない？

**（図書閲覧室）**

**（実験・実習室・研究室）**

研究室のクーラーつけて下さい。

冷房をつけてほしい

実験室は充実していますが，ゼミ室が狭いと感じます

研究室が人数にみあった部屋の大きさにして頂きたいです

人数に対するゼミ室の広さが不適切

ゼミ室は生徒数も考慮した部屋割りが必要と考える。毎年ごとに部屋移動の有無について話し

合い，学生に伝えて欲しい

**（施設・提案）**

仮眠室ください。

農生側の弁当を増やしてほしい。種類増やして。

喫煙室のスペース作った方が良いと思います。外きたない

402 号室？エレベーターを使うために 4 階を移動する時，講義室を通らなければならないのは不便

4 階の途中で講義室を通らなければならないのをなんとかして欲しい

［地域環境工学科］

**（講義室）**

冬期の講義室の暖房の調整（暑いので低くしてほしかった）

**（実験・実習室）**

**（図書室・情報処理演習室）**

**（研究室）**

**（施設・提案）**

農生が学食から最も遠い。足腰の強化

402 講義室の構造配置に疑問。4 階の 403 講義室から中央階段に通り抜ける際，少し不便だと思った

**設問 15. (1) 卒業研究を行ったことに満足していますか。**

**1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない**

**5. 全くそう思わない**

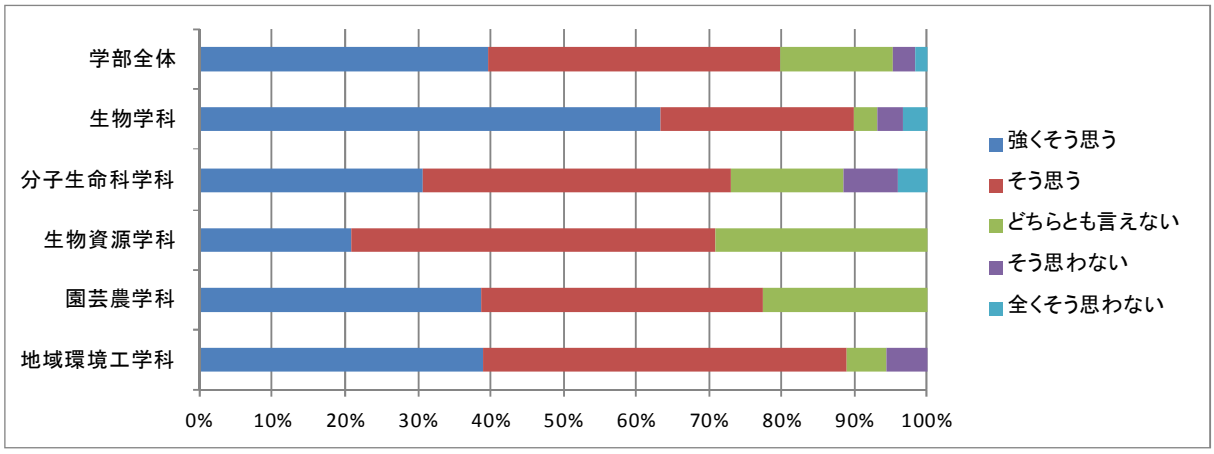


図 15. 卒業研究を行なったことに対する満足度

昨年は学部全体で肯定的な評価が 84%であり過去最高であったが、今年度も肯定的評価は 80%に達し、そのうち半数が「強くそう思う」と答えた。学科別見ると、分子生命科学科と生物資源学科で減少し、生物学科と地域環境工学科で増加した。不満理由は成果が得られなかったこと，

人間関係などがあげられた。

**(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。**

［生物学科］

1 何かに対して研究をして，それを人に伝えるということを通して，社会に出てからも必要な自分の意見を人に伝えること，質問をすることを学んだ。
1 楽しかった。研究をしているという実感があった。
1 いい思い出。
1 魚が可愛かった。野外楽しい。
1 ひとつの事に対して長く考え時間を費やし完成したデータを見ることに大きな満足感を覚えたため。
1 大学での学習は卒研に取り組んでからの方が，得たものは大きい。
1 自ら学べたから。
1 自分の好きな分野でのびのび研究できたから。
1 実験がたくさんできた。
1 設問 15，（3）に同じ理由。それに加え，何かをやり抜くという姿勢が身についたと思う。
1 自分で考えたことを検証して自ら結果を得る経験は貴重であるから。
1 つらかったが，その分自分のためになった。
1 卒研はもっとやりこみたかった部分がたくさんあって，本当ままだまだ続けたいと思ってるから。先生が良い人すぎるから。
1 まだまだ満足はしていないが，学部時代としては実験をがんばった方だと思う。
1 自然科学に対する興味がとても広がった。今後も興味を持って自然科学を学び考えていきたい。
1 学部生レベルでできる研究には限度があるとはいえ，卒業研究をやりとげたことは，今後自分の人生のかてになると思うから。
2 追い込まれて踏ん張る力を培った。
2 もっと事前準備をしっかりすべきだった。そうすることでもっと良い結果になったと思う。
2 集大成として形に残るものだから。
2 学生だけで自ら計画を立て実験を進めていったので，結果に関係なく良い経験となったと思う。
2 自ら長期的な計画を立て，こなしていく経験をすることができた。
2 研究する姿勢が身についた。
2 一つのことに長く取り組み，力をつけたかった。
2 よく頑張ったと思う。
3 実験がうまく行った時の充実感はこの上ないが，思うように結果が出せなかったのが残念。
4 何をしていたのかよくわかりません。ほとんど先生の趣味だった。
5 つまらない

［分子生命科学科］

1　１つの研究テーマに対して 1 年間取り組み，実験を通じて様々な考え方を知ることができたと同時に「研究する」ということがどういうことなのか少しでも知ることができたため。
1　自分で進めるということを考えることができた

1　自ら計画を立てて研究活動を行ったことによって，1年前よりも技術はもちろん考え方や専門の知識も深まったと思う
1　研究を通して物事を順序立てて進行したり，社会に出る前に準備が出来たと思う
1　これで飯食ってこうと思った
1　1つの物事に対して，様々な見方，考え方ができることを知ることができ実際にそれを体感できた
1　自分で考え予定を立て実行にうつすといった，社会に出ても必要なスキルが身についたので
2　成長した気がするから
2　卒業研究をすることで，問題解決をする能力がついたと思うから
2 自分の夢に関係していて，理科という教科のおもしろさを知れたから。半社会人としての自覚をもって生活できたから
2　先生のサポートがあったため
2　卒業研究を通して社会にでてからも必要となる考え方が身についた
2　行き詰った時の対処法がある程度身についた
2　考えのまとめ方や作業の効率化のプロセスなど今後社会でも通じるものを学べた
2　学生のうちにできることであり，そこで培われた考え方は社会でも役に立つものだと思います
2　先生が非常に親切で適切なアドバイスもしてくれたので楽しくできた
2　学生生活の締めくくりとして，ケジメをつけられた。
3　つらかったが身になったと思う。
3　自身で希望した研究ではなかったため
3　実験が成功しなかったから。
4　自分の研究内容が不十分であったため
5　私は別に研究に興味がなかったので，卒業単位を修得するためだけに研究することが「苦痛」「ストレス」以外の何物でもなかったから。

［生物資源学科］
1　成長につながった
1　タイムリーな内容を研究できた
1　学部生としての集大成であるため，力を入れて取り組み，専門的な知識が身についたので
1　専門的知識だけでなく，目的の達成のためにどう動いていく必要があるかなど，社会に出て必要となるスキルも身につけることができたから
1　１つの課題を成し遂げたところ達成感があったから
2　チームで協力する素晴らしさを知ったので
2　卒業研究を通して予定を立てて計画的に物事を進める力や結果をまとめてそれを人にわかりやすく伝える力を養うことが出来たが，それらは社会人として仕事をする際にも役に立つと思うから
2　目標をもって取り組むことが出来たため，日々充実できた
2　目的にあった卒業論文を結果的に作ることが出来たからです
2　卒業研究を行ったことそのものは大変よい機会だと感じておりますが，目標とする結果をだすまで取りくみ切れなかった自分の不甲斐なさが減点です

2　満足な結果を得ることはできなかったが，指導教員の適切なアドバイスによりいろいろなスキルの向上ができたから
2　たくさんの時間とお金をかけ，良い研究をさせていただき感謝しております。
2　良くも悪くも自分の知識の深まりにはなったから
2　実験で思うような結果が得られなかったことがあるのですが，その度考える機会や調べる機会が得られ，その結果ある程度成果のある実験データがえられたのではないかと思ったからです
3　難しく完全に理解できなかったと感じる
3　自由度が低かった
3　新しい発見がそこまでなかったから
3　やることはやったが，納得はいっていないため満足はしていない
3　しんどい
3　頑張って卒業研究を行った学生と，あまりやらずに卒業を終わらせた学生を一緒に判断するのは良いことではないと思ったから。また，先生の感じ方でも成績を決められるのはどうかと思う

［園芸農学科］
1　卒業研究を通じて興味を持つことの大切さを学んだから
1　研究方法や論文の書き方などを学べたから
1　4 年間で一番頑張ったから
1　研究を通して，学びの本質を垣間見た
1　問題解決能力を向上することができたから
1　ねばり強く取り組むことや，１つのことに集中してやることによって，自信がもてるようになった
1　社会人として働くための基本的・常識的なことが身についたと思うから（実験作業の進め方，先生への実験経過の報告等）
1　貴重な体験ができました
1　研究過程で，知りたいことを自分で調べていった。そのため，課題を見つける能力が入学時よりは身につけられたと思ったから
2　不満はない
2　担当教員から多くの事を学んだから
2　日常ではふれない世界に 1 年以上長い時間をついやして，研究内容だけでなく人間関係や精神的な面でも学ぶことが多かったから
2　卒業論文をかいていることは大変だったし，書き終えるまでに嫌なこともありましたが，結果的に形に残すことができたので大学での記念にもなりました
2　達成感があったから
2　自分の関心のあることに対し，とことん研究できたから
2　1 年を通して１つの物事を考えまとめるのは非常にいい成果だと思うから
2　卒論を通して 4 年間学んだことを振り返ることができ，学生生活における 1 つの区切りをつけることができた
2　自分で実験し，調べることで学んだことが多くあったため

2　大変だし辛かったが，色々なことを学べた。先生とのコミュニケーションも多く取れるようになった。自分の未熟さを実感でき，精進しようと思えた
2　集中力が身についたから
2　受け身ばかりでなく，自ら考える良い機会となった
3　教員が適当にきめてしまったから
3　学部 4 年目で大した研究ができるだろうか
3　卒論の存在意義に疑問。私大のようにやりたい人がやるという形でもいいのでは？

［地域環境工学科］
1　所属研究室で自分が学び研究したいと考えていたテーマについて実際に研究したことで非常に多くのことを学ぶことができたので
1　やりたい分野を追求できた
1　自分でテーマを決めそれに対してできたから
1　達成感があり，学生だったなぁと思える
1　指導教員の指導がとても丁寧で，また，様々な知識を考えて下さったので，満足のいく卒業論文が書けたから
2　ただ専門知識を得られるだけでなく，研究を計画的に進めること，文章の構成力など社会を生きていく上で必要な力をつけることができたと感じるため
2　今まで学習してきた中で最も興味のある研究室に所属でき，実験はハードではあったが，充実した毎日を過ごすことができた
2　研究室に配属される前までに，得た知識の再確認ができ，またデータのまとめ方などを学ぶことができたから
2　良い経験になったと思うから
2　自分が大学に入ったこと，そして卒業したことの実感ができた
2　もう少し，時間と移動手段があれば，より良い研究結果になると感じた
2　卒業研究を通じて様々な人と話をしてその内容について深く知ることができたから
2　面白い発見はできたが，データ数が不十分だったのが今後の課題となり，いまひとつ成果が出せなかったから
2　自分は震災関連の事を研究したので，そのことにより自分が今まで知らなかった震災の細部の状況を知ることが出来たから
3　終わらせることができたが，十分な内容であったかは分からないため
4　研究よりも指導教員との関わりが疲れた。理不尽な部分が多々あった。少しでも気に入らないことがあると「研究をさせない」などと言い出し，その度謝罪をしなければならなかった。言葉・文字の内容が度を越していた

**設問 16.（1）あなたの卒業後の進路は次のどれですか。**

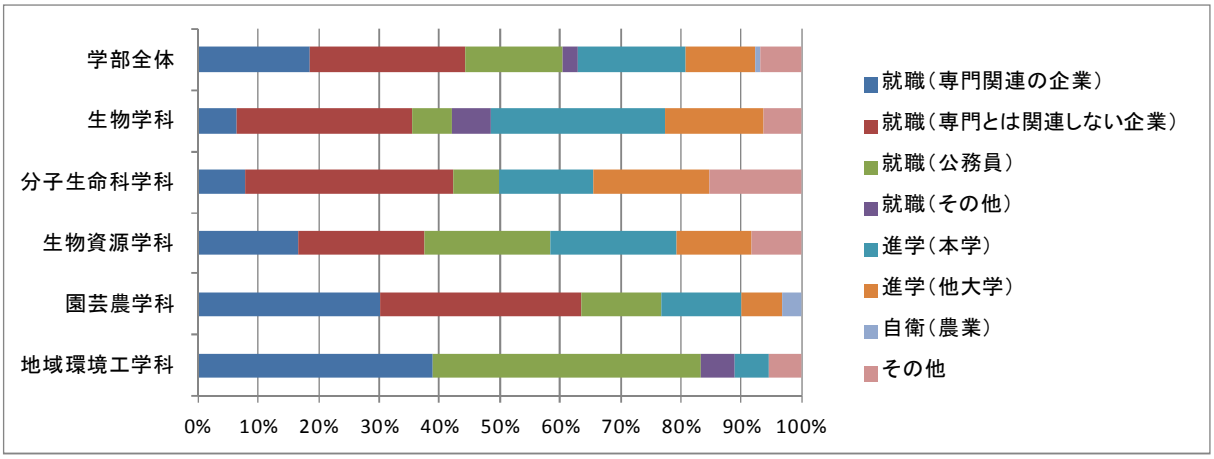


図 16(1)．卒業後の進路

全学科就職率は約 63%であり２年連続で増加した。社会経済情勢の影響と考えられる。学科別に見ると，地域環境工学科は約 90%が就職しており，専門関連企業および公務員への就職率とも他の学科より顕著に高かった。生物資源学科の公務員への就職数が昨年度の０人から 5 人に増加したことが注目される。全学科進学率は 30%で昨年度と同程度であった。生物学科が 48%で最も高く，分子生命科学科が 45%でこれに次いだ。いずれの学科でも本大学院への進学が最も多いものの、他大学への進学率が年々増加傾向にあり本年度は 10%を超えた。自営農業従事者は園芸農学科から１名のみであった。

**(2) 本学部のカリキュラムで学んだことは，進路にどのように影響しましたか。**

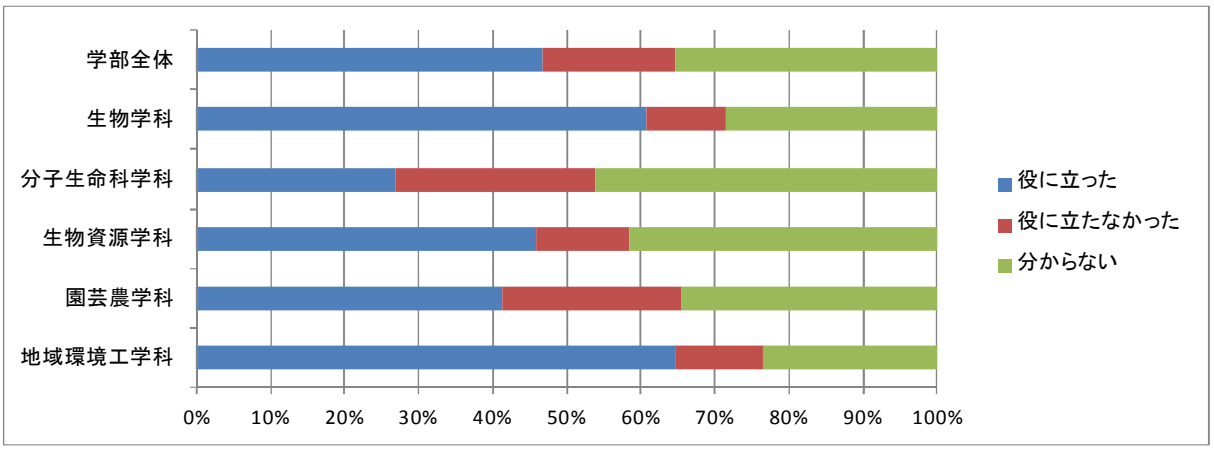


図 16(2)．カリキュラムで学んだことが進路に影響したか

学部全体では，「役に立った」とする回答は 47%で昨年並，「役に立たなかった」は 17%で昨年より 7%増加し，一昨年並であった。「役に立たなかった」との回答は分子生命科学科が 27%で最も高く，生物資源学科や地域環境工学科では昨年度と同様に低かった。

**(3) 本学および本学部の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。**

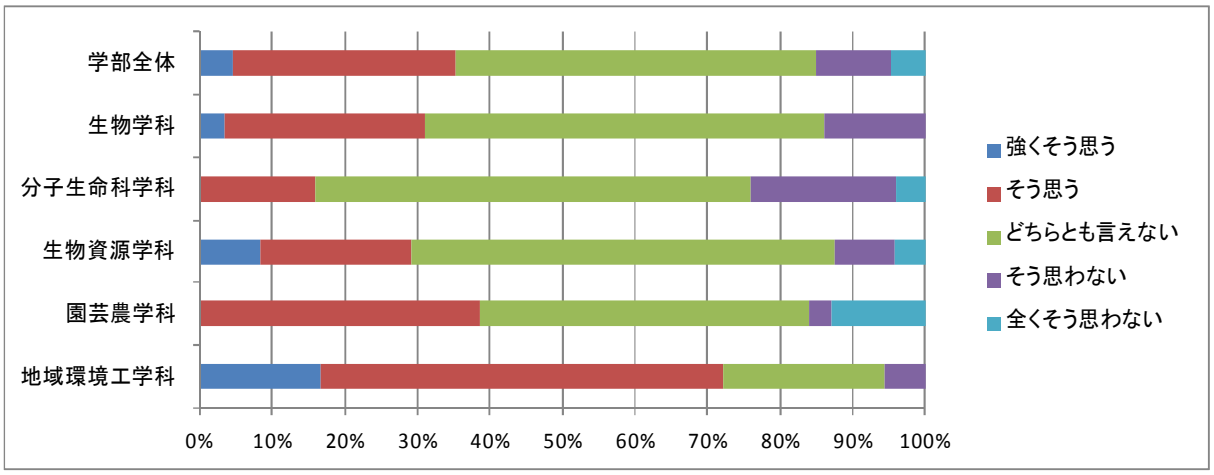


図 16(3)．本学部の就職支援の取り組み

学部全体では肯定的な評価が約 36%で，昨年度より 9 %減少したが、否定的な評価（15%）の方も昨年度に比べて 4%減少した。就職割合が高い地域環境工学科では肯定的評価が 72%ともっとも高かったのに対し，進学率の高い分子生命科学科と生物学科では否定的な評価も多かった。就職支援には満足していても、進学支援には満足していない可能性がある。

**[本学部の教育のあり方について]**

**設問 17.（1）あなたが本学部を卒業するに当たり，大学卒業者としての知識や学力を身に付けたと感じていますか。**

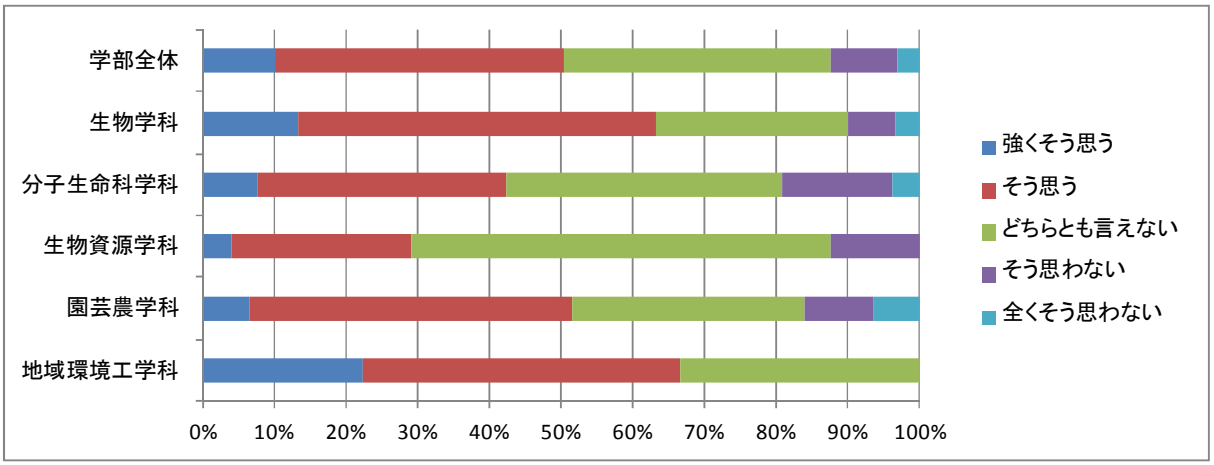


図 17．大学卒業者にふさわしい教養および専門知識

学部全体では，肯定的評価は 49%，否定的な評価は 13%でいずれも昨年度並であるが、一昨年に比べると肯定的評価が多かった。肯定的評価の理由としては専門知識の習得が多く挙げられた。否定的な意見は分子生命科学科が最も高く，園芸農学科，生物資源学科，生物学科，地域環境工学科の順であり、順番は昨年と完全に一致した。否定的評価の理由としては、広汎で幅広い知識の不足などがあげられた。

**(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。**

**1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない**

**5. 全くそう思わない**

［生物学科］

1　専門的な知識を得られたから。

1　専門的な知識は十分に身につけられたと思う。

2　自分の専門分野は詳しくなった。

2　専門分野に関してはそう思う。

2　知識や学力はあると思うが，マナーがないと思い，なんとなく「2」にした。

2　専門知識を活かせるような仕事についたので，身についていると思う。

2　専門分野においては誰にも負けないぜ！

2　専門知識以外にも 4 年という時間を経て培えた物は大きいです。

2　考え方など講義を受けたり，友人と話すことで変化した。

2　授業など以外で，教員と話すことで，生物学以外の知識，例えば，政治・経済・外国の文化などを知ることができた。

2　生物で学んだことなどについて，人に教えたりすることができるため。また，科学系のテレビ番組なども内容が理解しやすくなったため。

2　就職先が認めてくれているから。

3　身についた部分もあるが，まだ足りていないと思う部分もあるため。

3　そういった知識・学力を身につけたと実感する機会がまだないため。

3　わからない

3　もっと英語に力を入れればよかった。

3　自分ではわかならい。

3　知識・学力は身に付けたが，それを活用できない。やはり国際的な人材まではいかない。

3　卒業論文関係の知識は深まったが，1 年次から 3 年次に受けた授業は，取っていたコマ数が多かったため，あまり身についていないものが多い。また英語や数学の知識は下がってしまった。

3　もう少し専門を勉強しとけばよかったと感じるから。

4　部活や卒業研究の専門分野を主に行っていたので，幅広い教養を身につけることはできなかった。ただ，教養を身につける方法も，人との接し方は学ぶことが出来たので，今後活かしたいこうと思う。

4　自分の自主的な努力が不足していたというのも原因ではあるが，大学で学んだ内容に分野のかたよりが感じられ（農業・生態・教員の好み），他大学や社会に出ても通用するのか不安である。

5　うまく研究に集中できなかったことが多かったから。

［分子生命科学科］

1　自分で勉強したかった

1　いろんな向きから物事の見方を学べた

2　自分ではわからなかったが，他専門の学生との会話で相手の知らないことを知っていたり，自分の専門分野について説明している時に実感が持てました

2　知識の範囲が広がった
2　専門的な知識は社会に通じるかはわからないが，他人より努力し，物事を理解する力は身についたと思う
2　ニュースなどを見て深いところまで突っ込めるようになった
2　専門分野の知識が身についたと思うから
2　自分の研究について聞かれたら，きちんと胸をはって答えれるので
3　まだまだ想像には足りてない部分が多い
3　テストで精一杯の点もあり，そこからの発展が少ないため，身につけたことはあまり感じとれない。必要最低限に感じる
3　自分では身に付けたつもりであるが，客観的に見ると，自分では判断しかねる部分もあるため
3　自分の専門に関するところや興味のあることろは知識をより深められたが，総合的にみると至らない部分もあると考えられるため。
3　少なくとも高校生の時よりは現在の方がこれから社会を生きていく上で大切なことがわかっていると思うから。
3　学力は身に付いたかもしれないが，卒業後，社会人としての知識はほとんど身につけていなかったから。
3　もっとがんばれたと思うから
3　発揮する機会が少なく，身についたという実感が少ない。身についていると思いたい
3　特に1年生の時の専門科目が他学科より明らかに少ない
4　知識が傾っていて，一般人から見た時，役に立たないと思われそう
4　自分が社会に出た際に，何かの役に立てると感じられない
4　知識や学力は身についたと感じているが，語学など不充分のまま卒業をむかえてしまったように思う。5　大学の授業カリキュラムの中で学んだこと全てを把握しきれていないため

［生物資源学科］
1 大学で学んだことがテレビやネットなどで出ると，理解しやすくなりました
2　人に教えられる知識が増えたから
2　少なくとも自身の研究テーマを説明できるから
2　農学の今後について自分で考えられるようになったからです
2　より専門的な知識・技術は身に付けられたと思うから
3　高校の延長のような感じがしたから。確かに専門的な知識は身についたと思うが，大学生としての自覚を持つような取り組みも大事だと思う
3　これからの生活次第
3　まだそのようなことを感じる機会がないから
3　人にわかりやすく説明できるほど十分な知識や学力を身に付けたとは思えず，勉強不足だったと感じるから
3　学んだことを活かす場面に出くわしていないと思う
3　大学卒業者としての知識・学力を自分でイメージできないから
3　大学卒業者としての知識・学力の基準が分かりません
3　まだ不十分だと感じている。そのため大学院に進学することにした

3　専門知識はついたが，社会に出てそれを活かせるとはあまり思わないため
3　今後に期待
3　結局のところ，その学科そのコースでの偏った知識にした着目していないため，１つは秀であるが，その他は高校のまま，もしくは以下になったように感じた。その点でプラマイゼロだと感じる
3　思っていたことと現実は大体異なっているものだから
3　知識や学力がこの先役に立つかわからないですが，考える力のようなものがえられたと思うので，その点では身についたとおもいます
4　知識が浅い
4　こんなんでは社会にでてはいけないと感じているから

［園芸農学科］
1　学びたいことは学んだと思う。入学当初描いたよりは成長できたとおもう。4 年間もいればね
2　自分の発言や行動に対する評価を意識するようになったから
2　大学でなければ学ぶことができないことがたくさんあったから
2　専攻分野に関する知識や英文の論文を読む力が大学入学時と比較してついたとおもうから
2　高等学校を卒業した時よりも習得した知識が増加したとかんじているから
2　自信を身につけられたから
2　頭の良い悪いはともかく，様々な経験がつめる場所であった
2　就職先の研修で高卒者か他学部系の人達と話をして，相対的に知識の豊富さを感じた
2　公務員農学職の出題問題の内，本学科で学んだ分野は，問題を解くことができたため，必要最低限の知識は身につけることができたと実感した
3　入学当初とあんまり変わっていないような気がするが，知識・学力以外の面では成長できたと思う
3　知識や学力よりも，人間関係やマナーを学べた
3　授業で得た知識はその場限りの試験のための知識だったと感じる一方で，ゼミで学んだ実験のやり方や論文の書き方は，今後も役立つと思うから
3　卒業研究で専攻した分野は知識があるものの，それ以外は忘れてしまうものもあったから
3　学んだことは多々あり，それないに知識を得ることはあったと思いますが，「大学生としての」そなれば，もっと学ぶべきだったのではないかと感じています
3　実際に使うまではまだわからない
3　大学の授業などの知識は身についたとは言えない。しかし，それ以上のものを授業以外から学んだ
3　大学卒業者としての知識・学力の定義があいまいであるので，なんとも言えない。しかし，普通科の高校を卒業しただけでは得られない体験・知識は得られたと思う
4　ざっくりと知識はついたが，一歩ふみこんだ所はどうかわからない
4　大学卒業者は，その専門のプロフェッショナルというイメージであったが，自分はその域に達していないと感じるから
5　学校にいることで身につけた学力知識は微々たるものだった

［地域環境工学科］
1　高校時代より成長できたと思うから
1　ダムを見ると語りたくなる
1　専門分野に関してはJABEE認定の教育プログラムなので申し分なかった
1　幅広く学ぶことが出来たため
2　専門的な知識を習得し，社会でも活用していきたいとかんがえているので
2　私のイメージでは，社会人となったとき，就職先で役に立つことなので，今はわかりませんが4年間を通して独学では身につかない専門知識が身についたと思う。
2　大卒の公務員試験に合格したから
2　高校卒業時より成長したと思う
2　考え方が入学時と変化したため
2　自分なりに努力したので，一般の社会人には及ばないものの学生としての専門的な知識をある程度習得できたと考えている
2　専門に特化した学習プログラムであったと思うから
3　全て完璧に思えられているわけではないとおもうから
3　振り返ってみるとまだまだ不十分なところが多いと思う
3　もっと内容の濃い，専門的な内容だと思っていただけあって，それと比較したら，やや内容が短縮（？）されている印象で，この待たぬ知識で本当に実務で役に立つのか不安である
3　うろ覚えが多いように思うから

**設問 18.（1）本学部の教育活動の中でもっとも早急に改善すべきと思われる点は，次のどの項目ですか。**

**1. 学生に対する教員の指導方法　2. 授業の方法　3. 成績評価の方法　4. 補習授業　5. 教育・研究設備　6. 就職支援　7. 生活相談　8. 経済支援（奨学金など）　9. 健康相談　10. 留学生への援助　11. 身体障害者への支援　12. その他（　　）**
**13. 特に問題は無い**

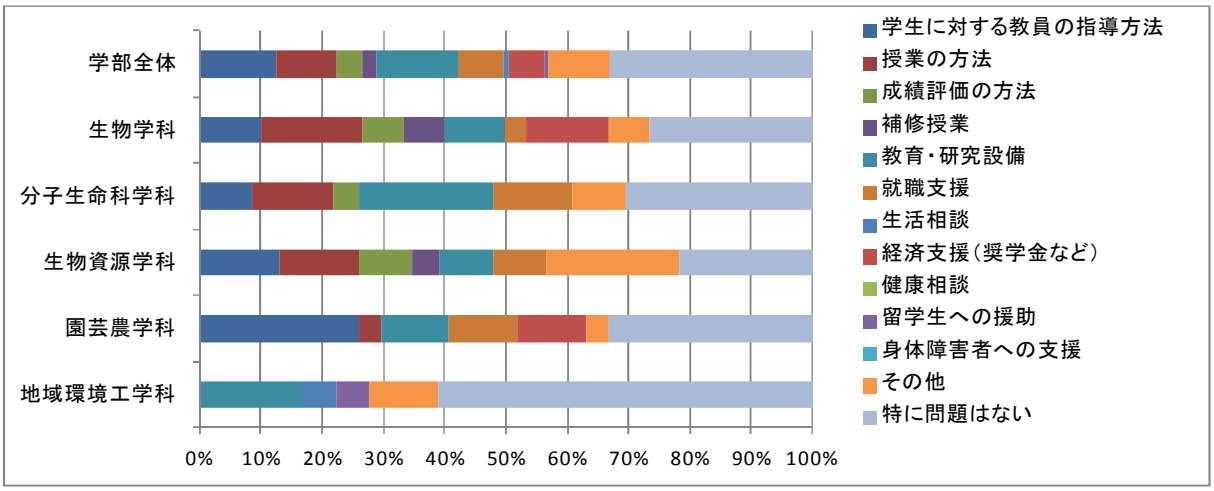


図 18.　早急に改善すべき事項

学科全体ではもっとも早急に改善すべきと指摘された上位 4 項目は，「5. 教育・研究設備」

（13%），「1．教員の指導方法」（12%），「2．授業の方法」（10%）および「6．就職支援」（7%）で、昨年と同一あった。ただし、「6．就職支援」の回答率は一昨年から 21%→14%→７%と激減したのに対し、他の３項目に対する回答率は前年度よりやや増加した。「1．教員の指導方法」と「2．授業の方法」をあわせた回答率は地域環境工学科が０%で突出して低く、他の４学科は 22～30%であった。第 5 位は「8．経済的支援」で、回答率（6%）は昨年並であった。

**(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。**

教員の指導や講義の方法等の改善は引き続き必要であると思われる。また，教員・職員の学生への接し方，施設や実験設備の要望が複数あげられている。経済的支援への不満が、留学生への厚遇と比較して複数あげられているのも本年の特徴と言える。

［生物学科］

1　自分本位で学生に興味のない教員は，大学や学生のレベルを下げるだけなので辞めて欲しい。

2　4 年間で英語の大切さ重要さがわかったので,英語を重点的に置いた授業をしてほしい。また，教員からの一方通行な授業ではなく，学生参加型の授業形態をのぞみます。十分な教育を受けられるなら授業料免除しようとは思わなくなる。

2　21 世紀の授業はほとんど高校の内容に毛が生えた程度だったので，もう少しないように深味がある方が楽しい。

2　先生方の OA 機器の取扱いをもう少し徹底した方が良い。

2　先生によっては，もう少し授業方法に工夫してほしかったです（ただ文字を羅列するなど）

2　他学部・他学科の授業も単位にいれてほしい。

3　出席する能力と，授業の分野の知識を有しているかは，全く別の能力であり，成績上では出席する能力ばかりが評価されているため（主に 21 世紀だけど）農生は暗い。イメージも暗い。

3　成績評価が甘い。勉強しなくても単位がとれてしまう。また生物学科生態コースの授業を充実させてほしい。

4　救済して下さい。テストの 1 回勝負はいやです。

5　コラボのトイレの位置はおかしい。休日カード（セコム）をもっていかなければならないのが面倒。

5 実験道具たりない。

8　授業料免除の人数を増やしていただければ！！

8 私はアルバイトをしながらでなければ在学できなかったので，勉学に集中でき，あるいは学生である内にできることを諦めなくていい支援が大切かと思います。

8　現状では学力と家計を加味して授業料等の免除が行われているが，学力の評価が低いと思う。もっと評価して欲しかった。また，全般的に事務の対応がひどすぎる。学生を見下しているのでは？

12 先生の遅刻

12　学務の対応。お役所仕事って感じで対応に誠意が感じられない。

［分子生命科学科］

2　出席を取ったり取らなかったり授業によって差があるのは問題だと思います

2 講義の回数を増やして出席をとっても学生の意欲的問題で効果はないと思う。また，教職の併用が難しいため，そこに関してもう少し考慮が欲しいと感じる。（集中を増やすなど）
2 卒業研究・就職活動時期の必修科目が多い。もっと早期に専門化すべき
3　暗記が主体な試験が多いため，もう少し「考える力」が問われるような評価も加えて欲しいと思います。
5　私が所属していた研究室は，実験スペースが狭くまた控室と実験室が一緒だったので，気持ちの切り替えも難しく大変だったのでせめて控室があった方がいいと思います。
5　3年後期4年前期まで必修授業があると就活生はきついから
5次世代シーケンサー，高解像なレーザー顕微鏡，マウスエスタン検出器（Las3000），科研費，シャワー，喫煙室，仮眠室，Nature cell Science論文を見れるようにして下さい
5 クーラーがほしい。もっとちゃんと除雪してほしい
5　講義室のスクリーンが見えにくい
6 教授の「学生の就職活動」の理解がない。文系学部と違って長期の就活による欠席が許されない現状で，学生はくるしんでいる。地方大学から都市部への毎回の往復費が，ばかにならないので。
私が所属していた研究室は，実験スペースが狭くまた控室と実験室が一緒だったので，気持ちの切り替えも難しく大変だったのでせめて控室があった方がいいと思います。
6 私ではないが，周りを見ていると，どこか就職を良く思っていないような雰囲気が伺えた。就職活動ばかりで学業（研究）に専念しない学生はもちろん悪いが，もう少し就活に対して寛容になれば学生もすごしやすいと思う。
8 他大学に比べ支援が少ない。疑問に思う点が多い。学生まかせを強く感じる。留学生より日本人へ援助して下さい
10 留学生と交流できる場をもっと理系の学生にも設けるべき
12学生が夜10時以降も無断で居残り学校に宿泊するということがよく見かけられます
12パワハラや理不尽さ。常に忙しいこの学部，先生の理不尽さなどがあるところもある研究室が存在します。なので，カウンセリングであったり，意見箱（掲示板に貼りだし）がほしい

［生物資源学科］
1　導入やその学問の根底を最初にわかりやすく説明するだけで変わると思う
1　教員の私的による生徒へのパワハラなどを見たことがあるため
2　あまりに出席を重視し過ぎていると感じる
2　研究室配属後，研究や専門の勉強に集中できるように，授業のうけれる年度等の工夫をしてほしい
2　講義での定期的（2回に1回など）な課題の提示
3　点数をつける基準が明確でないため，明確にしてほしい
3　先生によって成績の付け方に差がある気がする。レポートで決める場合，基準があいまいすぎると思う
5　農学生命科学部2F学生実験室近くの女子トイレの水流が悪く不便です。泳動ゲルの写真を撮る機会がGRCにしかないので大変です

6　自主性にまかせるのもいいが，かならず一人一回は学校側で意見をきいて，手助けをする場を設けるのが良いと思う。なかなか就職支援センターだろうが，行きにくい人は行きにくい
12 学務。生徒の悩みを真剣に受け止めていない。例えば卒業できるかとても心配していて，その件を相談したが，「自分で分からないところを見つけてからまた来て下さい」と言われた。卒業できるかどうかの不安は解決せず，大学生活を楽しめなかった。そういう人がいるのを許している職員の人にも問題がある。先生方はいいのに，学務で損をした
12 事務員。男の人の対応が悪いので徹底的に指導，もしくは辞めさせるべきです
12 学科編成。生物資源学科は学科内での分野が多岐にわたり過ぎていると感じる。もう少し狭く深く学べるようにすべきだと思う
12　学食が遠い。本当に

［園芸農学科］
1 専門的知識のない学生に対しての教育法をわかっていない先生がいるから
1 指導教員がゼミ生の中でも扱いの差が大きくあり，ある生徒に対してはその生徒がいないところで他の生徒に悪口を言ったりして笑ったりしていた。また他の生徒と比べたりすることも良くあり，悪い環境だった。このような点は後輩も嫌な思いをすると思うので，教員の指導方法については規制等が必要なのではと思った
1 学生と同じ目線で活動を
1 進路や研究等において，もっとアドバイスをもらったりできるような環境があってもいいのでは？
1 中にはプリントを読むだけの集中力が切れる授業がある
1　大学教員の第一の仕事は研究なのかもしれないが，後継者となりうる学生の学ぶ意欲を湧かせる講義が多ければ，より活発な学部になると思う
2 教授が一方的にスライド等で行う講義はおもしろみがない
6 もっと職員をふやして手厚くサポートするべき
8 バイトなどしないで学生生活を送りたかった。本当に授業料を払ってまで受けねばならぬ講義だったか疑問が残るものも多かった
8 授業料免除の規定に疑問。なぜ母子家庭でも，フリーターの姉がいると母子家庭とされなくなるのでしょうか？母子家庭は母子家庭ではないのでしょうか？母の収入（年収）が 0 円でも免除を受けられなかったのは辛かったです（学力はたりているのに）
8 成績優秀者でももらえないことがある
12 研究室での研究。卒業研究のような研究を 3 年次から行い，そこで得た結果・考察を元に次の年も継続的に研究したかった
12 学務。大学側はもっと就職支援に力をいれるべき。現在大学のブランド力に就職率が大きく影響するから。学務は弘大のガンとも言える。公務員感覚で仕事させても困る。やるべきことをしっかり考えて仕事すべき
13 何か問題があれば学生の方から相談に行き，その都度改善できればいいと思います

［地域環境工学科］
5 大分老朽化している機材があった

7 転科をもっとやりやすくしてほしい（転科という制度があるということの周知も含め）特に専門性の強い学部であるため，本当にやりたい事に入ってから気付いても結局 4 年間違う勉強をして卒業するというのは精神的にも辛い
10 留学生が夜中，学内に泊まることが多い。また，講義室のスクリーンでゲーム等しているため，注意等の圧力をかけるべき。又「援助」という面で罰を与える等しないと他学生に非常に迷惑
12 学科の研究室配属の時期をもっとはやめるべき！3 年後期からはいぞくしても，ちょうど就活時期と重なるから半年間は何もできない
12 本学科は近年，先生方の退職が相次ぎ，そのため，新たな人材が必要であることはわかる。その際，研究実績だけを重視するのではなく，人間性や指導力の有無についてもしっかり見て欲しい。「仕事だから仕方なく卒研を見てやっている」方針の恩着せがましい教員が大学の世界での常識なのだろうか？あとツイッターをしている教員もどうかと思う

**設問 19.（1）総合的に判断して，本学部・学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。**

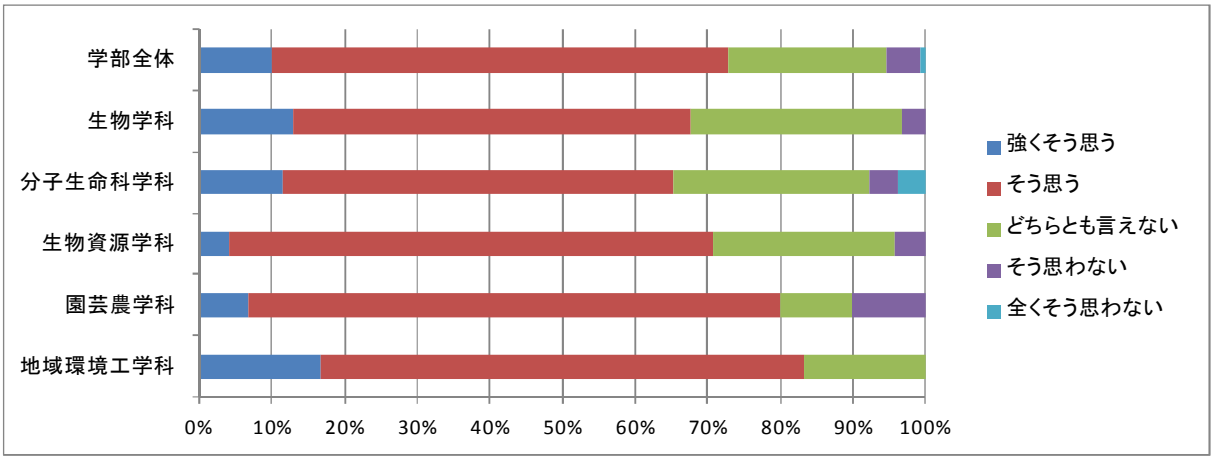


図 19. 本学部・学科の取り組みに満足か

学部全体では，肯定的評価が 73%で 19 年度以来最高、否定的評価が 6%で 19 年度以来最低となった。学科再編が完了し、5 学科体制が定着したことと関係があるかもしれない。

**(2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。**

**1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない　4. そう思わない**
**5. 全くそう思わない**

否定的な評価（4，5）の理由は抽象的なものが多かった。これまでの設問の選択理由の中ですでに述べられているからだと思われる。肯定的評価の理由では、教員の指導に感謝するものが目立った。

［生物学科］
1 自転車で行ける範囲に畑が 2 つもあり（千年・藤崎農場）非常に満足しております。
2 色々な困難があったが，回りの人に支えられ生活できた。
2　しっかり専門を身につけることができたから。

2　特に大きな不満がないため。
2　弘大にきて良かったと思うから。
2　4年間を通して貴重な体験が出来ました。
2　授業を含む全教員の中には，改善が望まれる人もいるが，ほとんどの方は熱心かつ親身に相談に乗ってくれた。
2　勉強や研究をする環境としては良かった。
2　生物について色々なことを学ぶことができたが，専門以外の授業もおもしろかったので，もっととりたかったが，都合がつかず断念したものもあった。もう少し充実した時間割（授業の選択肢が多い）にすれば良いと思う。
2　施設が暗いとイメージも暗いし気分も暗いし暗い。とても不満。
2　授業だけでなく青森の自然を活かした実習も取り入れられ，良いと思う。
2　ゼミの教授も忙しい時間を割いてまで実験や悩み相談に対応してくれた。非常に救われた部分もあったから。
3　大学は自主性を重んじる分，個人とは少し疎遠な立場であったような気がするから。
3　過不足ない感じだった。
3 青森県ならではの研究をもっと進めて欲しい。白神山地や八甲田，岩木山など日本を誇る自然を対象にした研究を充実させれば，弘前大学農学生命科学部は世界に誇る学部になると思う。
3　細かくみれば良い点も悪い点もあり，それらを総合的に判断することなどできない。
4　ゼミに配属するまで，大学の勉強はあまり魅力的でなかった。
＊全く関係のない話なのですが，●●先生が学生に対し，「ばか」「社会不適合」「負け組」「就職できんの？」「就職先あんの？」等というのは，パワハラだかモラハラだかアカハラだか何かに引っかからないのでしょうか？

［分子生命科学科］
1 ご指導いただいた先生の生活・仕事に対する姿勢が尋常でなく，一貫性がある教えに満足した
2 さらなる知識も増やせたし，研究と通じて自分の「主体性」も以前より養えたような感じがするため。何事も目的を達成するために，そのアプローチを自分でより考えられるようになったと思います。
2 教員の研究に対する姿勢に圧倒された
2 全体的に教授と学生との距離が近く，細かい指導を沢山してもらえたから
2 研究に対しては満足です。就職活動に対しての大学の取り組みは不満です。真面目に必死に取り組んで勉強してきた学生もいます。「就職できたらどこでもいいや」と考えるような学生はでてきてほしくないです。学生の力だけでは努力だけでは無理があると思います。
2 今後に役立つ
2 学科内でも幅広い分野の選択肢があり，自分にあった自分が学びたい分野を自由に選ぶことができたと思います
3 満足した点もあったし，そうでない点もあったから
3 卒研はがんばれたけど，それ以外は微妙だから
3 学生自らが進んで学ぶという姿勢も必要不可欠だが，もっとはやくから研究室配属をしないと出るデータも出ないまま卒業をむかえてしまう

3 指導者同士や指導者とカリキュラムの連携がうまくかみあっていないと思われる。指導自体は丁寧に教えてくれたので，満足
5 私は研究に全く興味がないから

［生物資源学科］
1 先生方の指導のもと卒業できたので満足しています
2 就職については，先生によって全く対応が違うが，私の場合学んだことを活かせたので良かったと思う。研究に関しては，学部生にも関わらず院卒者と同レベルの技術を求められている気がしてキツかった
2 特に不便を感じないから
2 先生方は生徒たちを応援してくださってると私は感じることができた
2 様々な講義があり学びたいことが学べるようになっているし研究室所属後に研究をする際にも実験器具や試料等がそろっており，実験をするのに十分な環境が提供されていたと思うから
2 大学（農生）には，よくしていただきました。ありがとうございました。
2 卒業できるから
2 特に不満や不自由もなかったから
2 高校までは単純に覚える作業できたが，この大学に入り，やりたい事をみつけ考える力などを身に付けられたため，これからは専門的な知識を活かしていけると思ったからです
3 良い所・悪い所，先に存在するが，特に不満ということもなかった
3 関心をもって見ていなかった
3 学部内の現状を全て知っているわけではないので答えられません
3 良い所・悪い所，先に存在するが，特に不満ということもなかった面もあれば悪い面もあるため
3 先生によって，研究・勉強の熱意に差があり，その結果，学生にもそのような差が生じてしまい，全体としてのモチベーションが下がっていると思う。そのような差をなくすべきだと感じる
4 学科のコンセプトがよくわからないので，もっと狭く深くしても良いのでは

［園芸農学科］
1 講義や卒業研究など楽しく学ぶことができたから
2　1.2年次に，単位取得のために受けていた講義は，関心のあまりないものも含まれていたが，ゼミに配属されてからは自分の関心のある内容を深めることがきでたから
2 知りたい事を学ぶことができ，教員の指導にもおおむね満足している
2 良い大学生活を送ることができました
2 楽しい学生生活でした。ありがとうございました
2 指導教員の指導方法がとてもよかったから
2 他の学科はわかりませんが，園芸農学科では，色々な経験をさせていただいた。先生にも気軽に相談でき，とてもよい環境だった
2 入学時，やりたい事がわからなかった自分でも，興味のある分野を見つけることができ，卒業研究等に取り組むことができたから

2 弘前をフィールドとして，りんごに始まり，青森県の特産や取り組みについて知ることができた。実際に行われている取り組みを例として学べるため，社会人となった後にも役立つ知識であると思う
3 自分で働いた金で大学に来たわけではないから，何ともいえない
4 普段生活していてあまり感じないため
4 全体的に見て，不足している部分が多いと感じるから

［地域環境工学科］
1　非常に学生の事を考えてくれる学部だと思います。学科にもよるかもしれませんが，少なくとも私の学科はそうでした
1　特に自分の学科の教員が非常に熱心で常に親身になって相談に乗ってくれたから
1　この学部学科で勉強し卒業できたことを誇りに思っているから
2　特に不自由なく学業・研究に着手することができました。4 年間本当にありがとうございました
2　卒業後も仕事で必要な知識を得ることができたから
2　4 年間通ってみて全体的に満足している
2　学部および学科の教育目標に即していると思うため
3　担当の先生によって取り組み方等は異なると思うから
3　研究室は良かったが，総合的に言えば可もなく不可もない
3　先生によるため

## Ⅱ．研究科修了時学生対象教育評価アンケート

### １．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学研究科の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，２年間本研究科で教育を受け今まさに修了しようとしている学生を対象に，研究科における教育について総合的な評価を得ることを目的とした。

調査方法：教員をとおして研究室所属の研究科学生にアンケート用紙を配布し，無記名方式で行った。

調査対象：平成 25 年３月研究科修了予定者 54 名

調査期間：平成 25 年 3 月 6 日～22 日

有効回答者数：33 名

調査項目：設問は以下のとおりである。（ただし，下記の［　］の項目名は，回答結果の分析にあたってグループ化のために設けたものである。）

**設問 1．あなたの所属専攻をお答えください。**

［研究科・専攻の教育目標等の認識］

設問 2．本研究科の教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3．あなたが所属する専攻の概要は添付資料の通りですが，専攻の概要および入学者受入れ

方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

(1) 概要について

(2) 入学者受け入れ方針について

設問4.(1) あなたが所属する専攻の概要は添付資料の通りですが，専攻のカリキュラムはその目標に合致していると思いますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

[専攻の専門教育について]

設問 5. シラバスは受講する科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

設問 6. (1) あなたが所属する専攻で受けた教育（講義・演習など）について満足していますか（修士研究については設問１５で別に聞きます）。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 7. 本研究科では年度初めに指導教員がガイダンスを行っていますが，その内容は適切であったと思いますか。

[教員の指導について]

設問 8. (1) 所属する専攻の教員の学生への指導や対応に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 9. 大学院で履修した科目の成績評価についてお尋ねします。

(1) 成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。

(2) 疑問や異議があったとき，あなたは実際にどこに相談し，その対応に満足しましたか。具体的に記入して下さい。

[学生の主体的学習について]

設問 10.

(1) 講義や演習の受講に当たり，あなたは１日平均どの程度の時間を予習や復習に当てましたか。教員が課した課題に対するレポート作成に要した時間も含みます。

(2)課題研究に要した時間は１日平均どの程度ですか。

設問 11. 大学院教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。

(1) あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。

(2) 大学在学中のカリキュラムで，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。

[学生への教育支援，施設・設備について]

設問12. 本学部や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，以下のようなルートを用意しています。在学中あなたは次の(1)～(3)の項目について主にどれを利用しましたか。（　）内に番号を記入して下さい。

(1) 学業（　　）　(2) 学生生活（　　）　(3) 進路（　　）

設問 13. 本学部図書室の利用について質問します。

(1) あなたは在学期間を通して，平均どのくらい利用しましたか。

(2) 以下の項目について，どのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

設問 14. 本学部の以下の施設について，どのように感じていますか。

(1) 下表の該当する欄に○を書き込んで下さい。

(2) 各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。

[修士研究について]

設問 15. (1) 修士研究について満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 16. (1) 研究科修了後のあなたの進路は次のうちのどれですか。

(2) 本学部のカリキュラムで学んだことは，進路の決定にどのように影響しましたか。

(3) 本学および本研究科の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。

[本研究科の教育のあり方について]

設問 17. (1) あなたが本研究科を修了するに当たり，大学院修了者としての知識および学力を身に付けたと感じていますか。

(2) 上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

設問 18. (1) 本研究科の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を，次の項目の中から一つを選んで下さい。

(2) 上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。

設問 19. 本研究科で学生が期待する教育を受けるとともに充実した学生生活を送るために，希望する点や，大学または学部が改善すべき点があれば具体的に記入して下さい。

設問 20. (1) 総合的に判断して本研究科・専攻の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。

(2) 上記のように回答した理由を記入して下さい。

## ２．調査結果

### 設問 １．あなたの所属専攻をお答え下さい。

表１．専攻別アンケート回答率

| 専　　攻 | 対象者人数（人） | 回答者数（人） | 回答率（%） |
|---|---|---|---|
| 研究科合計 | 54 | 33 | 61 |
| 生物機能科学 | 14 | 8 | 57 |
| 応用生命工学 | 19 | 12 | 63 |
| 生物生産科学 | 16 | 9 | 56 |
| 地域環境工学 | 5 | 4 | 80 |

研究科全体では 61%で昨年より 5 ポイント低下したが，おおよそ例年並みである。地域環境工学は学生数が少ないものの 80%，続いて応用生命工学の 63%であった。生物機能科学は例年並み

であったが，生物生産科学は 20 ポイント低下した。やや回収率が下がったのは，昨年度より調査開始時期が遅かったためかもしれない。回答者数が 10 人未満の専攻が複数あるため，集計は研究科全体で行い，必要に応じて各専攻の内容を検討した。

**［研究科・専攻の教育目標等の認識について］**

**設問　２．本研究科の教育目的および教育目標を知っていますか。**

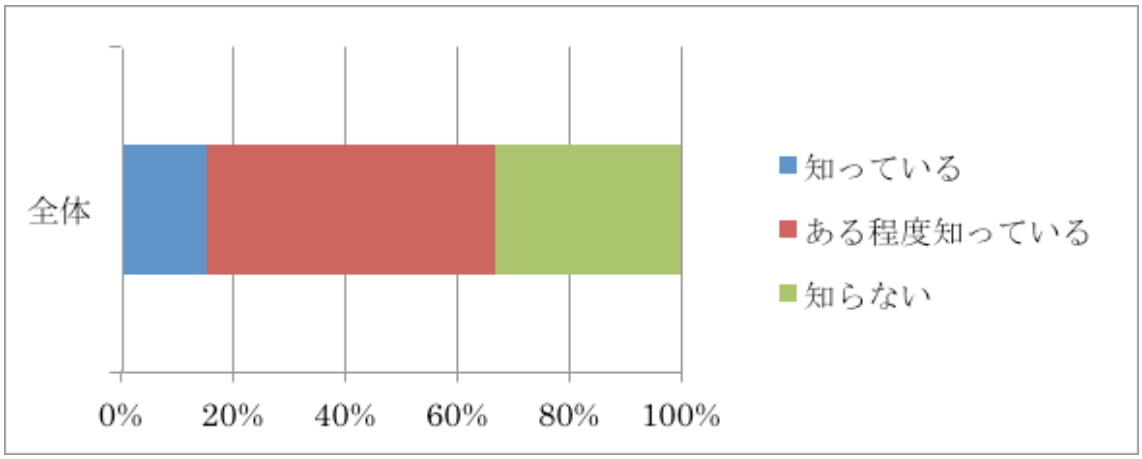


図１．本研究科の教育目的等の認識

研究科全体では，「ある程度知っている」以上の肯定的な回答が 67%で，昨年度の 59%および一昨年度の 46%よりも高いポイントであり、年を追って徐々に向上している。母数が少なく専攻別の正確な議論は出来ないが、改善の余地もあるとされた昨年度と比べより改善が進行し、教育目的などの浸透がされてきているのではないかと思われる。

**設問　３．あなたが所属する専攻の概要は添付資料の通りですが，専攻の概要および入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。**

**（１）概要について**

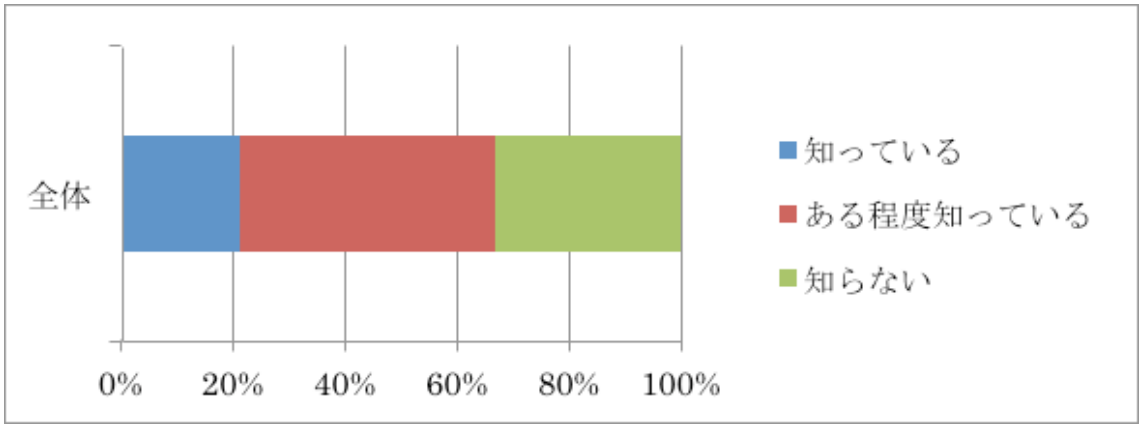


図２．所属専攻の概要の認識

**（２）入学者受け入れ方針について**

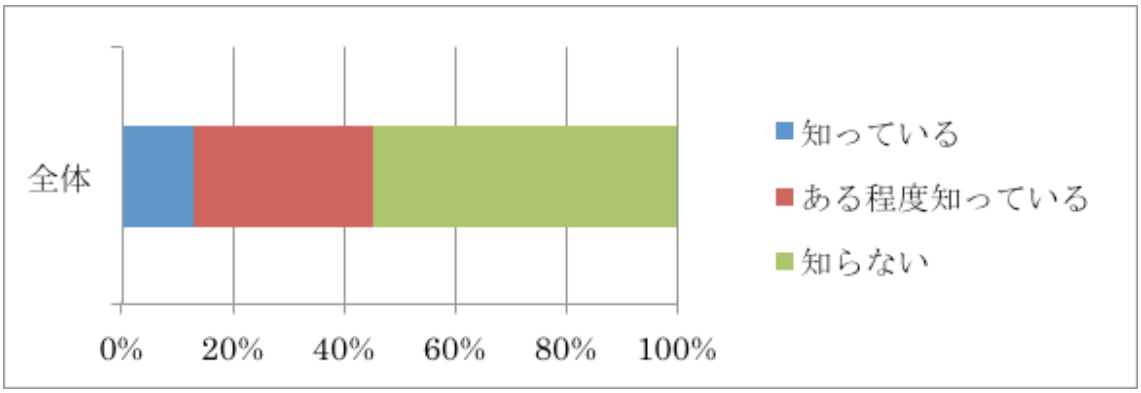


図３．受け入れ方針

研究科全体で見ると，（１）概要についての「知っている」と「ある程度知っている」の合計が約 66%で、昨年の 66%と同程度であるが、一昨年度の 57%と比較して高い割合を維持している。この設問３の（１）は，21 年度からは「概要」としているが，例年おおよそ認識している事が見てとれる。（２）の入学者受け入れ方針については，研究科全体で見ると，「知っている」と「ある程度知っている」の合計が約 45%と昨年の 52%から減少している。しかしながら、一昨年の 21%と比べれば高い値を維持していると言えるかもしれない。 大学院説明会の実施が奏功した結果の表れであろうと思われるが、引き続き改善の余地はあるだろう。

**設問 ４．（１）あなたが所属する専攻の概要は添付資料の通りですが，専攻のカリキュラムはその目標に合致していると思いますか。**

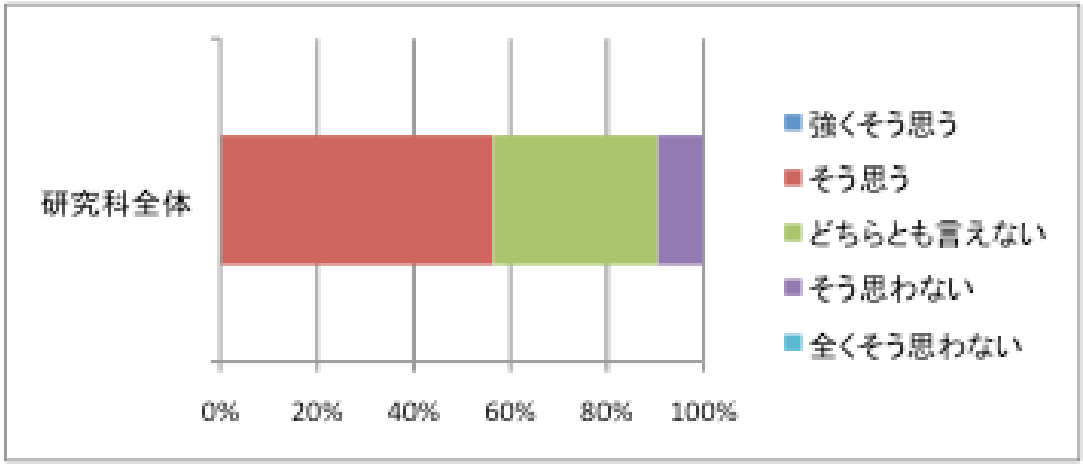


図４．概要とカリキュラムの合致度

研究科全体では，肯定的な評価は約 56%であり，否定的な評価が約 9%であった。肯定的な評価が 7 割程度だった昨年度よりも減少しているが、このポイントは一昨年度と比べると同程度である。また否定的な評価はより低下していることから、年度により増減は認められるが、少しずつではあるが一定の効果は出てきているのであろう。

**（２）上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。**

**１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない　４．そう思わない**

５．全くそう思わない

［生物機能科学専攻］

２　DNA や遺伝子のみでなく，それらが大きな影響を受ける土壌環境や光合成についても学ぶことができ，様々なメカニズムや相互作用を身近に感じることができるから。

２　どの授業も研究に必要な知識を学べたからです。

２　学部の頃に比べより自分の研究室のテーマに沿った時間割を組むのでやや概要より狭い範囲内での勉強になる傾向があるが，大体は目標に合致していると思う。

２　目標に合致していると思う。

［応用生命工学専攻］

２　ある程度合致している。

２　生物の基本的な原理を幅広く教わることができたと感じたため。

３　分野が広い。

３　専攻が目指す目標を知らない。

４　応用といった観点が足りない気がする。

［生物生産科学専攻］

２　多岐にわたる内容ですが，一通り内容に合った授業・講座を展開していると思うため。

２　専門分野の研究ができたから。

２　なんとなく。

３　カリキュラムはある程度合致していると思うが，それを達成しようと講義を行っている先生は少ないと感じたため「3」を選択。

３　個々に専門が異なるが学務上，必要なのでかなり専門と異なる科目を受講する場合がある。

４　全く関係のない科目が多く感じる

［地域環境工学専攻］

２　専攻的な知識を勉強しました。

カリキュラムの内容は，ほとんど研究分野ごとの講義を主体に構成されているため，講義が「概要」の事項を網羅していると捉えれば肯定的評価に，各研究分野に特化する内容になると，学生の専門が近ければ高く，遠ければ低くと，分野ごとに評価が異なっているのではないかと考えられた．研究各講義が個別的で全体的な統一性がないと捉えれば「どちらとも言えない」や否定的な評価になる傾向にあった。また、他分野とのつながりをとらえた比較的肯定的評価も見受けられた。

［専攻の専門教育について］

設問　５．シラバスは受講する科目の選択あるいは授業の全体的な構成の把握に役立ちましたか。

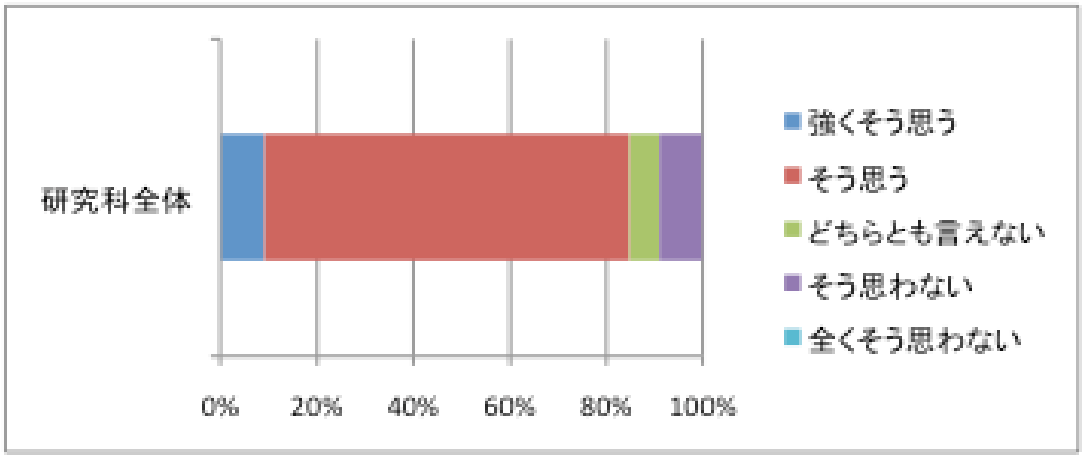


図５．シラバスの有用性

研究科全体で，肯定的評価が約 85%と昨年の 79%より上昇した。近年の減少傾向にあったが、昨年に引き続き連続して大幅な改善が認められた。シラバスと講義内容の整合性が向上していることが見受けられる。

設問　６．（１）　あなたが所属する専攻で受けた教育（講義・演習など）について満足していますか（修士研究については設問 15 で別に聞きます）。

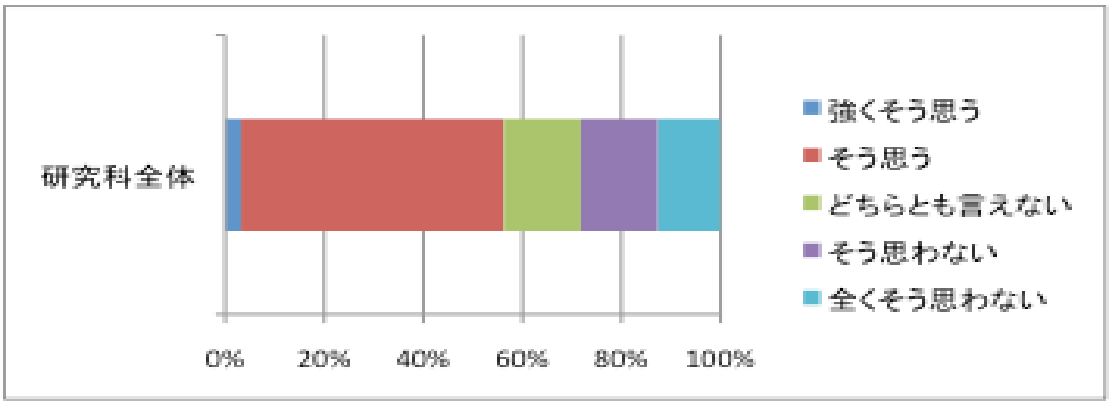


図６．所属専攻の教育に満足か

研究科全体では，肯定的評価が 56%，否定的評価が 16%とそれぞれ前年度の 69%，7%と比べ、満足度が減少している。類似した内容でも学生間や分野間での違いにより、受け取り方や難易度に差があると感じてしまうからではないかと次問回答から推測される。

（２）上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない　４．そう思わない
５．全くそう思わない

肯定的評価では，自らの専門を深められたり、専門外の内容もまた知ることが出来たりしたと

いう内容や発表形式の講義，プレゼンテーション能力の向上など，学部教育に比べて有益な講義の形式が増えたことをその理由にあげているが，反対にプレゼン発表形式が多い、試験をして欲しい、より専門に特化した講義の要望や反対に分野のばらつきが大きいなど分野外の難解さや本人の興味と遠いことなどで不十分という評価も複数みられた。学生の分野間の理解度および学部との違いをどう克服するかが課題である。

**設問　７．本研究科では年度初めに指導教員がガイダンスを行っていますが，その内容は適切であったと思いますか。**

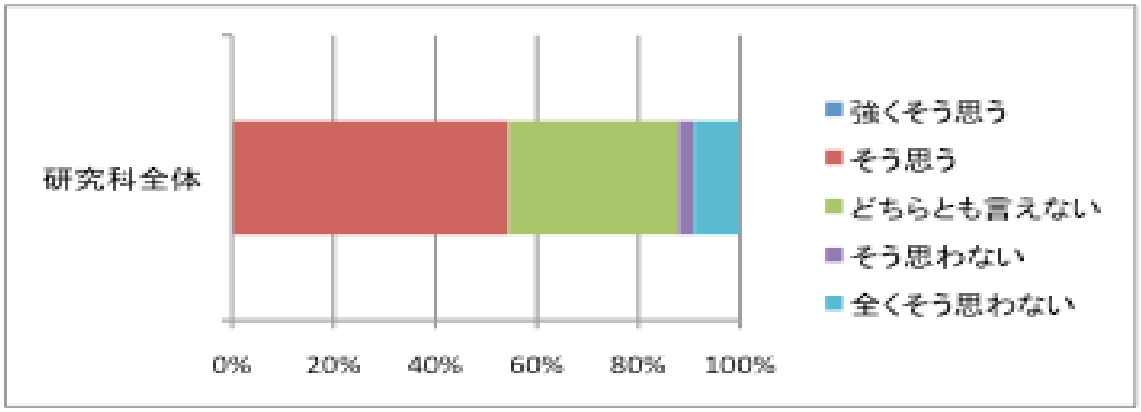


図７．ガイダンスは適切だったか

研究科全体では，肯定的な評価が 55%と昨年度の 71%から大幅に減少し、どちらとも言えないが増加している。年々改善傾向が認められ，昨年度は高いポイントであったが，年度によるばらつきなのかどうか，次年度への課題であろう。

**[教員の指導について]**

**設問　８．（１）所属する専攻の教員の学生への指導や対応に満足していますか。**

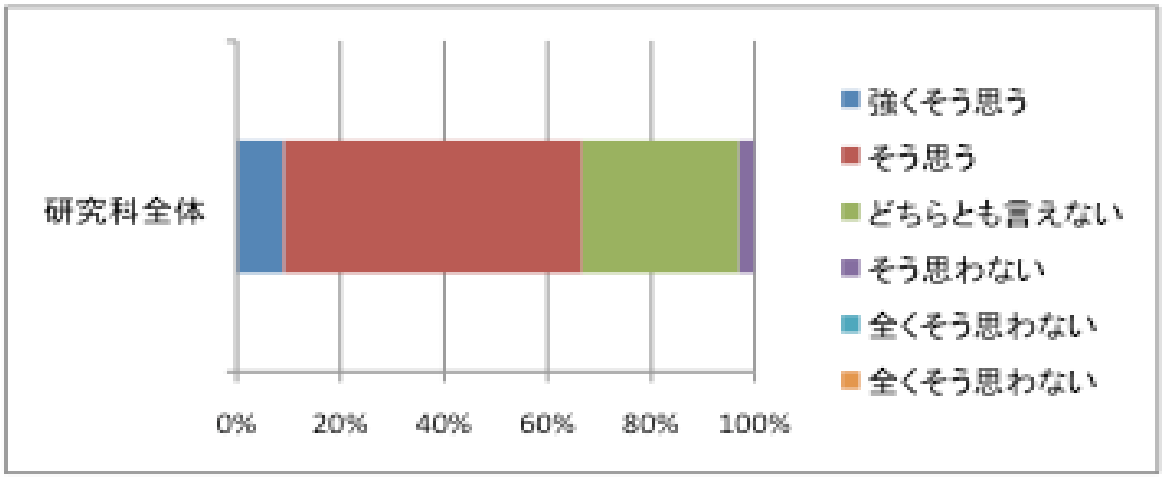


図８．教員の指導や対応に満足か

研究科全体では，否定的評価が 11 ポイント減少し 3%であった。概ね肯定的であったと思われるが，どちらとも言えないが 3 割程度あり，今後の課題であろう。

（２）上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。

１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない　４．そう思わない
５．全くそう思わない

［生物機能科学専攻］

2　研究のことだけでなく，将来のことや研究以外のことについても親身に考えていただいたので。

2　他分野の方も研究について気にしてくださっていたからです。

2　就活期間は配慮してくださり感謝しています。しかし，12 月，1 月の修論まとめの追い込み時期に論文を読むゼミ発表をしなければいけなかったのはかなり辛かった。学生は何も言えないので教員側で配慮してほしかった。

2　適切に指導して下さったから。

2　十分に指導してもらうことができた。

3　自分から調べて勉強して研究に取りくまなければならないが，もう少し指導をしてほしかった。

4　もっと計画的な指導をしてほしい。

［応用生命工学専攻］

1　常に相談にのってくれたので。

2　適度で丁度良い。

2　週 1 回の研究報告会などで細かく対応してくれたと思う。

2　特に不満がないから。

3　親身になってくれる先生もいるが，八つ当たりは困る。

3　所属する研究室では非常に良い指導を受け，学業面・人間的にも非常に成長を実感できた。しかし修論発表会で全ての発表を聞かなければならないはずの場であるはずなのに，何人もいない先生がいた。結果，優秀賞は前半の人はもらえず，先生たちが揃った後半の人だけであった。極めて不当であり，学生の今後に影響する様な事であります。今後，是非改善願います。評価とは一生残るものです。

［生物生産科学専攻］

1　感謝してます。

2　最後まで指導していただいたから。

2　なんとなく。

2　熱心に指導して下さったため。

3　バラツキが大きいため。

3　③と解答したが④に近い。どのようにやったらいいかなど聞きに行ってもあしらわれた感じがしたことがあった。

3　教員は学生をよく指導して頂いたと思うが，受入れ学生数が多過ぎて手が回っていない所も感じたので適正な人数にするべきだと思う。

［地域環境工学専攻］
２　先生方は，やさしくまじめです。

各専攻とも，肯定的評価では「適切」「熱心」「優しい」「親身」な指導・対応が受けられたことを挙げ，個人の関わりの深さにより適切な指導がされていることが示唆された。「どちらとも言えない」や否定的評価では教員の指導や対応不足を理由とするものが見られ，また研究と就職活動などの間のギャップを感じている学生がいるようである。また，教員によるという意見や適正な人数にすべき等の意見があり，教員側での改善余地がある指摘もいくつかあった。

**設問　９．大学院で履修した科目の成績評価についてお尋ねします。**
**（１）成績評価の結果に疑問や異議を持ったことはありますか。**

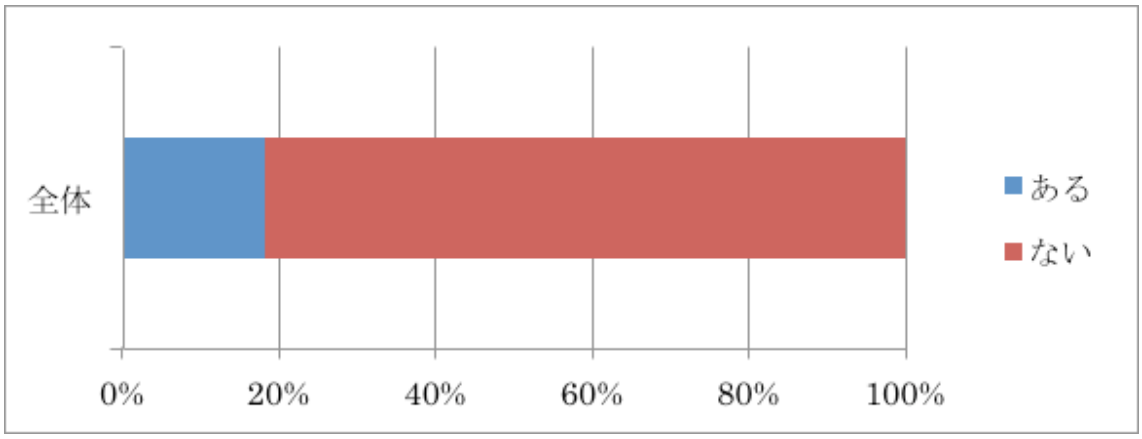


図９．成績評価に対する疑義

研究科全体では，「成績評価に疑問を持った」との回答は昨年に比べ約 8 ポイント上昇し 18%であった。若干ではあるが疑問を持つ学生が増加したことには留意が必要である。

**（２）疑問や異議があったとき，あなたは実際にどこに相談し，その対応に満足しましたか。**
［生物機能科学専攻］
1　相談していない。私達の学年に秀まで評価があることを分かっていない教員がいたと思う。
2　単位が取れれば良かったのでどうでもよかった。
［応用生命工学専攻］
1　相談するにも先生方が取り決めるものなので無意味と判断しました。
1　諦めた。どこにも相談しなかった。
1　相談していない。

［生物生産科学専攻］
1　相談しなかった。

成績評価に疑問や異議がある場合の中には，当該教員や関係部署への相談を控えた学生が数名いた。学生の引け目や諦めによるためと思われるが，成績評価や教員への信頼性を維持するためには，疑問があればもっと積極的に相談するように推奨し対応する必要がある。また，どういったことに疑問があるのかが明確にならなければ解決策を探るのは困難となってしまうだろう。

**[学生の主体的学習について]**

**設問 10. 講義や演習の受講に当たり，あなたは１日平均どの程度の時間を予習や復習に当てましたか。教員が課した課題に対するレポート作成に要した時間も含みます。**

**1. 30 分未満　2. 30 分以上 1 時間未満　3. １時間以上 2 時間未満　4. ２時間以上**

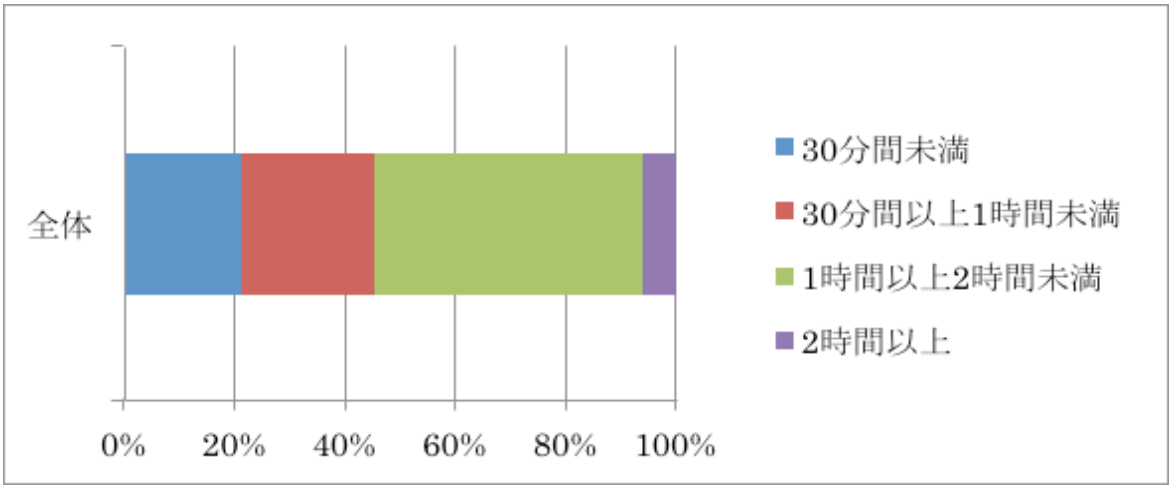


図 10（1）．予習や復習の時間

研究科全体では，１日当たりの予習・復習時間が 1 時間未満と回答した学生が 45%で一昨年の 56%よりも減少し，昨年とほぼ同等であった。しかしながら，内訳を見ると 30 分未満が 21%と昨年度より 18 ポイントも増加している。

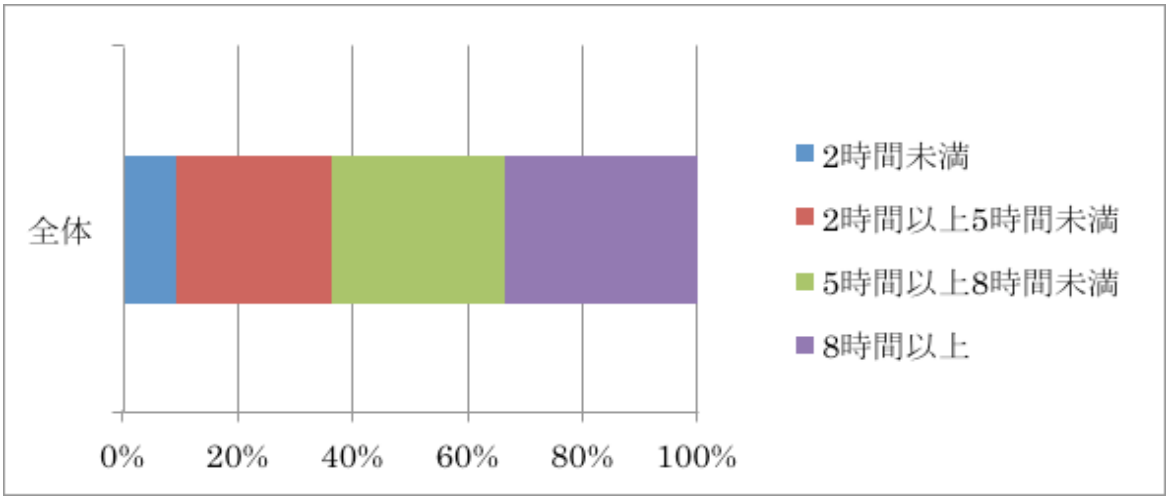


図 10（2）．課題研究に要した時間

半数程度が 5 時間以上であり昨年度とほぼ同じであるが、今まで見られなかった 2 時間未満が 1 割ほど占めていた。前述の問いとあわせると昨年度より，課題への時間および研究へ

の時間がともに不足している学生がいることが伺える。一方，設問 11 等の項目で自身への厳しい評価意見は，昨年度の方がより多い傾向であった。

**設問 11．大学院教育では，学生自身の主体的，意欲的な学習が要求されます。**

**（１）あなたは講義についてどのような姿勢で取り組みましたか。**

［生物機能科学専攻］

- 自分の専門でない分野の講義については学生も持つ基礎知識を事前に学習した。
- 新しい知識を少しでも学ぼうとする姿勢。
- 単位がもらえればよい
- 予習・復習をして取り組んだ。
- 研究・実験等を優先させて出席しない人もいたが，講義は講義として出席したかったのでやむをえない場合を除き休まず出席した。
- 研究に役立つ情報を考えながら受講した。
- 自分の発表があるときはしっかり勉強した。
- 主体的に取り組めたと思う。

［応用生命工学専攻］

- 授業内容を理解するために予習。
- 研究を優先
- 真摯に取り組んだ。
- 得られる技術・知識を吸収するつもりで取り組んだ。
- 他の分野でも自分の研究に活かせることがないか意識して取り組んだ。
- ふつう

［生物生産科学専攻］

- 毎回出席した。
- あまり主体的ではなかったです。
- 出席を心がけて，積極的にメモを取るようにした。
- 興味のある講義については，集中して耳を傾けた。
- 興味を持てたものは吸収できるよう努めた。
- 疑問をまず自力で解決しようと心がけた。

［地域環境工学専攻］

- どんなことに対しても興味を持ってのぞんだ。
- 講義後復習します。
- 予習と復習

多くの学生が意欲的に取り組んだとしており，自分の研究に有益だからという動機だけでなく，幅広く知識を得ようとする取り組み姿勢が見受けられた。学生により様々ではあるが，個々の問題意識を持って取り組めたと推察される。

**（２）大学在学中のカリキュラムで，もっとも印象に残った科目があれば，その科目名と理由を記入して下さい。**

［生物機能科学専攻］

・　植物遺伝子利用学　有用な遺伝子の選抜過程やそれらの遺伝子がどのような機能を示すかなど実例とともに解説されていたからです。

・　予習・調べ物として発表内容を考えてくる，発表をしながら先生の指導を受け学習するという形が大変ではあったがおもしろかった。

・　研究者としての考え方などが学べた。

［応用生命工学専攻］

・　学生実験　幅広い技術の習得ができたと思うから。

［生物生産科学専攻］

・　植物病理学　研究分野が違ったが，指導が分かりやすく，興味を持って意欲的に取り組めたので。

［地域環境工学専攻］

・　水利施設工学　この科目でいろいろな施設を了解し，用水路の水理，河川工作物の水理設計など知識を勉強しました。

**［学生への教育支援，施設・設備について］**

**設問 12. 本学部や本学では皆さんに助言したり，皆さんからの相談・苦情を受け付けたり，皆さんのニーズを把握するために，以下のようなルートを用意しています。在学中あなたは次の（１）～（３）の項目について主にどれを利用しましたか。（　）内に番号を記入して下さい。**

**（１）学業**

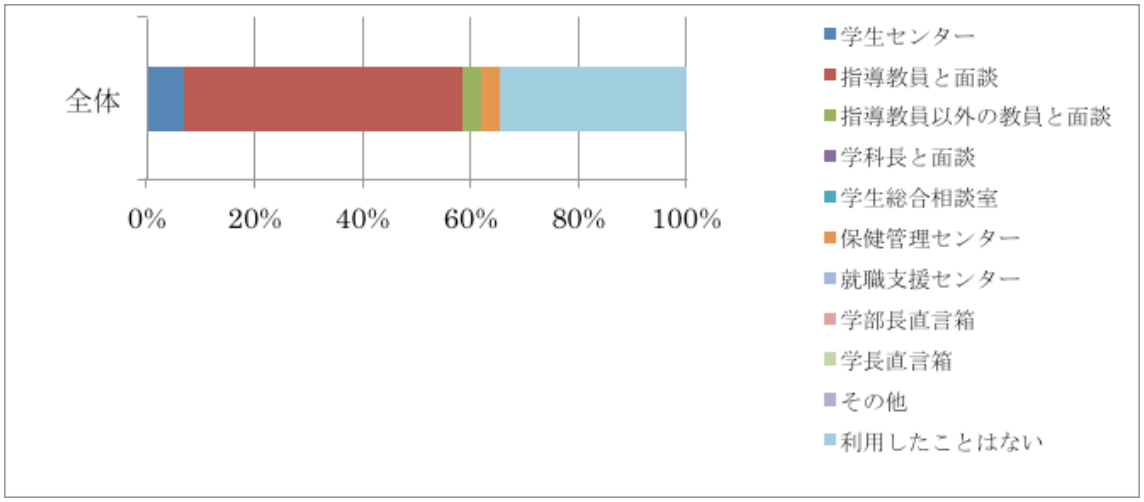


図 11(1)．学業についての利用

研究科全体では「指導教員と面談」が最も多く 45%で，一昨年度の 52%と同等程度であり，ついで多かったのが「利用したことが無い」の 30%で昨年度より 7 ポイント上昇した。設問 12 全てに共通しているが、利用したことが無い学生が増加している。特に相談を必要としなかった学生が増加したのか定かではないが、年度により学生気質が異なることが，この結果からも伺われる。

**（２）学生生活**

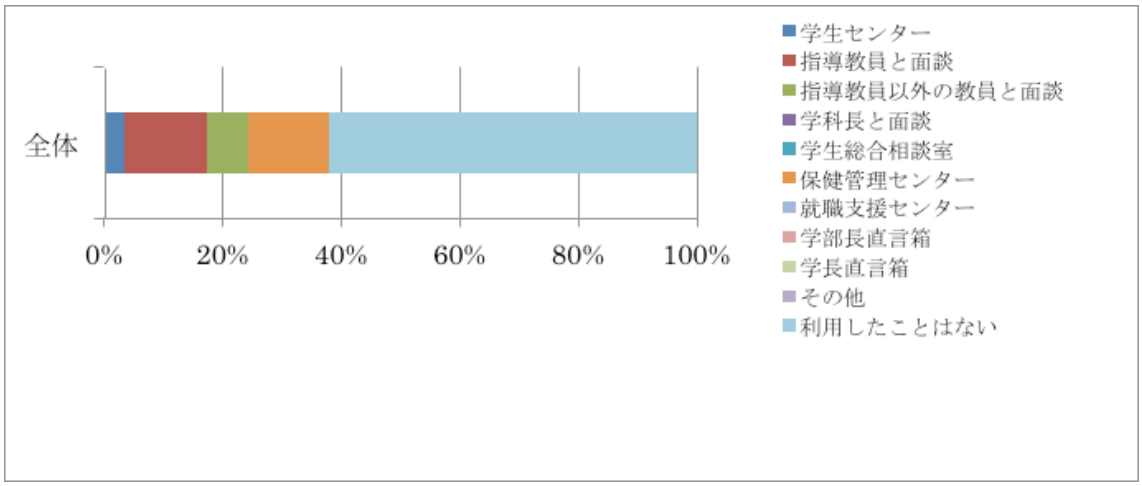


図 11(2)．学生生活についての利用

研究科全体では「利用したことが無い」が 4 ポイント増加の 62%で最も多く，一昨年度から増加傾向であり，ついで「指導教員と面談」と「保健管理センター」が 13%であった。今後も相談しやすい環境維持に努める必要がある。

**（３）進路**

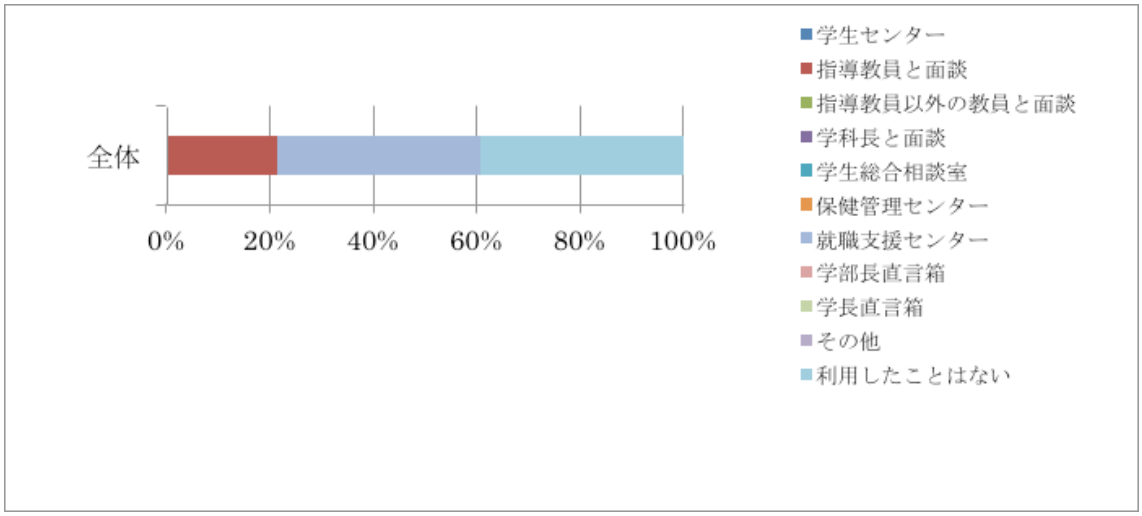


図 11(3)．進路についての利用

利用したものの中では「就職支援センター」が約 38%で最も多く，昨年度より 6 ポイント上昇し，ついで「指導教員と面談」が 21%となり，「利用したことは無い」は 38%であった。近年になく，就職支援センターが最多となっていることから，以前に比べ，センターの存在が認知されてきているということと共に，やはり世相を反映して，就職活動に対する関心が高いことの現れであるかもしれない。

**設問 13. 本学部図書室の利用について質問します。**

**（１）あなたは在学期間を通して，平均どのくらい利用しましたか。**

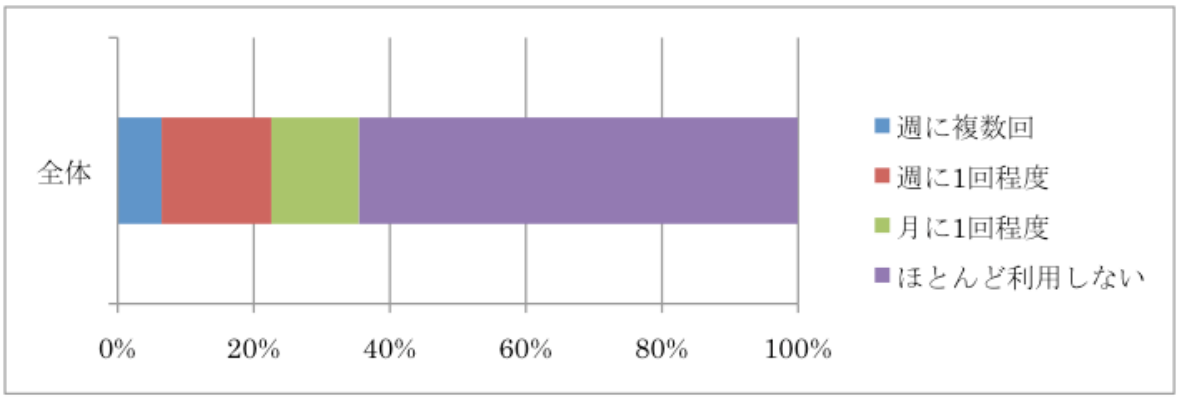


図 12(1)．本学部図書室の利用状況

研究科全体では，週に 1 回以上の利用が 23%となり、昨年度の 4%から大幅に向上した。整備などの改善の効果が徐々に現れているのかもしれない。しかしながら，「ほとんど利用しない」が昨年度より減少したものの 65%と依然として高い。情報収集の仕方（インターネットの利用等）の変化もあるだろうが，図書の整備状況等の改善を続けて経過を見てみる必要があるだろう。

**（２）以下の項目について，どのように感じていますか。該当する欄に〇を書き込んで下さい。**

**１．所蔵図書（和書および洋書の単行本）**

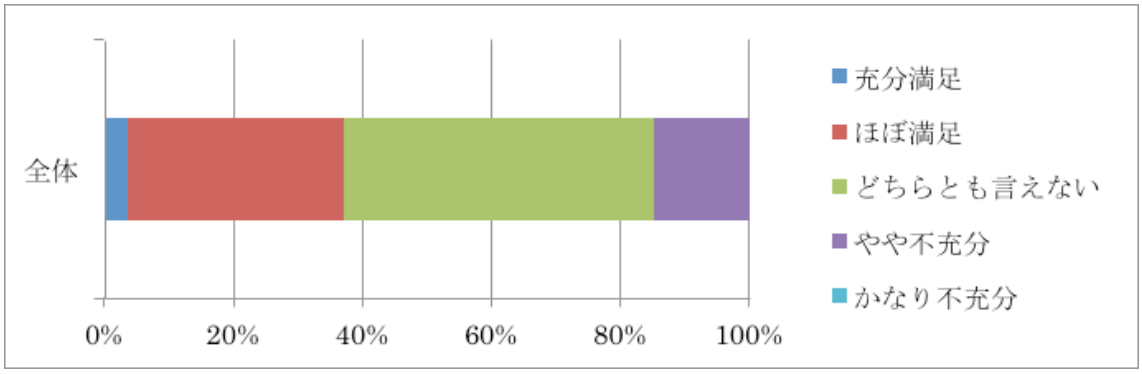


図 12(2)．所蔵図書

研究科全体では，「充分満足」，「ほぼ満足」を合わせた肯定的な意見が 37%で 11 ポイント増加であったのに対し，否定的な評価は 15%で 22 ポイント減少した。新しい蔵書が追加されたことによる効果であろう。今後も学部図書室の蔵書を充実させていくことが望ましいと思われる。また，追加された等の新情報の伝達を充実されれば，利用状況の改善につながるかもしれない。

**２．閲覧スペース**

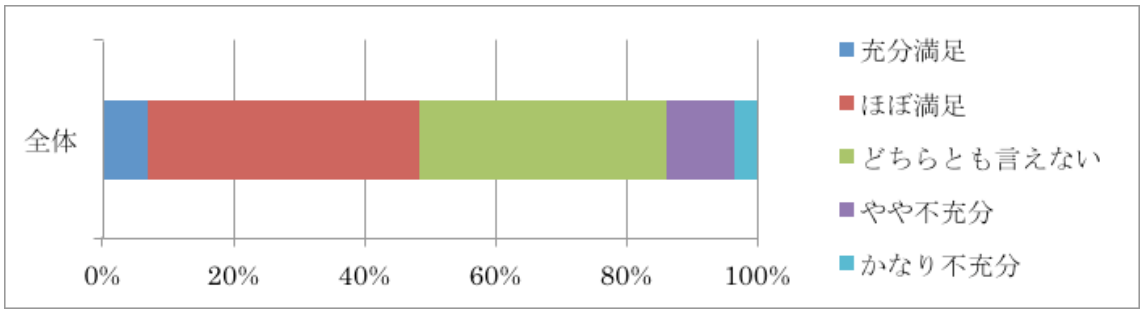


図 12(3)．閲覧スペース

研究科全体では，「どちらとも言えない」が増加し，「充分満足」と「ほぼ満足」の合計が 48%で 14 ポイント減少した。昨年度の結果からは関係者による改善が評価されていることが伺えたが，物理的に限られた空間であることも否めないだろう。

**３．開館時間**

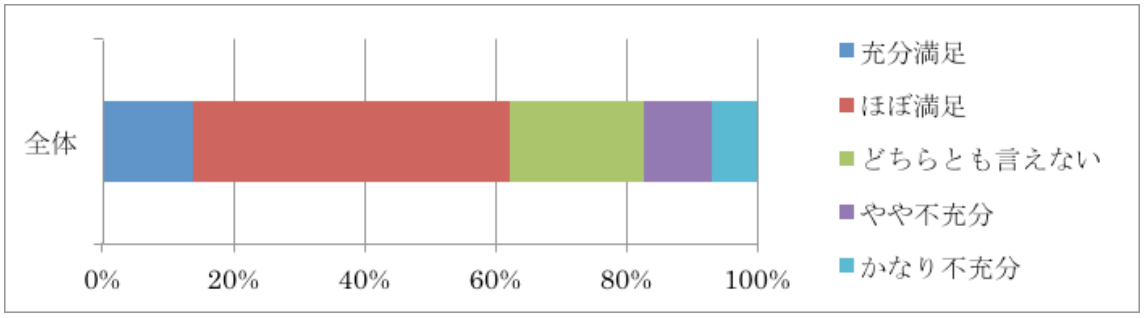


図 12(4)．開館時間

研究科全体では，肯定的評価は 62%で否定的評価は 17%であり，肯定的な評価が 4 倍程度であった。学生によって異なるようであるが，おおむね満足していると思われる。

**設問 14．本学部の以下の施設について，どのように感じていますか。該当する欄に〇を書き込んで下さい。**

**１．講義室**

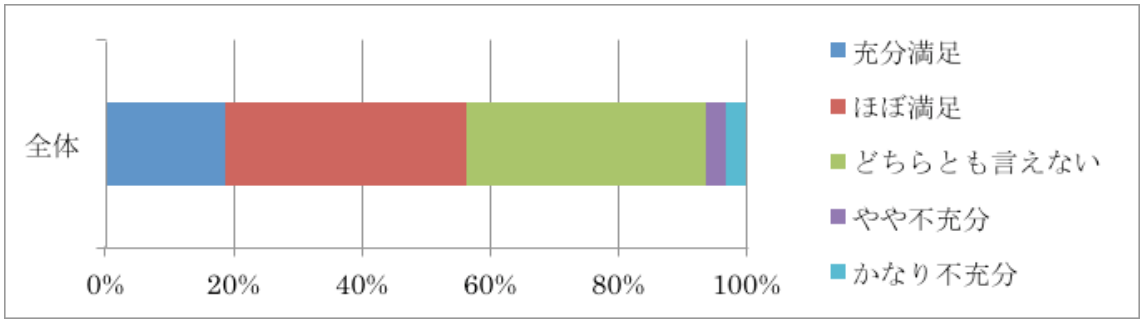


図 13(1)．講義室

研究科全体では，「充分満足」と「ほぼ満足」の合計が 57%で，7 割程度の評価を 2 年得られていたが今年度は減少している。各種映像機器の設置が進んだため高い評価を維持していたが，こ

れら設備の適切な維持・更新が望まれる。

### ２．実験・実習室

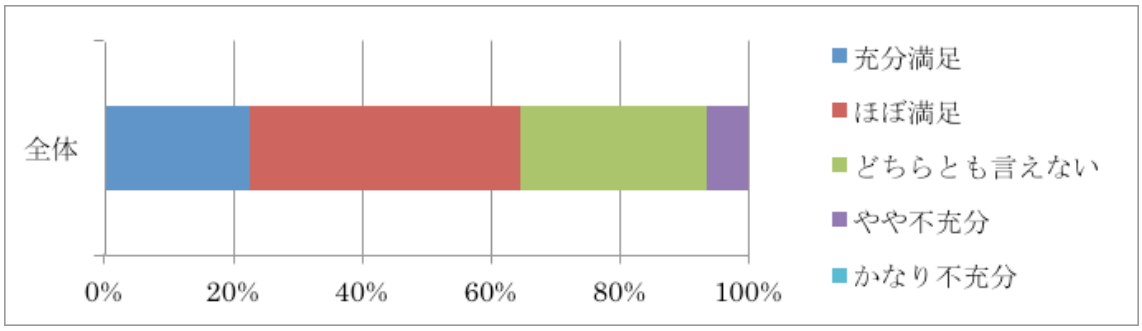


図 13(2)．実験・実習室

研究科全体では，肯定的評価は 65%で昨年度と同程度で，否定的評価は 15 ポイント減少した。平成 19 年度から空き室の利活用がはかられており，少しずつ改善が進んできていると思われる。

### ３．情報処理演習室

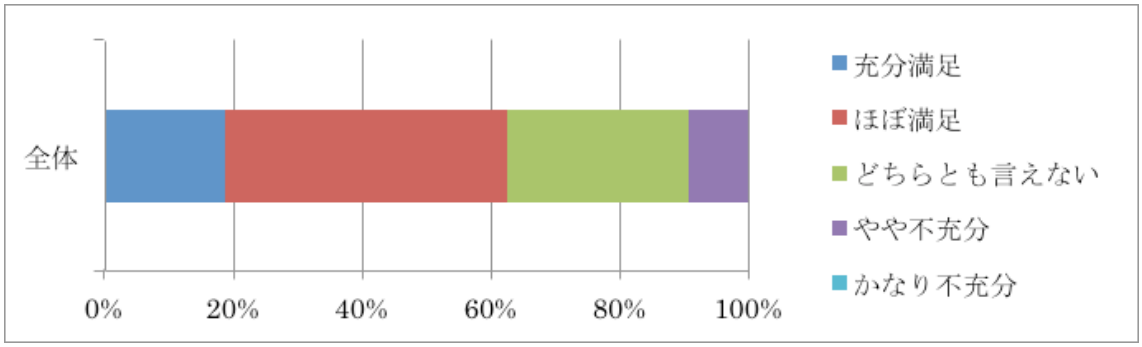


図 13(3)．情報処理演習室

研究科全体では，肯定的評価が 63%で，昨年度より 7 ポイント，一昨年度より 14 ポイント増加し，否定的評価は 9%で昨年度より 10 ポイント減少した。

### ４．修士研究を行った研究室

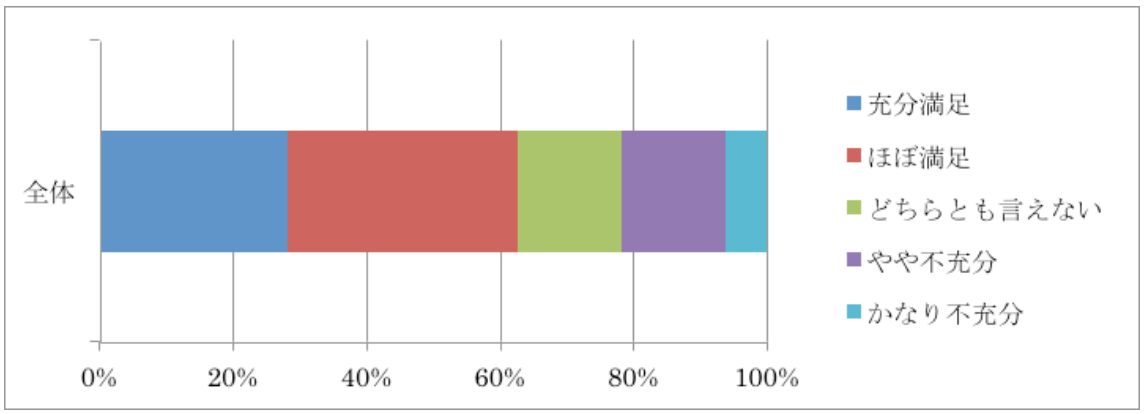


図 13(4)．修士研究を行った研究室

研究科全体では，肯定的評価が 62%で 24 ポイントと大きく減少した。同様に否定的評価も倍増し 2 割を超えている。対応は図られてきているが，設問 14 (2) にあるような要望も出ており，全て改善されている訳ではなく，継続しての適切な対応が望まれる。

**設問 14.（２）各施設に対する要望がありましたら具体的に記述して下さい。**

［生物機能科学専攻］

- 研究室のスペースにムラがあるのでムラをなくしてほしい。
- 講義室　伴坊の直風でしばしばプロジェクターがダウンする。プロジェクターのために部屋が寒い中，発表を聞かなければならないのは改善した方が良いと思う。
- 研究室　割り当てがおかしい。学科共同利用の部屋を自分の研究室のように使い込んでる所もあるのに実験室と学生部屋がわかれておらず環境が悪い中勉強をしなきゃいけないところもある。教員それぞれの地位にもよるのかもしれないが，学生にとっての学習環境は平等にしてほしい。
- 農生の廊下の電気をつけて欲しい。夜なのにセンサーがうまく反応してくれない。

［応用生命工学専攻］

- 情報処理室は通信の高速化を，講義室に冷房の装着を強く望みます。
- 研究室狭すぎる。
- 情報処理演習室の PC が重たい。院生の印刷枚数が「0」なのは不満。

［生物生産科学専攻］

- 24 時間使える場所があるといいと思った。
- 人数と部屋の大きさが合わないので机もイスも共有だった。広い部屋を割り当てて欲しい。
- 冷房の設備が必要だと思う。

研究室や実験・実習のためのスペースなどについての改善はされてきたものの，要望は出てきており，適正な改善を更に図る必要があるのだろう。節電のためではあるが，センサーの反応度合いも安全が損なわれないようにしなければならない。また，引き続き，暖房や冷房設備についても不満は多いようである。

**［修士研究について］**

**設問 15.（１）修士研究に満足していますか。**

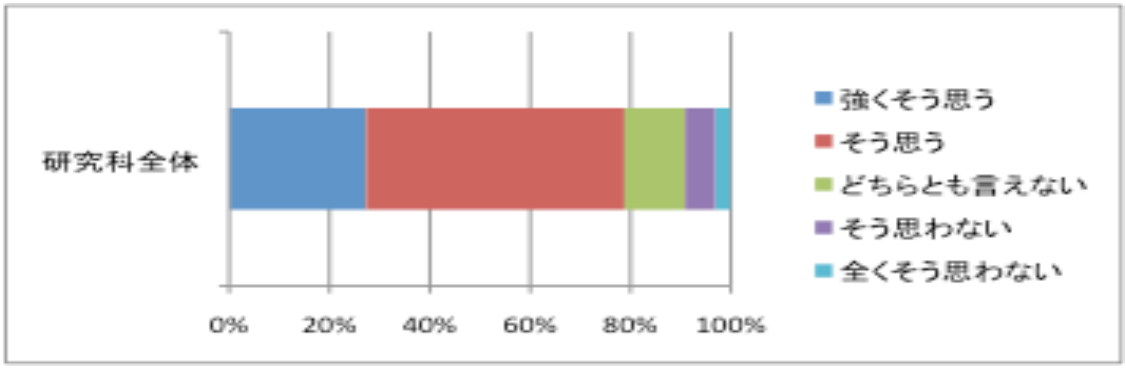


図 14. 修士研究に満足か

肯定的な評価は，研究科全体では79%であり，昨年度と同程度で，一昨年度からの上昇のまま高い評価を維持していることになる。概ね満足していると思われる。

**（２）上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。**

**１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない**

**４．そう思わない　５．全くそう思わない**

［生物機能科学専攻］

1　自分が興味あることについて研究でき，さらに最先端の技術を身に付けられたから。

1　納得できる成果をあげることができたから。

2　最先端の研究を研修することができ，私達の主食となる作物の研究だったからです。

2　他研究室の実験手法を学び自分の研究に活かせたのは非常によかったが，他研究室で主に実験をしなければならず，その研究室の学生にも迷惑をかけ，自分も自分の研究なのに自分の研究室で実験できず不便な思いをした。他の人がしなかったであろう気苦労をした気がする。

2　満足に研究することができた。

3　もっと勉強していたら，もといい結果がだせたから！！

4　社会への寄与が希薄であり，親族や就職活動時に話しづらい。

5　時間のあった修士1年の時は自分の研究とは関係ないことばかりやらされ2年になってからバタバタと間に合わせでやった感じになってしまった。

［応用生命工学専攻］

1　希望通りの研究が出来た。

1　全力で取り組むことができたから。

2　自由に研究できるから。

2　他では得られない専門的な知識・技術を習得できたと思う。

2　自分が納得いくまで研究成果を残せたから。

3　研究室が狭く，器具も少ないため，思うように進まない。

3　やれることはまだあったから。

［生物生産科学専攻］

1　自分自身を知る良い機会となったため。

1　心から尊敬できる指導教員のもとで2年間を過ごすことができ，とても満足しています。

2　機材や設備の都合上，行うことができなかった実験があるため。

2　スキルアップにつながった。

4　自分が最初に思い描いていたとおりには進まなかった。どうにもできない状況も様々あったが，本当にもっと学業に自分に集中したかった。

［地域環境工学専攻］

2　学部のときには学べない深い内容について研究できたから。

2　実験をしっかりやって，データを整理します。その中にいろいろなものを勉強しました。

2　自分のやりたい内容でできた。

修士研究に満足したという肯定的評価の回答には，研究を十分に行なうことができた，成果を

あげられた等の研究に対する充実感やスキルアップなどの自身の成長への満足感などの理由があげられている。また，指導教員との研究生活そのものに満足感を得ている学生も伺えた。一方，「どちらとも言えない」や否定的評価では，期待したような成果が得られなかったことや研究時間の不足および計画不備などの理由があげられていた。大学院生として研究をすることへの意識や自己評価が，これら理由となっていると思われる。

**設問 16.（1）研究科修了後のあなたの進路は次のうちのどれですか。**

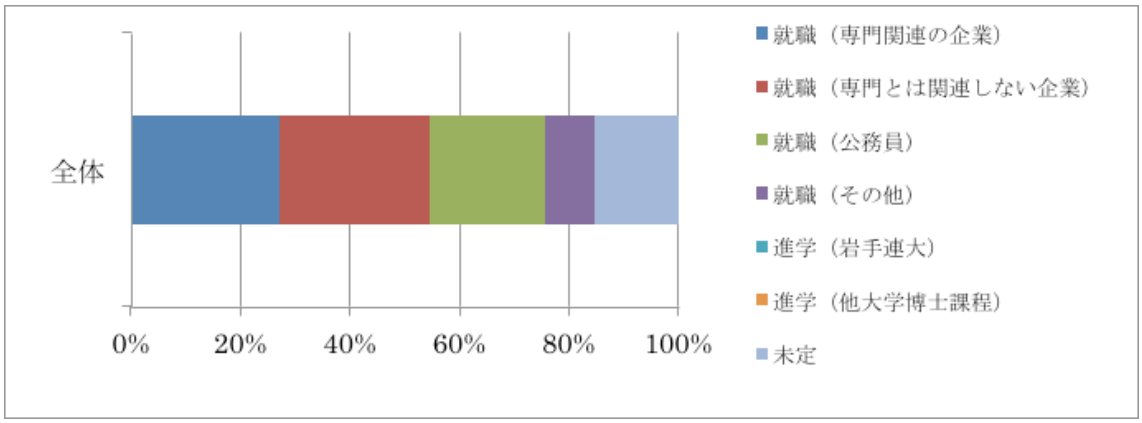


図 15(1)．進路

研究科全体では，「専門関連の企業」約 27%「非関連企業」約 27%で企業への就職が 6 割弱を占め，「公務員」21%で，昨年度に比べると非関連企業は減少しているものの，専門関連・公務員が増加しており，就職の全体合計は約 85%と昨年度より増加している。しかしながら，一昨年度は該当者がなかった「未定」は，昨年度より 6 ポイント減少したものの 15%であった。全体として昨年度より回復していることが伺えるが，より一層の就職や進学へ向けた努力が必要であろう。

**（2） 本研究科のカリキュラムで学んだことは，進路にどのように影響しましたか。**

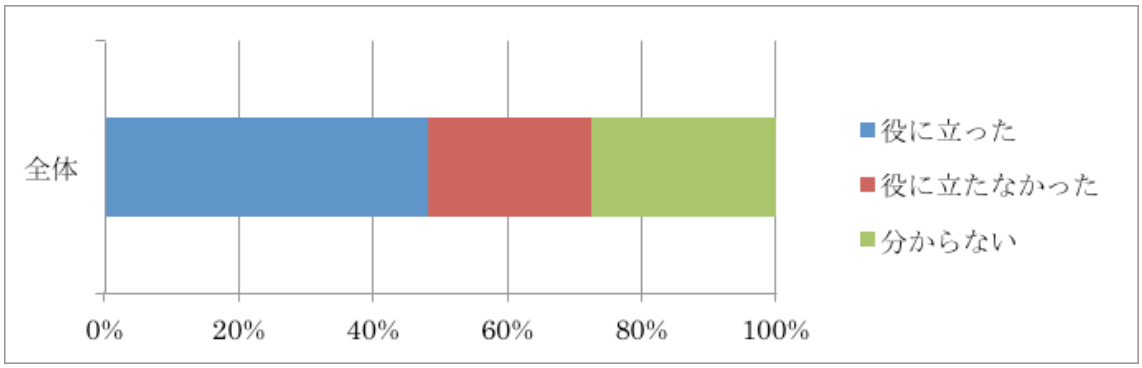


図 15(2)．研究科で学んだことの進路への影響

「役に立った」の回答は研究科全体の約半数の 48%で，この割合は，ここ 5 年間続いている。しかしながら「役に立たなかった」が 24%で昨年度より 14 ポイント増加している。前問における専門関連の企業への就職の割合が増加と矛盾しているようにも見える。次設問結果から，専門企業への就職を希望したが，専門関連以外の就職となり，理想通りでなかったと感じている学生が何人かいたためからかもしれない。年度によるばらつきであるかもしれないので，今後の動向

も注視していく必要があるであろう。

**（３）本学および本研究科の進路支援に対する取り組みは十分だったと思いますか。**

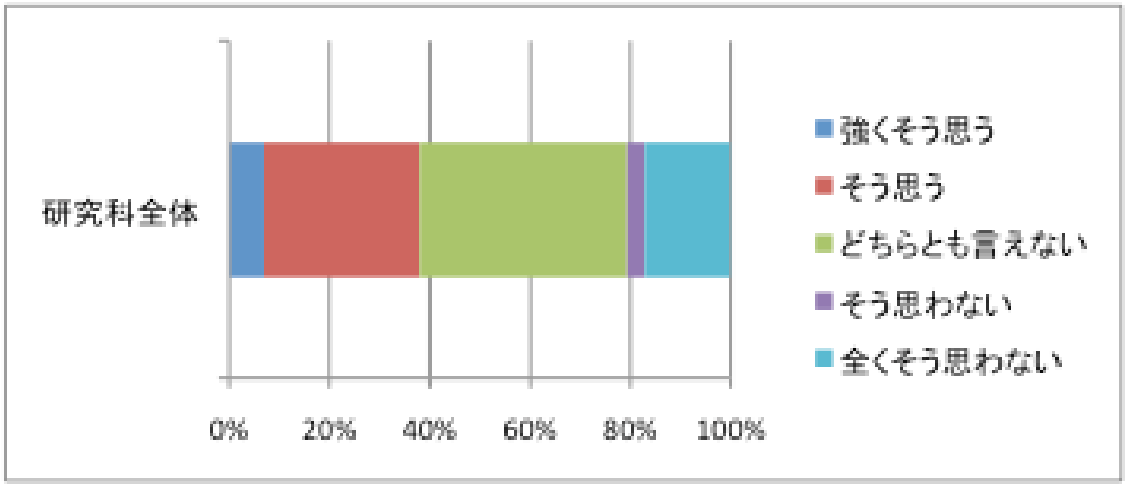


図 15(3)．進路支援の取り組みは十分か

研究科全体では，肯定的な評価が 38%で 10 ポイント増加し 4 割近くまで増加した。また否定的な評価も 20%で，11 ポイント減少し 2 年連続で減少している。研究科として進路支援に対する取り組みの改善が見られた結果であると思われる。

**[本研究科の教育のあり方について]**

**設問 17.（１）あなたが本研究科を修了するに当たり，大学院修了者としての知識及び学力を身に付けたと感じていますか。**

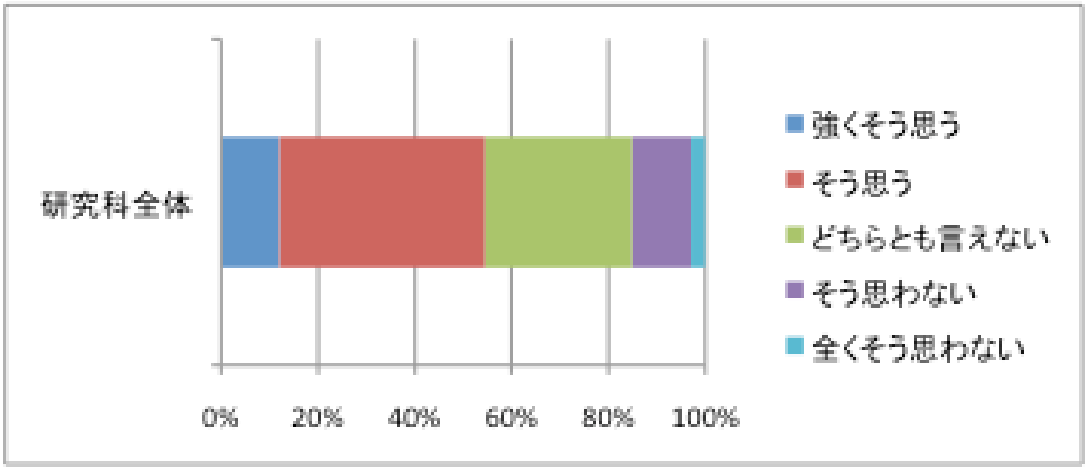


図 16.　大学院修了者としての知識および学力を身につけたか

研究科全体では，肯定的な評価が約 54%，「どちらとも言えない」が約 30%であり，肯定的な評価が昨年度より 9 ポイント，一昨年度より１６ポイント増加し，「どちらとも言えない」が 11 ポイント減少，否定的な評価は同程度だった。肯定的な評価が２年連続で増加しており，半数以上が修了生としての学力を身につけた感じている。

**（２）上記のように回答した理由を簡潔に記入して下さい。**

**１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない**

**４．そう思わない　５．全くそう思わない**

［生物機能科学専攻］

1　十分に専門分野に対する知識をつけることができたと思う。

2　自信を持って自分の研究について他の人に説明することができるからです。

3　専門知識は身についたが，その専門性は非常に狭く，社会への寄与ができる可能性が著しく低いと感じたため。

3　分野が狭い上。実験手法も限られた内容だったので，どうかわからない。その分野に関しては学部時代より知識が増えたと思う。

3　知識は少し足りないかもしれないが，発表や実験などの技術はよく身につけられたと思う。

5　パートのおばさんを雇ってやればいいことばかりやらされたため。

［応用生命工学専攻］

1　仕事でもいかせる知識を身につけたから。

1　これでもかというほど勉強した。研究内容が非常に高いものにすることができた。

3　専攻の分野は偏っているから。

3　技術的には充分得られたが知識・学力に関してはそうとは言い難い。

3　「大学院修了者として」がどの程度なのがわからない。

3　基準が不明。

4　4 年次よりも自ら考え行動することが多くなり，知識などが充実したと思っている。

［生物生産科学専攻］

2　弘大の大学院を修了したことを誇りに感じているからです。

2　物の考え方を系統立ててできるようになったと思うから。

3　なんとなく。

4　所属研究室で研究していた分野に関しては，知識が身についたと思うが，その他はそうでないため。

4　勉強不足。

4　満足できるところが多くないので。

肯定的評価の回答では，研究面での専門知識や成果に基づく理由や物事の考え方などの自分自身のスキルアップを挙げているようだ。「どちらとも言えない」や否定的評価では，学部のころよりは専門知識・技術など向上した思う反面，基準がわからない等，何を持って良好と判断できないと思う学生や，努力不足である等，厳しく自己評価をして答えた学生も例年に引き続きいるようである。教員側が修了生として認められるべきところを，もう少し具体的に説明する必要があるのかもしれない。

**設問 18.（１）本研究科の教育活動の中で最も早急に改善すべきと思われる点を次の項目の中か**

**ら一つ選んで下さい。**

**1. 学生に対する教員の指導方法　2. 授業の方法　3. 成績評価の方法**
**4. 補習授業　5. 教育・研究設備　6. 就職支援　7. 生活相談**
**8. 経済支援（奨学金など）　9. 健康相談　10. 留学生への援助**
**11. 身体障害者への支援　12. その他（　　）**
**13. 特に問題は無い**

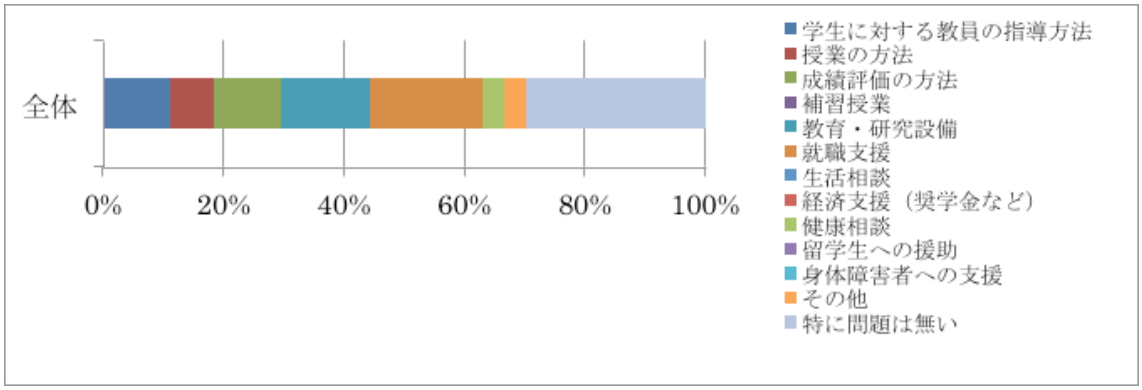


図 17. 早急に改善すべき点

研究科全体で見ると，「特に問題は無い」が 30%で最も多く例年同様である。改善すべき点としての上位３項目は，「6. 就職支援」が 19%で最も多く，次いで「5. 教育・研究設備」をあげた学生が昨年度同程度の 15%で，５ポイント減少した「1. 学生に対する教員の指導方法」および「３．成績評価の方法」がともに 11%であった。特筆すべき点は「6. 就職支援」が３ポイント上昇し年々上昇していることである。設問 16（１）の結果は昨年度より幾分改善されてはいるが，次の設問（２）の回答がその理由となっているのであろう。今後の最重要課題のひとつであろう。「３．成績評価の方法」については昨年度見られなかったため，改善できるところがあれば改善すべきであろう。

**（２）上記で選択した項目に関する要望を具体的に記入して下さい。**

［生物機能科学専攻］

3　研究で評価されているよりも，授業で評価されている方が成績優秀となるのはおかしいと思いました。もっと研究を評価することが必要だと思います。

3　まじめに研究や講義をやってる人と不真面目な人の評価があまり変わらなかったから。

5　研究設備はより充実させてもらいたい。

6　就職活動に必要な時間があっても，ほとんどを研究に費やさなければならず，突発的に決まった選考に出向きづらかったりしたので，柔軟に対応してほしい。

6　この分野は専門関連の企業に就職することが難しいため，そういうことを学部から修士に上がる前にガイダンス等を行い，覚悟してもらった方が良いと思う。

6　特に指導教員が就職へのフォローをいれるべきだと思う。専門性を活かせる職場を紹介してほしい。

6　就職支援は，農生独自でもっと行って欲しい。研究活動もおろそかにできないので，学生に自己管理させるだけではなく，もう少し支援が欲しい。

［応用生命工学専攻］

1　必要以上に学生への指導（何でもやってあげる）をやめた方がいいと思う。

1　研究室が，閉鎖的な環境であることを改善した方がよい。

2　授業内容の連携をもっと取ってほしい。第一種の奨学金受給者だけが，免除対象であるのはおかしいと思う。

3　学会等研究での欠席が成績に影響すること。

5　大学で購入する論文をもっとおおくしてほしい。また，学会への旅費の補助などをもっと増やしてほしい。

5　使用できない装置は撤去して欲しい。Nono-LC-MS/MS が使用できなくて大変困りました。

5　研究室をもっと広く。

9　場所が遠い。仕方が無いことなのですが。

12　農生教務課にいるある方の対応がひどい。仕事のやる気がない。常に上から目線で接し不快。

［生物生産科学専攻］

1　抱える学生が多過ぎて，一人一人に対する指導が雑になっているところがあるのでは？自分の決定したことを忘れ，何度も指示を変更し学生を振り回すのはやめていただきたい。

2　教員の都合による一方的なものが多いと感じています。

6　本研究科に所属していて就職を支援されたという実感がないし，そのような雰囲気もまったく感じられない。「就職支援」として本研究科が何か活動するのであれば，もう少し学生にダイレクトに伝わり役に立つ活動をして欲しい。

［地域環境工学専攻］

6　研究と就職活動の配分に悩んだので。

大学院生としての研究と就職活動との間のバランスの難しさを感じての指摘が多いと思われるが，どちらも重要な課題であろう。大学院生として厳しさのある指導，適正な評価を求める声や学生数アンバランスによる指導の分散等があげられており，十分な教育・研究を保証するためには，改善可能なことはすぐに改善し，より一層指導に関して努めていかなければならないだろう。事務連絡，経済支援，研究設備に関しての要望や批判にも耳を傾けなければならない。いずれも重要な課題であり，得られた傾向を踏まえて改善を図る必要があるだろう。

**設問 19. 本研究科で学生が期待する教育を受けるとともに充実した学生生活を送るために，希望する点や，大学または学部が改善すべき点があれば具体的に記入して下さい。**

［生物機能科学専攻］

・　研究の単位を上げ，複数の教員から評価されるシステムがあれば良いと思います。

・　修士 2 年に上がる前に研究が 8 割終わるようにしなければならないと思う。中間発表という形式をなくし，主指導教員と副指導教員を交えたディスカッションという形式にし，さらに時期を少し早めることで就活等にも若干余裕ができると思う。

・　就職活動に差し支えが無いように発表はできるだけ修士 1 年の段階で終わらせるようにすべきだと思う。

・　研究室ごとの対偶の差をなくしてほしい。

［応用生命工学専攻］

・　研究室内でのパワハラが見受けられる研究室がある。是非調査すべきである。

・　あすなろ賞以外の学会などへの補助費を受けれれば，もっと学会などへ行く人も多くなると思う。学会参加時の授業は基本的に欠席扱いされてしまい，必修授業などが入っていると学会への参加を考えてしまう。そのため，学会参加した場合は出席扱いにしてほしい。

・　大学側からの旅費の支給。

［生物生産科学専攻］

・　プレゼンを行う機会を増やし，社会に適応した学生を目指すことが大事かと思います。

・　すべての階に車イスに対応したトイレを設置してほしい。

［地域環境工学専攻］

・　図書館の図書更新お願いします。

回答は多種多様であるが，この項目でほぼ毎年あげられていた冷暖房の利用への強い要望はなかった。学部として取り組んでいる節電の意識が浸透してきているからかもしれない。その他，学会などのへの旅費の補助や就職活動に関することもあげられている。いくつかの回答は前設問における回答と類似した回答であった。

**設問 20.（１）総合的に判断して本研究科・専攻の教育・研究に対する取組み・姿勢に満足していますか。**

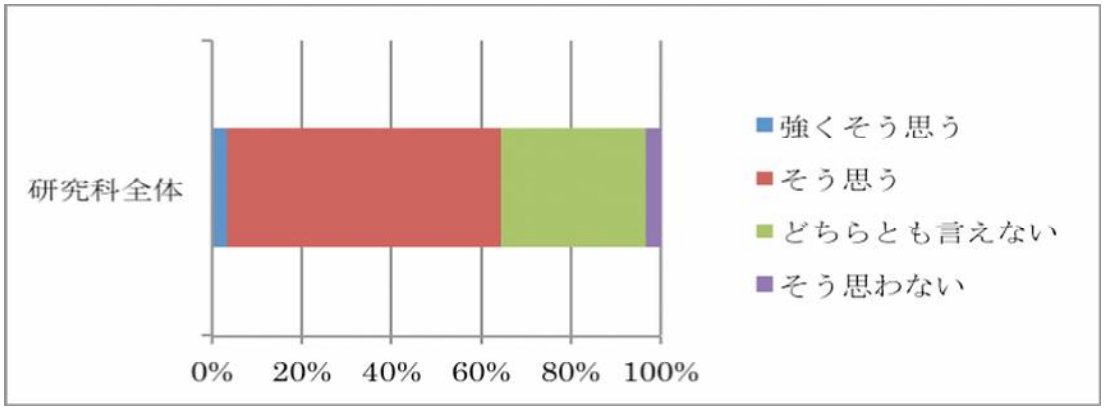


図 18．本研究科の教育研究に対する取り組みに満足か

肯定的評価は，研究科全体では 66%，「どちらとも言えない」が 32%であった。肯定的評価は昨年度，一昨年度とほぼ変わっていない。一方で否定的評価は 3%で，昨年度より３ポイント増加，一昨年度より８ポイント減少であった。

**（２）上記のように回答した理由を記入して下さい。**

**１．強くそう思う　２．そう思う　３．どちらとも言えない**

**４．そう思わない　５．全くそう思わない**

［生物機能科学専攻］

2　研究だけでなく社会を学ぶことが出来たからです。ただ研究をすることだけでなく様々な人

との関わりを大事にしていると感じたからです。
2　自分自身は今現在満足しているほうだが，振り返ってみると改善して欲しい所がいろいろあるので。

［応用生命工学専攻］
2　よい先生に恵まれたので。
2　特に不満がないから。
2　有意義な研究を行うことができた。自己満足とはいえ。
3　研究面では満足であるが，それ以外が何ともいえません。
3　やりたい実験があっても使用できる装置が弘大に無いのでやれることが制限される。でも大まかに考えると充分満足している。
4　指導教員に指導能力はなかった。

［生物生産科学専攻］
2　総合的にみて，やはり進学したことは正しかったと心から思います。2 年間ありがとうございました。
2　地域に根ざした研究を積極的に行っているため。
2　所属研究室での活動に大変満足したため。
3　勉強不足だから
3　合う合わないはどうしても仕方が無いので。

［地域環境工学専攻］
2　いろいろなことを学び，ありがとうございます。

肯定的評価では，「有意義な研究ができたから」「自身の充実感」等，取り組んだ研究の成果や取り組み対する満足感，自分の努力に対してなど総合的な充実感，という観点から捉えた回答理由が多かった。また，やや否定的意見としては，努力不足等の全体の取り組みに対する評価とよりもむしろ個人に対しての意見や，また研究以外の点でやや満足感が足りないと感じている学生もいるようである。設問 17～19 にある意見とリンクしているのであろう。今後の課題もあるだろうが，総合的に判断して概ね満足していることが伺える。

## Ⅲ．教員対象授業アンケート（学部授業および研究科授業）

### １．アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学部および研究科の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため，学部および研究科の授業に関する教員の意識について調査することを目的にアンケート調査を実施した。

調査方法：各教員にアンケート用紙を配布することで調査を行った。各教員が担当している授業のうち最も重要と考えられる学部専門教育科目，研究科講義科目それぞれ１科目の合計２科目について回答してもらった。

調査対象:平成 25 年３月に学部,研究科および生物共生教育研究センターに所属の教員とした。
調査期間：平成 25 年 3 月 21 日～4 月 5 日
教員数：　71 人　回答者数：　53 人(学部)，71 人　回答者数：53 人(研究科)

調査項目：設問は以下の通りである。

『学部授業および研究科授業に関する調査』
設問 1. あなたが所属する学科等を選択して下さい。
設問 2. 授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。
① 予定回数（２単位 15 回とし，集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目を除きます)
② 実施回数（集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。オムニバス形式の科目を除きます)
設問 3. 休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。
設問 4. ① シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。
② 上記で,「３.」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。
設問 5. ① 本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。
② 上記で,「２」または「３」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。
③ 上記の場合で，シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。
④ 上記の設問③で「１」と回答した方は，その具体的な事例を教えて下さい。
設問 6. 学部の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。
設問７. 学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可)。
設問 8. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが，そのような場合への対応として，どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。
設問 9. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために，このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。
設問 10. このアンケート調査の実施や内容について他にご意見がありましたらご記入下さい。

## ２. 学部授業に関する調査結果

**設問１. あなたの所属学科をお答え下さい。**

表 1. 回答率

| | 教員数（人） | 回答数（人） | 回答率（%） |
|---|---|---|---|
| 学部全体 | 71 | 53 | 75 |
| 生物学科 | 14 | 11 | 79 |
| 分子生命科学科 | 14 | 9 | 64 |
| 生物資源学科 | 13 | 11 | 85 |
| 園芸農学科 | 15 | 12 | 80 |
| 地域環境工学科 | 11 | 7 | 64 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 生物共生教育研究センター | 4 | 3 | 75 |

学部全体の回答率は 75%で昨年度（74%）より 1 ポイント向上した。

**設問 2. 授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。**

**(1) 予定回数（２単位 15 回とし，集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）**

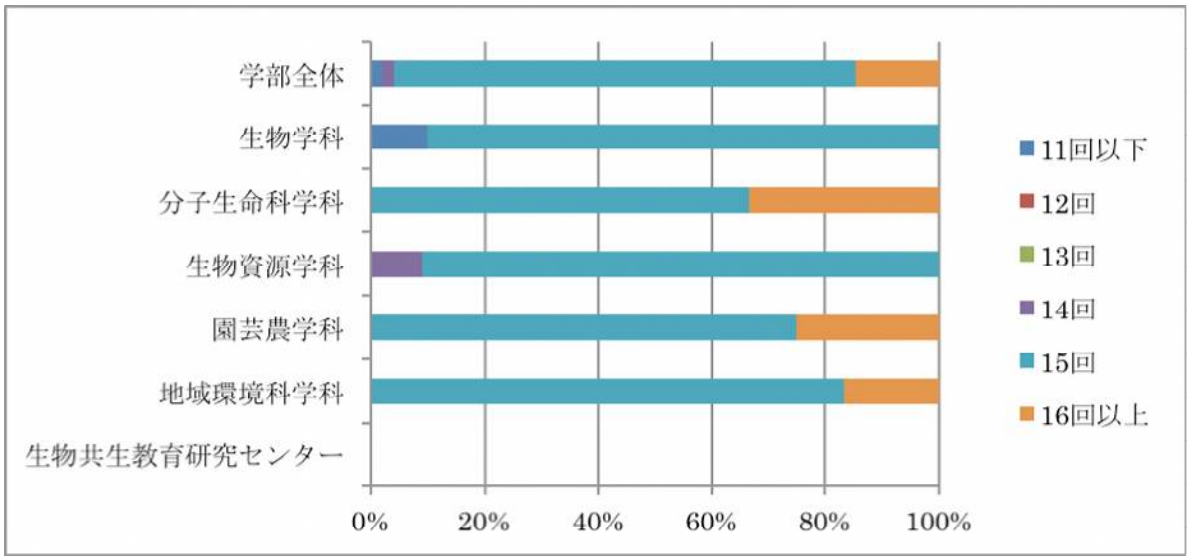


図 1(1)．授業予定回数

毎週定期的に行う授業の規定回数は 15 回となるが，学部全体では 81%がその通りの回答となった。また，16 回以上とした回答が，昨年度では 11 件であったが本年度では学部全体で 7 件あり 15%であった。14 回とした回答は，生物資源学科で 1 件あった。また，11 回以下とした回答は生物学科で 1 件あった。

**(2) 実施回数（集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）**

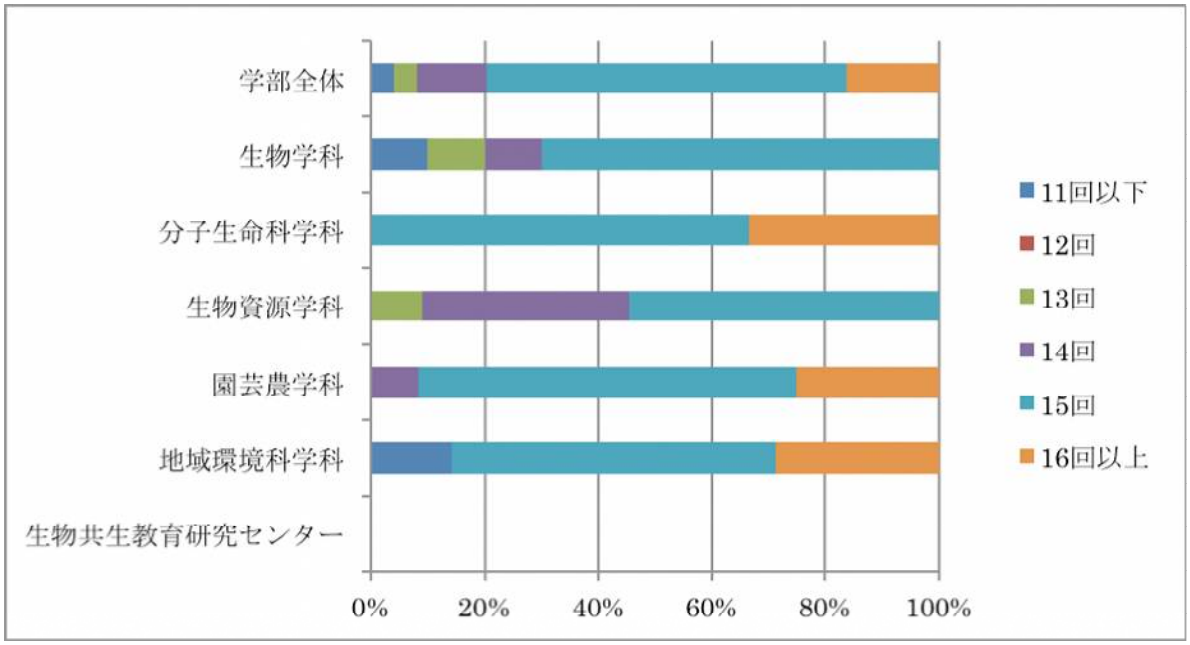


図 1(2)．授業実施回数

授業実施回数が予定回数に達していない科目は，応用生命科学科を除くすべての学科で認められた。学部全体で 15 回実施された講義は 63%であり，昨年度(57%)より 6 ポイント上がった。16 回以上とした回答が昨年度では 10 件であったが，本年度では学部全体で 8 件あり 16%であった。15 回あるいはそれを上回って 16 回以上実施された講義は，生物学科では 78%，分子生命科学科では 100%，生物生資源学科では 55%，園芸農学科では 92%，地域環境工学科では 86%であった。なお，14 回とした回答が 6 件，13 回とした回答が 2 件、11 回以下とした回答が 2 件あった。

**設問 3．休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。**

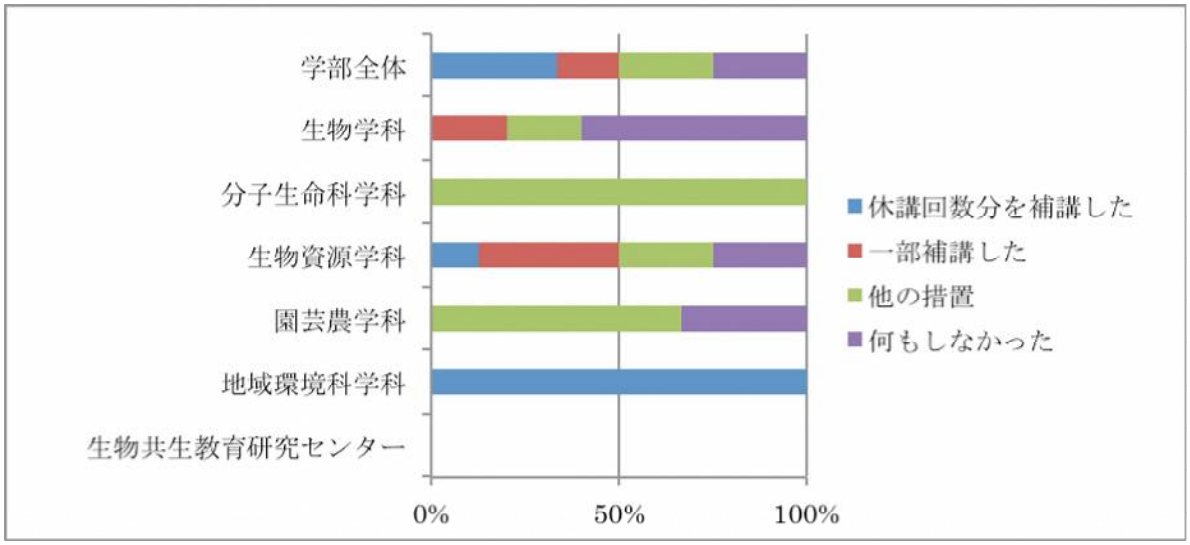


図 2．休講の代償措置

休講にした場合，補講などの代償措置がとられたのは，学部全体では 75%であった。この比率

は昨年度（約 89%）より約 14 ポイント減少したが，休講した場合は何らかの代償措置を講じることが望まれる。また一方で，16 回以上実施された講義があったため，講義を規定回数で実施することも望まれる。

講じた代替措置
[生物学科]
レポート。
課題を出し，レポートとして提出してもらった。
[分子生命科学科]
・　課題レポート。
[生物資源学科]
宿題・レポート。
レポートの提出，次回にその内容を解説。
[園芸農学科]
課題を出す。
課題を与えた。

**設問 4. (1) シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。**

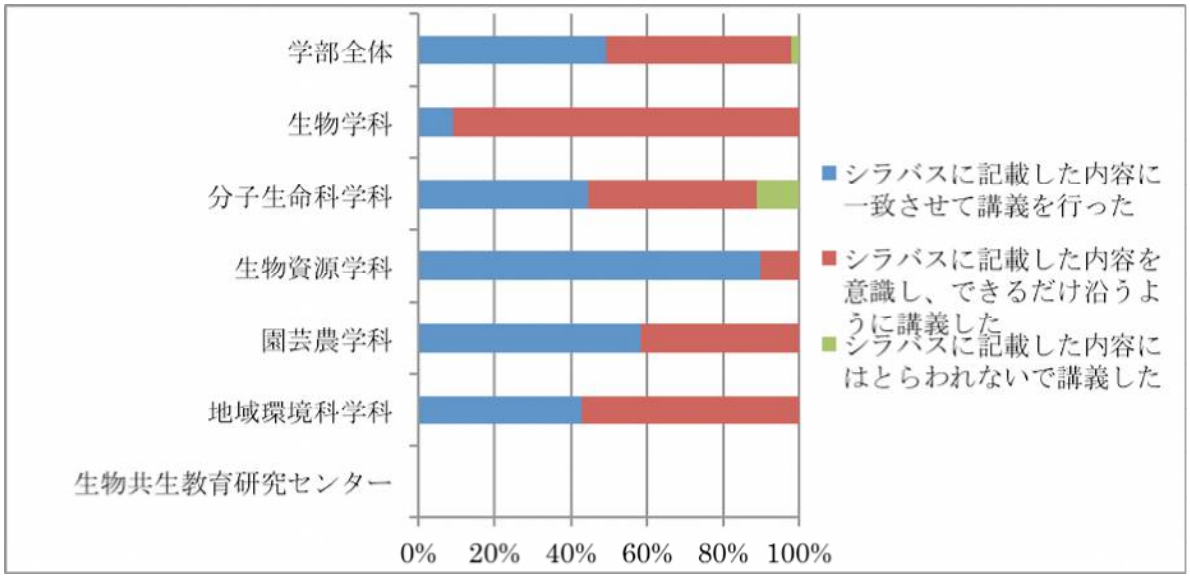


図 3. シラバスと実際の授業の一致度

学部全体でみると，「一致」と「できるだけ一致」の回答は，それぞれ 49%と 49%であり，シラバスに沿った講義が概ね行われている。なお，「とらわれない」の回答は 2%であった。「一致」の回答が，生物資源学科で 90%と最も高く，生物学科では 9%であり，学科間で大きな差が認められた。

**(2) 上記で，「3. 内容にはとらわれないで講義した。」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記入して下さい。**

［分子生命科学科］
シラバスにはとられないで授業をしたが結果としては一致した。

**設問 5. (1) 本年度のシラバスの記載内容は昨年度と同一でしたか。**

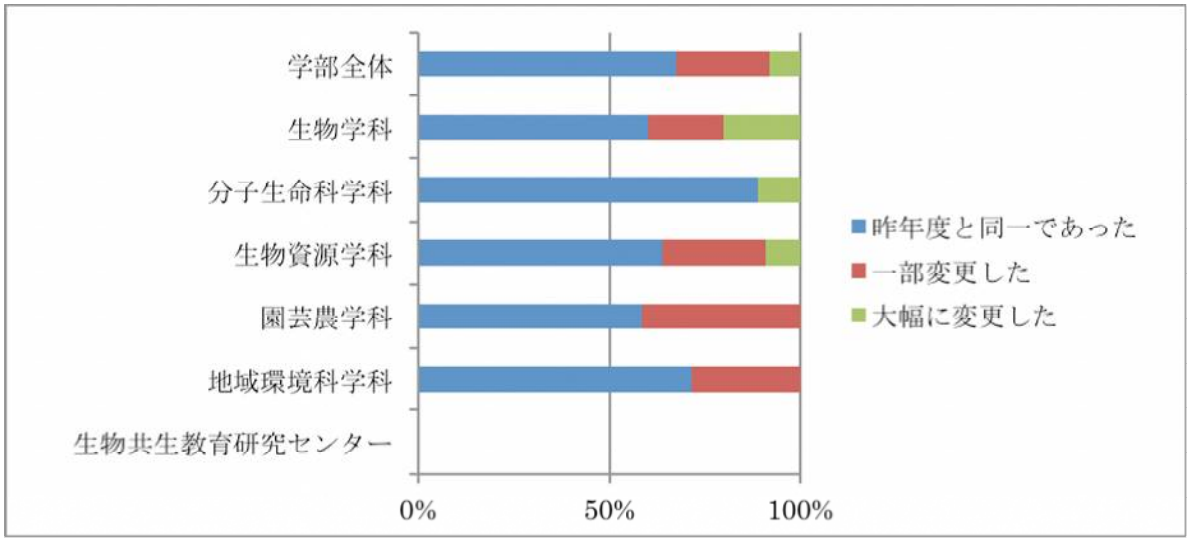


図 4(1). 昨年度のシラバスとの比較

シラバスが昨年度と「同一」であった授業の割合は学部全体で 67%と昨年度(52%)と比べて 15 ポイント増加した。また,「一部変更」の回答は, 学部全体で 24%であり, 昨年度(46%)よりも 22 ポイント減少した。「大幅な変更」との回答は 4 件 (8%) であり, これらのことから昨年度のシラバスをあまり大きくは変更していない傾向が認められた。

**(2) 上記で,「2. 一部変更した。」または「3. 大幅に変更した。」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。**

［生物学科］
2　より新しい知見を取り入れるため。
3　同一タイトルの講義を引き継いだ。内容も自分の目で見直しを行った。
2　補足+内容の変更。時間内に全部を伝えるのは難しいため。
［分子生命科学科］
3　はじめての授業があったから。
［生物資源学科］
3　内容をより充実させるため。
2　前年度理解に時間を要する（もっと時間を割いて説明した方が良かった）と感じた内容に割く時間を多くしたため。
2　時代に合わせて一部を少しずつ改変している。
2　新しい内容を入れた。
［園芸農学科］
2　TPP など情報の変更があった。
2　改良をはかった。

2　予習復習の必要性を記載した。
2　わかりやすくするため。
［地域環境工学科］
2　詳しい情報や進歩内容を加えた。
以上から，シラバスには大幅な変更は加えられていないものの，学生の理解度やこれまでの履修状況あるいは学問分野の進展や現状を踏まえ各教員が適宜改訂しているものと判断された。昨年度は，単位の実質化に伴う 16 週授業展開に対応するための変更が多く行われていたことが傾向として認められたが，本年度それはみられなかった。

**(3) 上記の場合で，シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。**

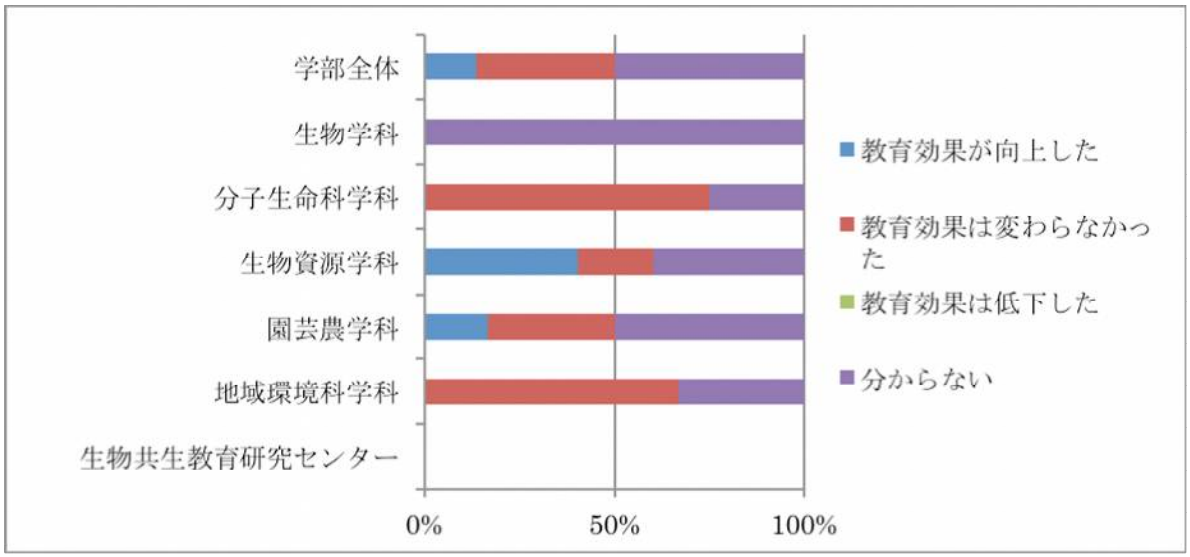


図 4(2)．シラバス変更の効果

シラバス変更の理由・目的は，その多くが授業改善にあるが，「教育効果向上」の回答は，学部全体でわずかに 3 件(14%)である。学部全体での「変わらず」と「わからない」との回答は，それぞれ 8 件(36%)と 11 件(50%)であり，シラバスの変更が教育効果向上に寄与していないあるいはその効果が判然としない場合も多くあることが認められた。

**(4) 上記の設問３で「１．教育効果が向上した」と回答した方は，その具体的な事例を教えてください。**

［園芸農学科］
・　最新情報を提供した。

**設問 6．学部の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。**

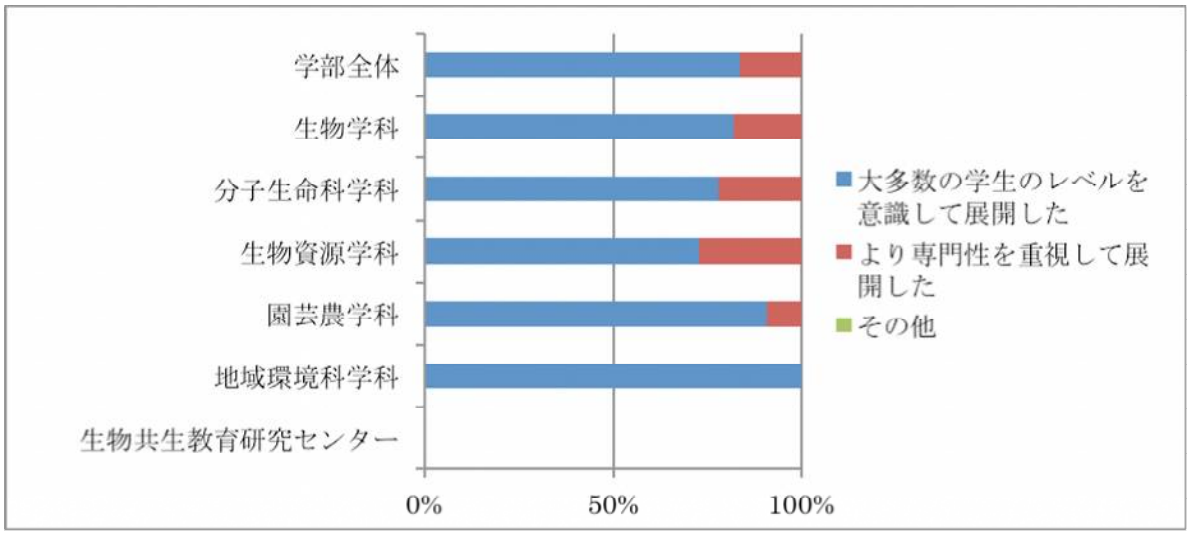


図 5．講義展開の考え方

学部全体では，「学生のレベルを意識して講義を展開した」との回答が昨年度は 68%であったのが 84%と大きく上昇したのに対し，「専門性を重視」は昨年度の 28%から 16%へと減少し，学生のレベルを意識している傾向が益々強まっていると思われる。

「その他」の回答
[園芸農学科]
必要と考えられることを優先して取り上げ，そこにはレベルがどうこうという考慮はそもそもしませんでした。

**設問 7．学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。**

1. **視聴覚教材（ビデオや DVD 教材など）の利用**
2. **画像データ（OHP，スライドプロジェクター，プレゼンテーションソフトなど）の提示**
3. **授業の合間に質疑や討論の時間を設けた**
4. **小グループによる課題学習の発表や討論の場を設けた**
5. **宿題（レポートを含む）を課した**
6. **その他（　　）**

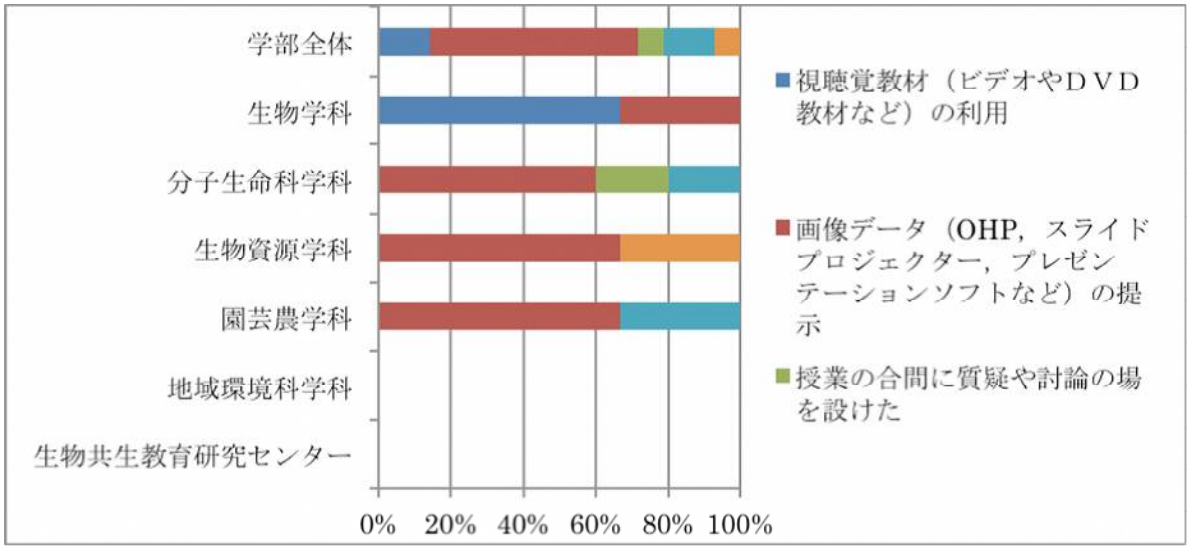


図 6．授業の工夫

全体として授業の工夫は行われており，学科全体では，「画像データ」(57%)が最も多く，「視聴覚教材」(14%)の利用，宿題（レポートを含む）を課す(14%)がこれについだ。「授業の合間の質疑や討論」が，分子生命科学科で僅かではあるが実施されていた。注：地域環境工学科は複数選択肢解答のためデータ示されていない。

「その他」の回答
[生物学科]
研究室セミナーを行い参加を促した。
[分子生命科学科]
ネットラーニング（moodle）の活用。
プリントを配布。
[生物資源学科]
忘れないうちに小テストを行って自主勉強の意欲を促した。
[園芸農学科]
小試験の実施
[地域環境工学科]
かんたんな実験（実演)。

**設問 8．成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが，そのような場合への対応として，どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。**
[生物学科]
答案を学生とともに見ながら説明を行う。
設問にたいして，どのような答えが正解となるのか，理由を説明している。
まだそのような学生には会っていませんが，点数の根拠を示すと思います。
今までそのような学生はいなかった。
１人１人丁寧に理由を説明している。

評価方法を明確化し，いつでも説明ができる準備をしている。
［分子生命科学科］
問い合わせがあれば答える。
納得のいくような説明を心がけている
試験の答案用紙を見ながら，解説し，どこが間違っているか理解してもらう。
丁寧に説明する。
成績表を気にすることのくだらなさ，そしてそれ以上に重要なことがあることを説明する。
解答は全員に返却している。採点に疑義を持つ学生には充分対応している。
［生物資源学科］
評価方法について明確な説明をする。
何を指標として成績をつけているかを具体的に説明する。
テストの採点結果を実際に見せて何故このような成績になったのかを説明している。
中間試験と期末試験を行っていますが，希望者には返却している。
テストの PDF 化と返却と維持による公開。
試験実施の翌週に答案を返却するとともに模擬解答を示すとともに，採点の基準も紹介している。
来室してもらい内容を説明する。
［園芸農学科］
評価方法をシラバスにも示し，対応が必要な場合には示すことができるようにしている。
相談を受けた経験がない。
これまでにそのような例がない。もしあれば，真摯に対応する。
疑義を唱えた学生はいない。
評価基準を事前に公表しています。
［地域環境工学科］
テスト等は解答例を用意している。
答案を返却し，かつ採点のポイント等の解説を行った。
最初の講義時にシラバス（内容）と成績評価について説明。最終講義後，疑義のある学生については個別に話し合う。
疑義で質問されたことはないので，取り組みはしていない。

昨年同様，成績評価に疑義を持つ学生に対して評価基準を示して説明する等多くの教員は積極的に対応している。

**設問 9. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために，このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。**
［生物資源学科］
教育の向上効果があったり，学生に好評だった講義方法を書いていただく項目。
これ以上 Q を増やすと回収率に悪い影響が出るかも知れないので，増やさない方が良い。
［園芸農学科］
講義に関して工夫している点を書いてもらったらどうですか？
あなたの講義に対する学生の評価についてどのように考えますか？

**設問 10. このアンケート調査の実施や内容について他にご意見がありましたらご記入下さい。**

［地域環境工学科］

もう少し続けて行い，その結果を FD に反響。学生との対話も必要（アンケート結果について）。

## ３．研究科授業に関する調査結果

**設問 1. あなたが所属する学科等を選択して下さい。**

表 1. 回答率

| | 教員数（人） | 回答数（人） | 回答率（%） |
|---|---|---|---|
| 学部全体 | 71 | 53 | 75 |
| 生物学コース | 14 | 11 | 79 |
| 分子生命科学コース | 14 | 9 | 64 |
| 生物資源学コース | 13 | 11 | 85 |
| 園芸農学コース | 15 | 12 | 80 |
| 地域環境工学コース | 11 | 7 | 64 |
| 生物共生教育研究センター | 4 | 3 | 75 |

研究科全体の回答率は 75%であり，昨年度（67%）よりも高くなった。今後，さらに回答率を高めるための工夫が必要である。

**設問 2. 授業の予定回数と実施回数について記入して下さい。**

**(1) 予定回数（２単位 15 回とし，集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）**

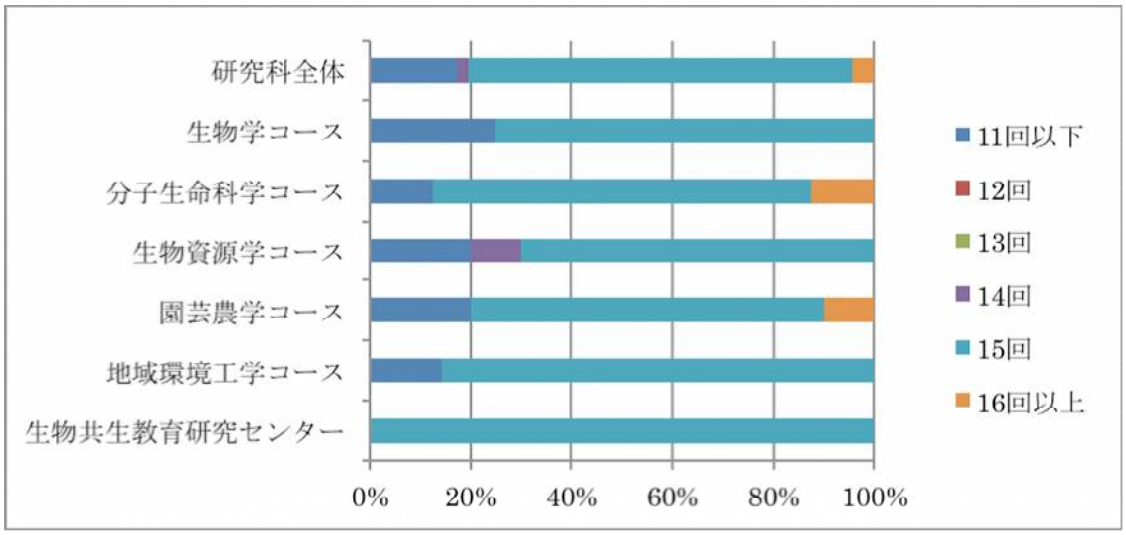


図 1(1)．授業予定回数

授業予定回数を規定回数である 15 回と回答した教員は，研究科全体では 76%で，昨年度(91%)よりも 15 ポイント低くなった。

**(2) 実施回数（集中講義の場合は 90 分を 1 回に換算して下さい。）**

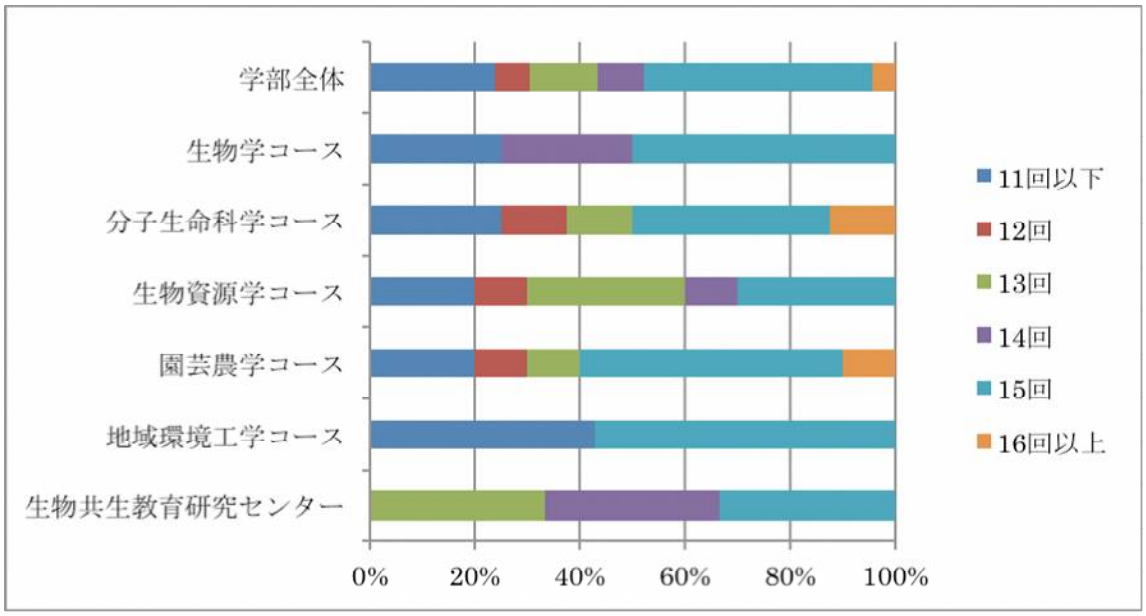


図 1(2)．授業実施回数

授業実施回数が 15 回の割合は，研究科全体では 43%であり，昨年度(49%)より 6 ポイント減少した。研究科全体で，14 回が 9%，13 回が 13%，12 回が 7%，11 回が 24%，16 回以上が 4%であり，学部と比較して規定回数通りに講義が実施されていないことが多かった。コース別では，15 回の実施率が，地域環境工学で 57%と最も高く，生物資源学で 30%と最も低く，コース間で違いがあることが認められた。

**設問 3．休講した場合の代償措置はどのようにしましたか。**

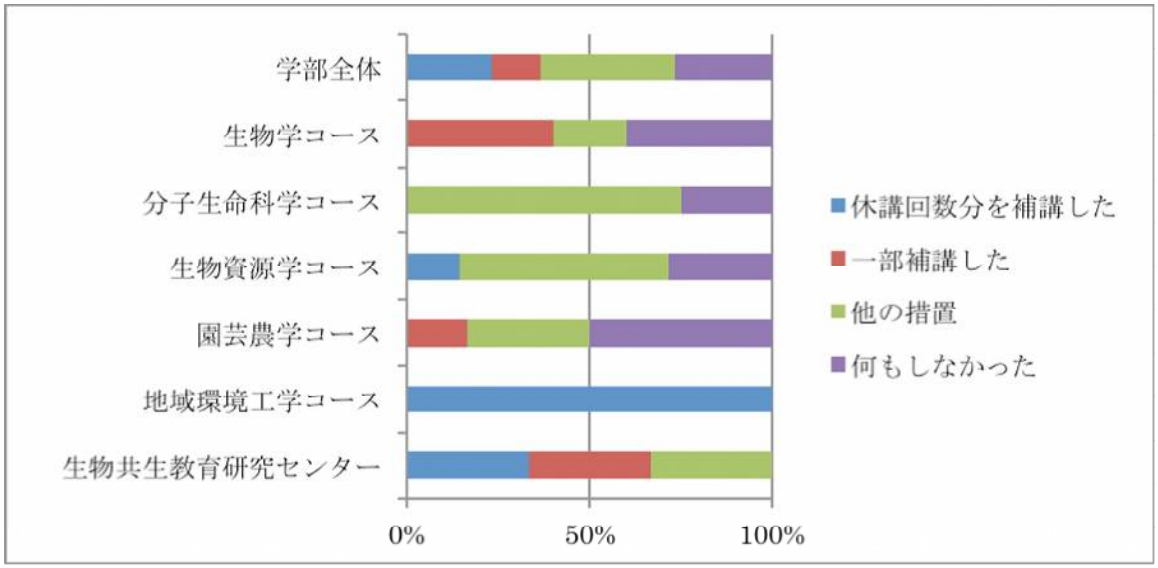


図 2．休講の代償措置

研究科全体で「補講した」との回答は，23%であり，昨年(45%)と比較して 22 ポイントも低下した。さらに，「４．何もしなかった」とした回答は，27%であり，昨年(16%)と比べて増加した。「３.他の措置」とした回答は，37%と最も多かった。

講じた代替措置（および回数が少なかった理由）
［生物学コース］
2 回分の講義を 120 分として。
［分子生命科学コース］
課題に対するレポートの提出。
課題を与える。
発表させるため受講者の人数により回数は変動する。
［生物資源学コース］
レポート。
レポートや発表準備期間。
課題を出し，発表してもらった。
各自の予習時間とした。
［園芸農学コース］
課題提出。
資料を配布して自習を指示。
［地域環境工学コース］
フィールドでの説明。
［生物共生教育研究センター］
資料配布。

**設問 4. (1) シラバス記載の内容と実際の授業内容との一致の程度について答えて下さい。**

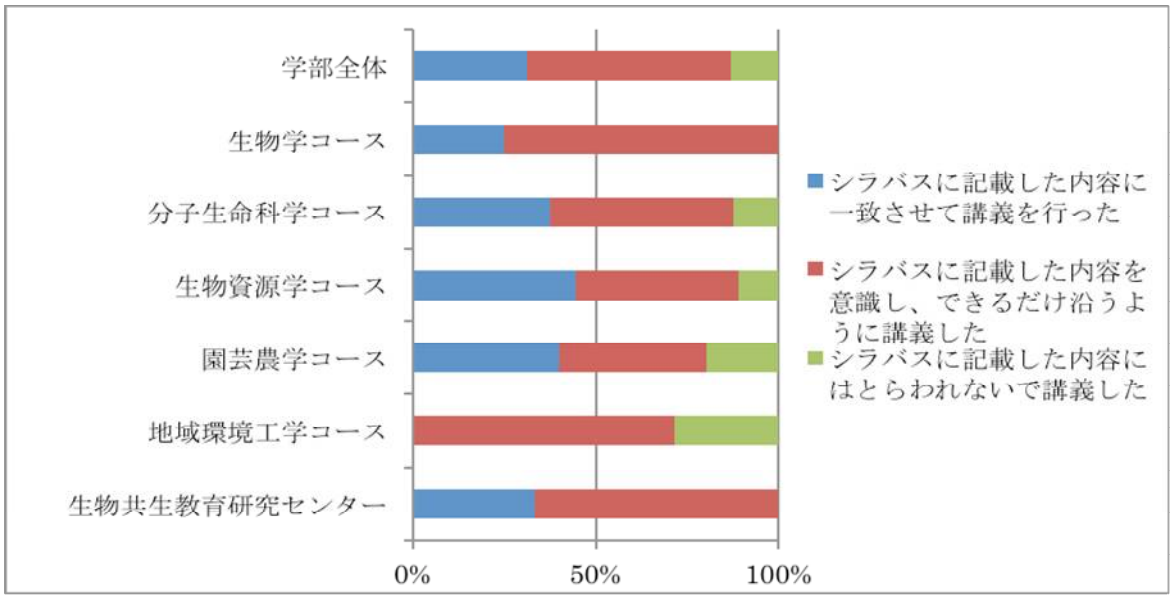


図 3. シラバスと実際の授業内容との一致度合

研究科全体で見ると，「シラバスと一致」，「できるだけ一致」と合わせると 87%となり，昨年度(95%)と同様に概ね教員がシラバスに準じた講義が行われていた。

**(2) 上記で，「3. 内容にとらわれないで講義した」と回答した方はその理由を下欄に具体的に記**

**入して下さい。**
[分子生命科学コース]
学生の意向を尊重した。
[園芸農学コース]
受講者が 1 名だったので授業の進展が速かったことと本人の興味に多少合わせて内容を変更した。
学生の専門に応じて学生に説明して変更した。
[地域環境工学コース]
専門講座の内容に合わせるようにした。
学生の予備知識が乏しかったため。

**設問 5. (1) 本年度のシラバスの記載内容は前年度と同一でしたか。**

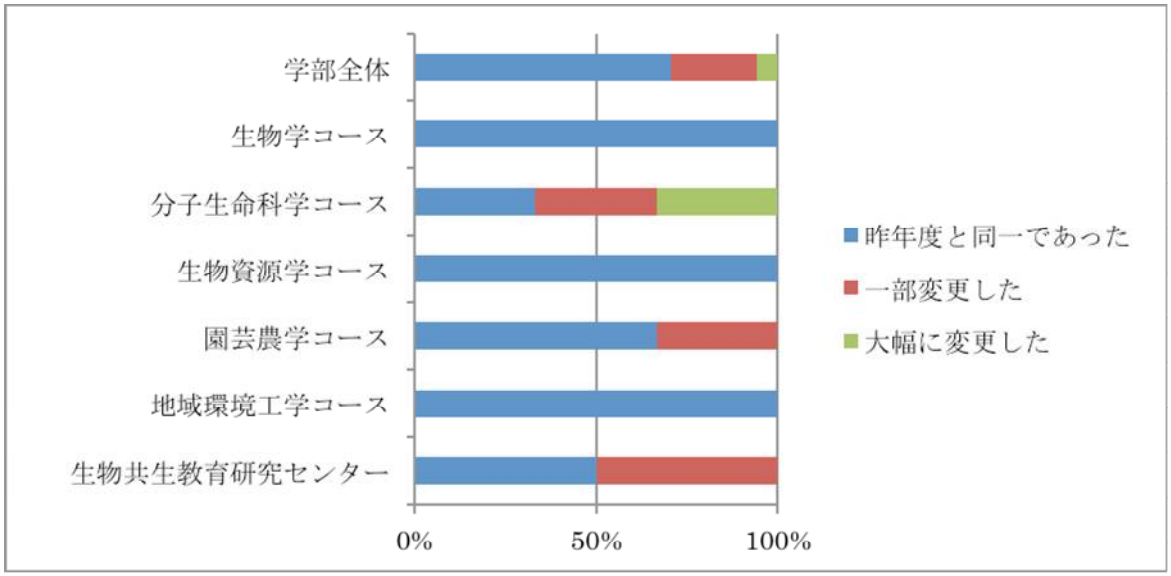


図 4. 前年度のシラバスとの比較

研究科全体では,「昨年度と同一」と「一部変更」がそれぞれ 71%, 24%であった。これらの合計は 95%であり, 昨年度(98%)と同程度であった。「大幅に変更」は全体で 1 件(6%)であり, 作年度と同様にシラバスを大きく変更しない状況が認められた。

**(2) 上記で,「2. 一部変更した。」または「3. 大幅に変更した。」と回答した方はシラバスを変更した理由を教えて下さい。**
[分子生命科学コース]
2 連続して 15 回行う講義から, 7.5 回の講義 2 回で受講学生の顔ぶれが変わったため。
[生物資源学コース]
2 講義名を大幅に変更したため。
2 講義と実習に分かれたため, 講義の時間数を減らした分, 内容を改めた。また, 分野における新たな知見を取り入れた。
2 講義のやりやすさを考慮。
[園芸農学コース]

2　情勢の変動に応じた話をした。
2　設問（4）と同じ（受講者が 1 名だったので授業の進展が速かったことと本人の興味に多少合わせて内容を変更した）。
［生物共生教育研究センター］
2　移行期であるので。

**(3) 上記の場合で，シラバスの変更は教育効果にどのような影響を与えたとお考えですか。**

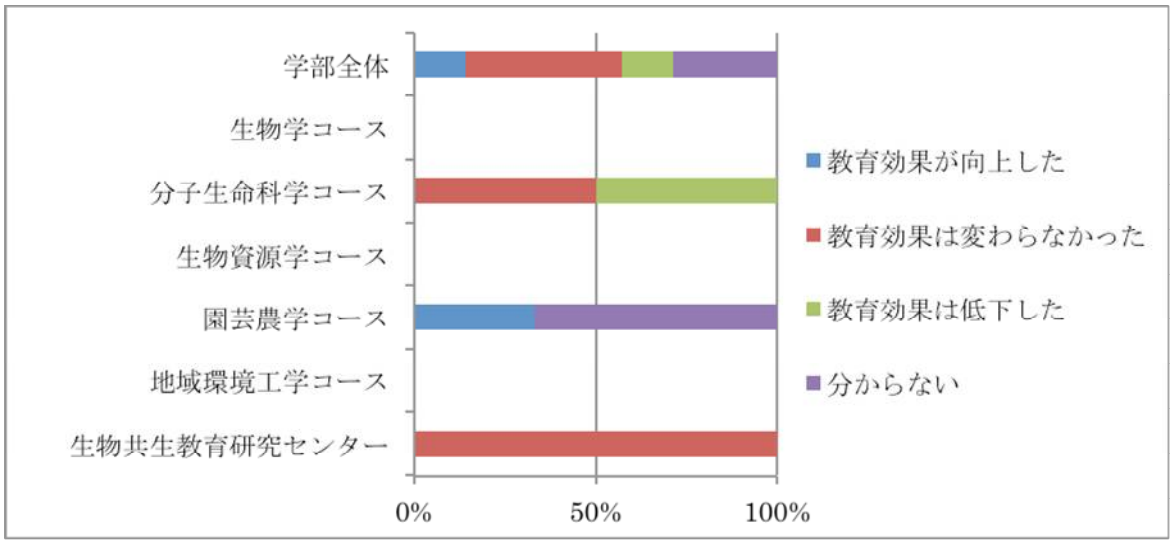


図 5．シラバス変更の教育効果

シラバスを変更した理由・目的の多くは授業改善のためであるが，「教育効果が向上した」と回答した件数(率)は，研究科全体で 1 人(14%)であった。「変わらなかった」および「分からない」と回答した件数(率)は，それぞれ 3 人(43%)と 2 人(12%)であり，シラバスの変更が必ずしも教育効果の改善に寄与していないことが認められた。

**(4) 上記の設問(3)で「１．教育効果が向上した。」と回答した方は，その具体的な事例を教えて下さい。**

［生物学コース］
ゼミ的でなく，講義を中心とした。
［分子生命科学コース］
授業名を含め授業そのものがかわったから。

**設問 6．大学院の担当講義はどのような考え方で展開しましたか。**

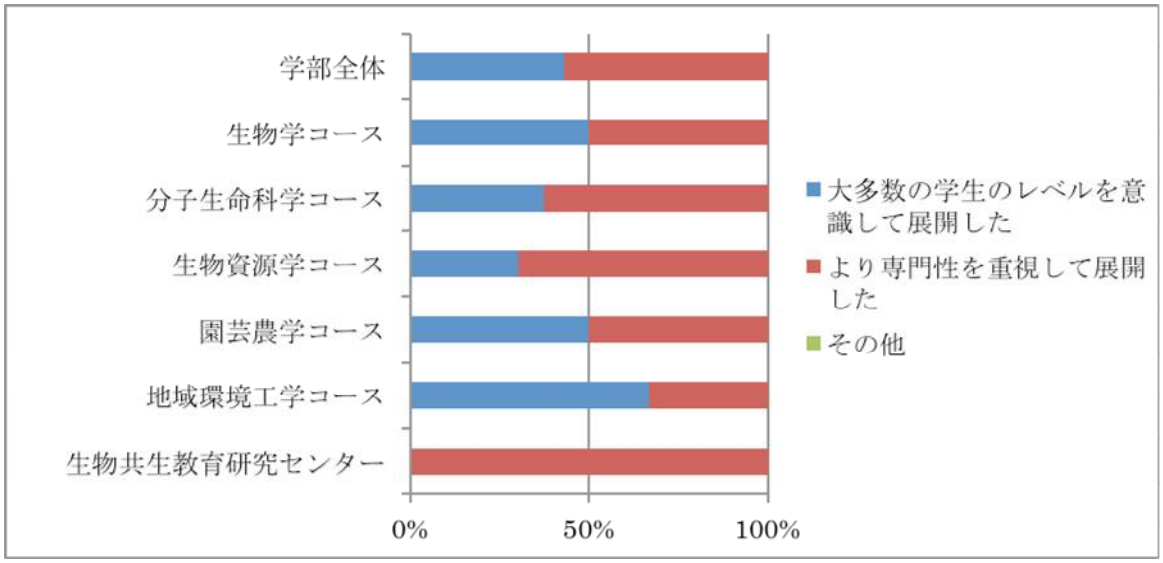


図 6．講義についての考え方

研究科全体では，「専門性を重視」とした回答が 57%であり，昨年度(58%)と同程度で，これはこれまで研究科で認められていた傾向と同様であった。

**設問 7．学生の授業の理解度を上げるために工夫している点があったら教えて下さい（複数回答可）。**

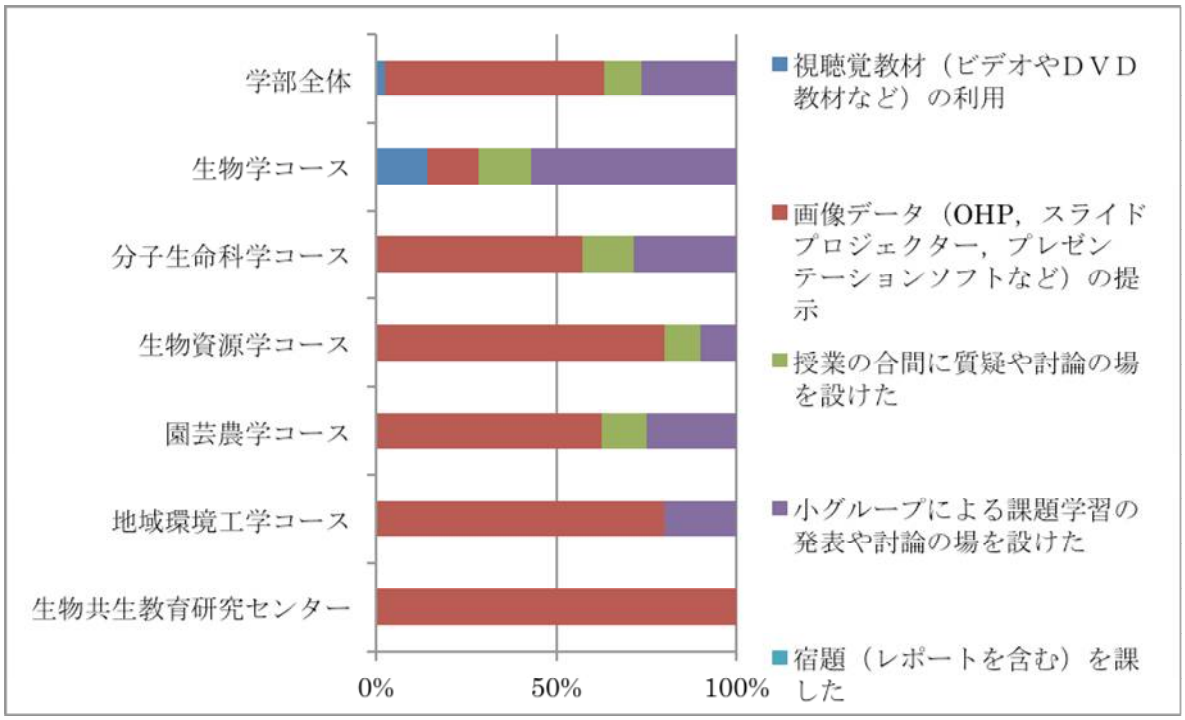


図 7．授業の工夫

研究科では「質疑や討論」と「発表や討論」が，合わせて 38%であり，昨年度(30%)と比べて 8 ポイント増加し，学部(7%)と比較して重視されていることが認められた。「画像データ」が研究科全体で 61%と圧倒的に多いが，全体として学生の理解度の向上を図るための諸種の工夫が行

われているようである。
「その他」の回答
[分子生命科学コース]
・　講義をした手法を用（以降書き忘れ？）。
[園芸農学コース]
・　できるだけ最新の話題を盛り込んだ。
[地域環境工学コース]
・　現地研修。

**設問 8. 成績評価に対して疑義を持つ学生がいますが，そのような場合への対応として，どのような取り組みを行なっていますか。下欄に具体的に記入して下さい。**

[生物学コース]
どのように講義に参加することが重要なポイントなのか説明する。
[分子生命科学コース]
学生が納得する説明を心がけている。
評価の具体的なポイントと説定しているので，それらの各々の点数の評価点を説明している。
丁寧に説明する。
［生物資源学コース］
評価基準をきちんと説明することと，それぞれの基準について細かく点数化して評価する。
なぜこのような成績評価になったのかを具体的に説明している。
レポートの PDF 化と公開（対象者例する）。
シラバスに評価基準を示し，それに従って評価している。
話し合いの時間を設定した。
［園芸農学コース］
そのような例がない。あれば真摯に対応する。
評価基準の公表。
［地域環境工学コース］
レポートの返却および解説を試みた。
疑義で質問されたことはないので，具体的取り組みはしていない。

**設問 9. 教育改善に関わる問題をもっと掘り下げるために，このアンケートに追加した方がよいとお考えの項目がありましたらご記入下さい。**

回答なし。

**設問 10. このアンケート調査の実施や内容についてご意見がありましたらご記入下さい。**

回答なし。

## Ⅳ　教員対象教育評価アンケート

### １.アンケート調査内容

調査目的：農学生命科学部の教育内容ならびに方法の改善に役立てるため学部教育に関する教員の意識について調査することを目的とした。

調査方法：アンケート用紙を各教員に配布して調査を行った。学生に対するアンケートの設問と共通項目を設けた。

調査対象：平成 25 年 3 月の時点で学部・遺伝子実験施設および生物共生教育研究センターに所属する教員とした。

調査期間：平成 25 年 3 月 21 日～4 月 5 日

有効回答者数：70 名

調査項目：設問は以下の通りである。

設問 1.　あなたの所属学科等をお答えください。

設問 2.　本学部および本研究科の理念教育目的および教育目標を知っていますか。

設問 3.　あなたが所属する学科・専攻等の教育目標を知っていますか。

設問 4.　本学部の入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

設問 5.　あなたが所属する学科・専攻等の教育目標は学部ホームページにあるとおりですが学科（21 世紀教育科目および専門教育科目）および専攻のカリキュラムはその目標によく合致すると感じていますか。

設問 6.　あなたはシラバス作成時に学科・専攻等の教育目的や教育目標に従った講義内容にしようとしていますか。

設問 7　① 授業内容がシラバス記載の内容と異なることをどのようにお考えですか。

② 何らかの理由で授業内容がシラバス記載の内容と異なった場合あなたは受講生に対する説明の必要性についてどのようにお考えですか。

設問 8.　本学では「授業方法改善のための学生による授業評価に関するアンケート調査」が平成 15 年度後期から実施されています。その結果についてお尋ねします。

① 学生による授業評価の信頼性についてどのようにお考えですか。

②授業評価の結果を授業の改善に利用していますか。

設問 9.　本学では授業改善のための各種の研修活動（ＦＤ活動）が行われています。

① この 1 年間でどのようなＦＤ活動に参加されましたか。参加された回数をお答え下さい。

② 参加された活動は教育改善に役立ちましたか。

設問 10.　担当科目において学生の授業時間外の学習を促すためにどのような工夫をていますか。

設問 11.　① 本学部の以下の施設と設備についてどのように感じていますか。該当する欄に○を書き込んで下さい。

② 上記で「4.やや不充分」と「5.かなり不充分」を選択した場合その理由を次の欄に具体的に書いて下さい。

設問 12.　① 卒業研究は必要であると思いますか。

② 上記のように回答した理由を下欄に分りやすく記入して下さい。

設問 13. ① あなたの学科の大多数の卒業生は本学部での教育により大学卒業生としての知識と学力を身に付けたと思いますか。

② 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

設問 14. ① あなたの専攻の大多数の修了生は本研究科での教育により大学院修了程度の専門知識を身に付けたと思いますか。

② 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。

## ２．調査結果

**設問 1. あなたの所属学科等をお答えください。**

表１　回答率

| 学　科　等 | 教員数 | 回答数 | 回答率 | H24 回答率 |
|---|---|---|---|---|
| 生物学科 | 14 | 11 | 79% | 62% |
| 分子生命科学科 | 14 | 9 | 64% | 79% |
| 生物資源学科 | 13 | 11 | 85% | 69% |
| 園芸農学科 | 15 | 12 | 80% | 87% |
| 地域環境工学科 | 10 | 7 | 70% | 90% |
| 生物共生教育研究センター | 4 | 3 | 75% | 100% |
| 学部全体 | 70 | 53 | 76% | 78% |

学部全体の回答率は 76 %で昨年度とより微減である。学科別では，昨年度回答率の低い学科の回答率が高まる一方で，回答率が高かった学科の回答率が低下している。

**設問 2. 本学部および研究科の理念，教育目的および教育目標を知っていますか。**

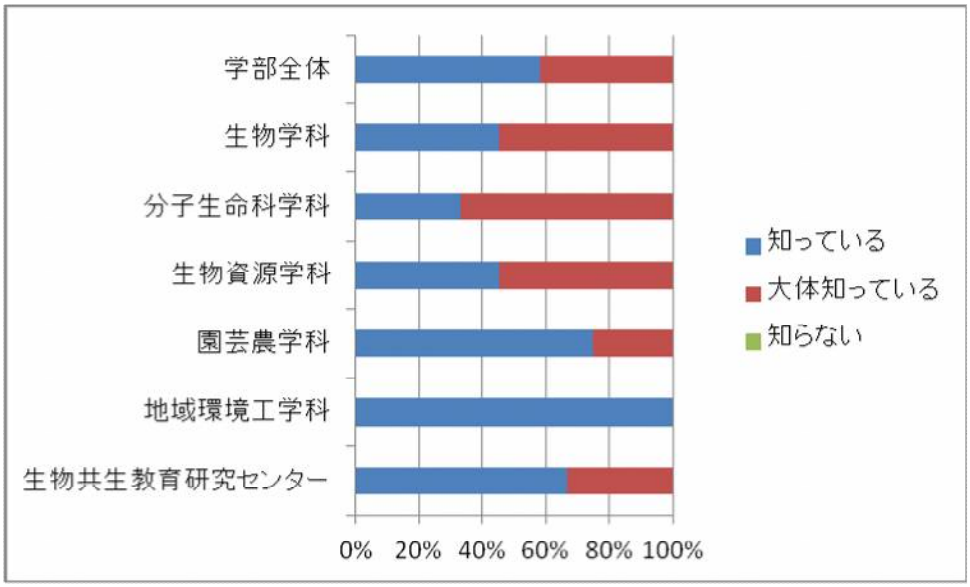


図１　学部・研究科の理念等の認識

「知っている」が学部全体で６割弱であり，昨年度より微増である。「知らない」は昨年度同様皆無であった。「知っている」の比率を学科別に見ると，昨年度４割を下回り最低であった生物学科はその比率が増加し，昨年度６割を越えていた分子生命科学科が４割を下回り大きく減少した。生物資源学科は変化がなく，残りの学科等では比率が増えた。

**設問 3.　あなたが所属する学科・専攻等の教育目標を知っていますか。**

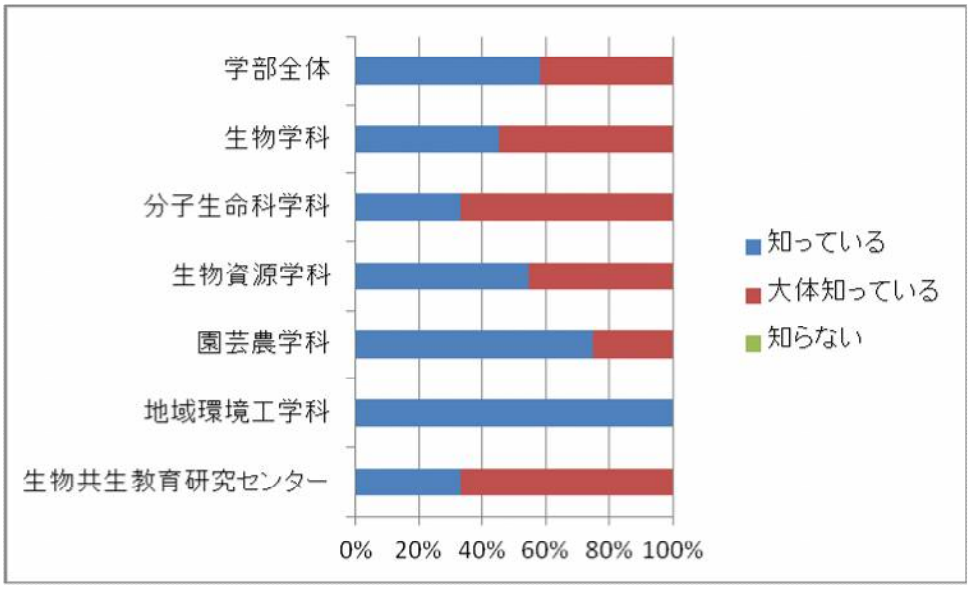


図２　所属学科・専攻等の教育目標の認識

学部・研究科の理念等の認識と同様の傾向である。「知っている」が学部全体で６割弱，「知らない」が皆無というのは昨年度と同様である。「知っている」の比率を学科別に見ると，昨年度４割を下回り最低であった生物学科はその比率が増加し，昨年度６割を越えていた分子生命科学科が４割を下回り，生物資源学科は変化がなく，残りの学科等では比率が増えた。

**設問 4.　本学部の入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。**

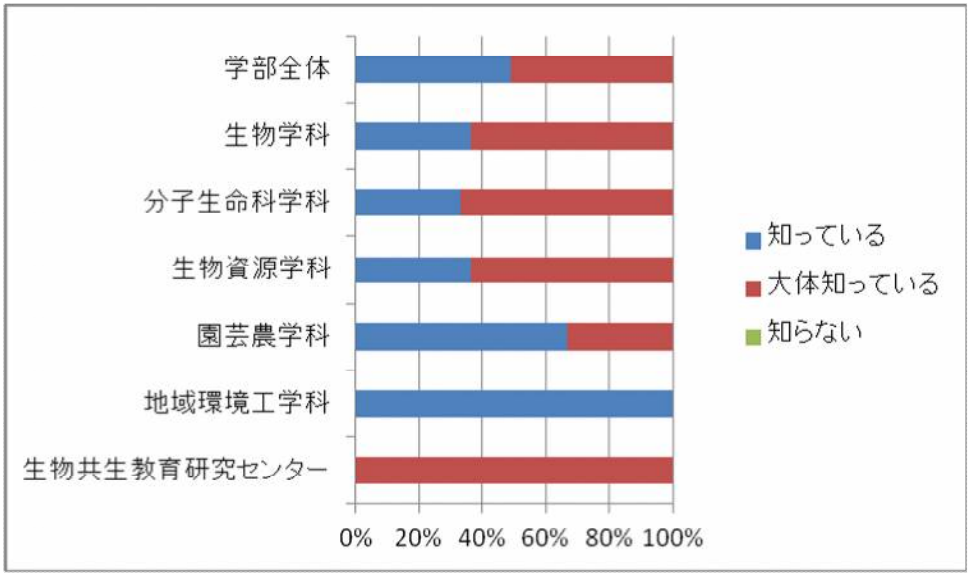

図３　入学者受けれ方針の認識

「知っている」が学部全体の半数であり，昨年度より微減である。「知らない」は昨年度同様皆無であった。「知っている」の比率を学科別に見ると，生物学科，分子生命科学科，生物資源学科は昨年度より減少し４割を下回った。園芸農学科は昨年度と同程度，地域環境工学科は増加し100%，生物共生教育研究センターは減少し0%となった。

**設問 5. あなたが所属する学科・専攻等の教育目標は学部ホームページにあるとおりですが，学科（21 世紀教育科目および専門教育科目）および専攻のカリキュラムはその目標によく合致すると感じていますか。**

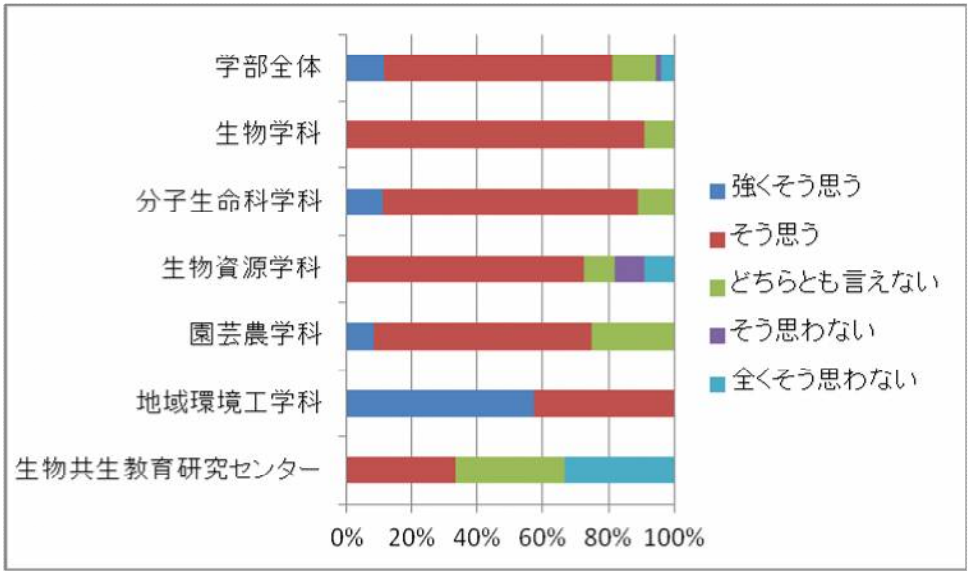


図４　所属学科・専攻等の教育目標とカリキュラムとの合致

学部全体では肯定的評価（「強くそう思う」と「そう思う」）が８割で，昨年度と同様である。学科別の状況もほぼ昨年度と同様である。園芸農学科では肯定的評価がやや減少し９割を下回り，地域環境工学科では「強くそう思う」が倍増した。

**設問 6. あなたはシラバス作成時に，学科・専攻等の教育目的や教育目標に従った講義内容にしようとしていますか。**

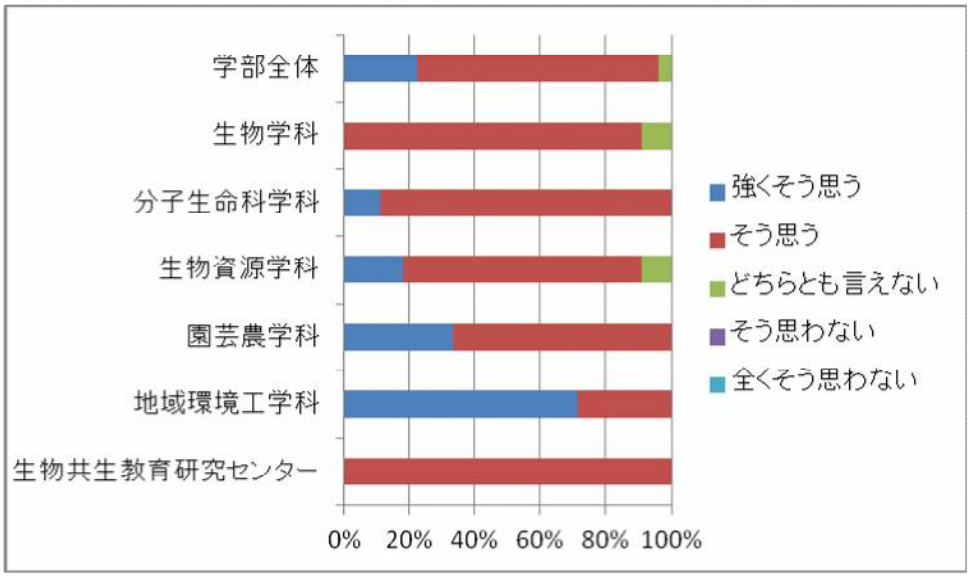


図５　教育目的・目標に従ったシラバスの作成

学部全体では，昨年度と同様否定的評価（「そう思わない」と「全くそう思わない」）が皆無で「そう思う」が７割であり，「強くそう思う」がわずかに減少した。「強くそう思う」の回答率を学科別に見ると，生物学科は皆無となり，園芸農学科でやや増加，地域環境工学科は増加し７割に達した。

**設問 7. ①授業内容がシラバス記載の内容と異なることをどのようにお考えですか。**

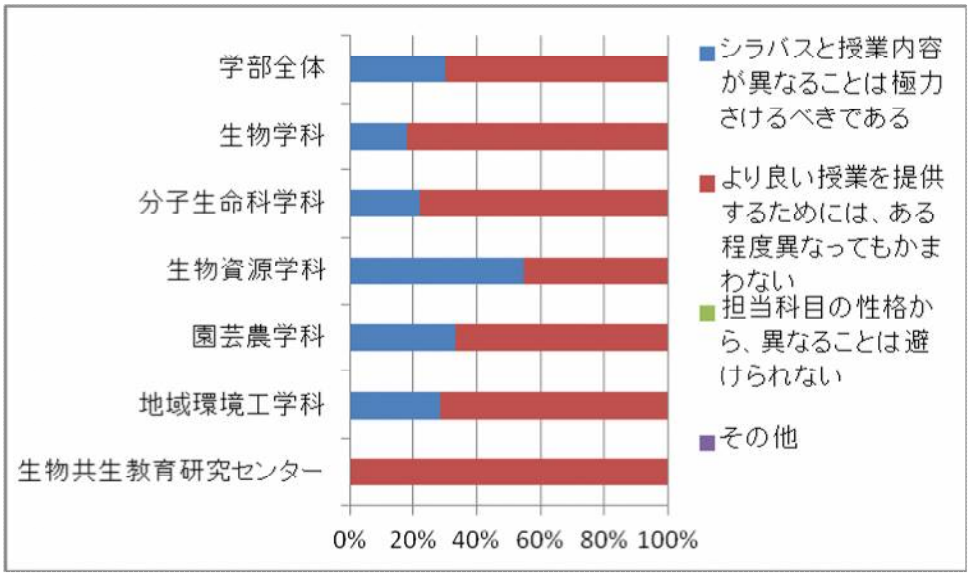


図６(1)　シラバスと実際の授業内容の不一致に対する見解

学部全体では，「極力さける」という回答が昨年度の５割から３割へと減少した。「科目の性格から避けられない」と「その他」という回答は皆無であった。「極力さける」の回答率を学科別にみると，生物学科が昨年度と同様２割である以外の学科等ではいずれも昨年度より減少しており，特に園芸農学科では８割から３割へと大きく減少した。

**設問 7. ②何らかの理由で授業内容がシラバス記載の内容と異なった場合，あなたは受講生に対する説明の必要性についてどのようにお考えですか。**

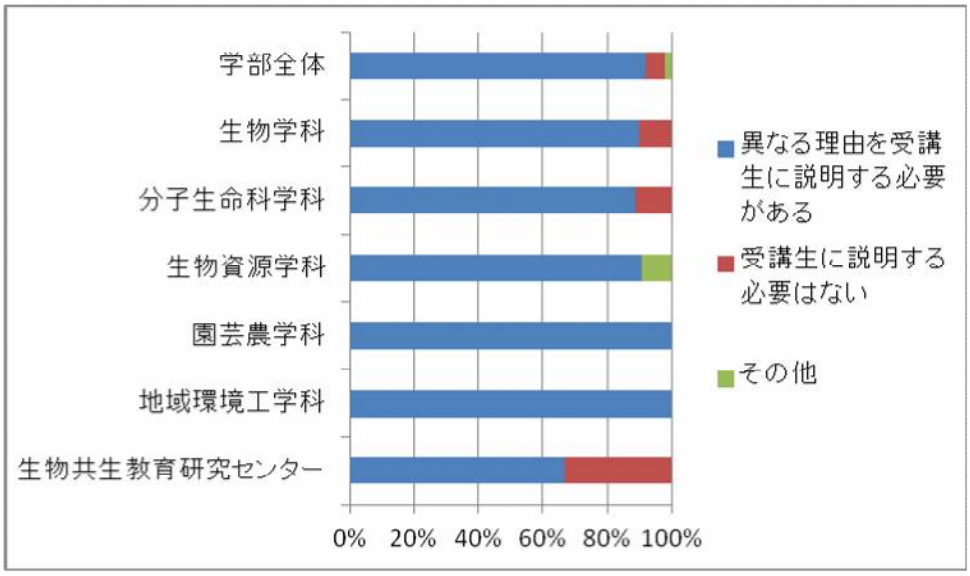


図 6 (2)　シラバスと授業内容が異なる場合の受講生への説明

昨年度と同様に，「説明する必要がある」が大勢を占めていて，ごく一部の教員は「説明する必要はない」「その他（ケースバイケースで対応する）」と考えている。

**設問 8. 本学では「授業方法改善のための学生による授業評価に関するアンケート調査」が平成 15 年度後期から実施されています。その結果につお尋ねします。**
**①学生による授業評価の信頼性についてどのようにお考えですか。**

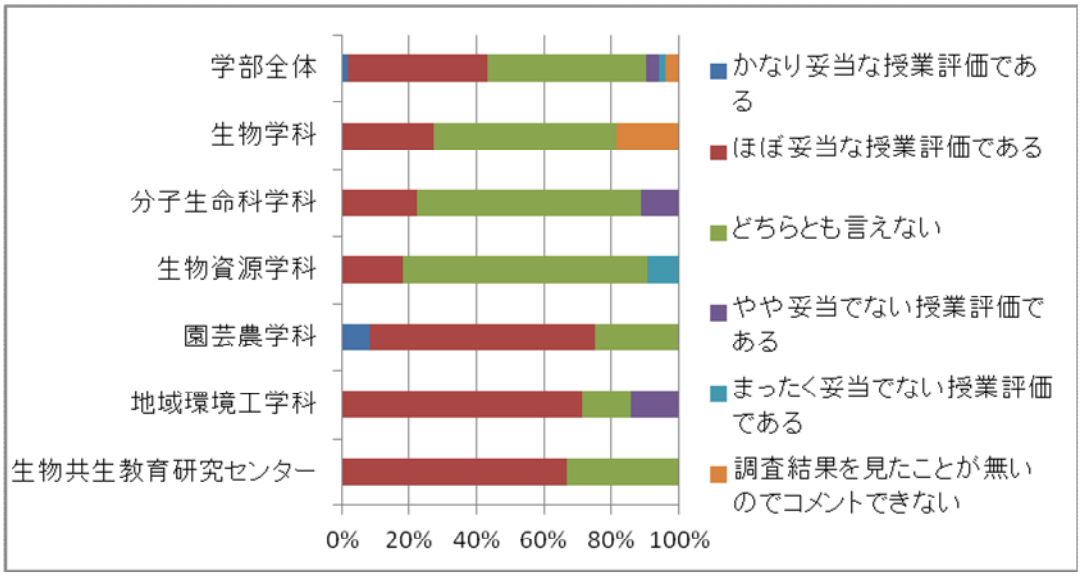


図 7 (1)　学生による授業評価アンケートの信頼性

学部全体では肯定的評価（「かなり妥当」と「ほぼ妥当」）が６割から４割へと減少した。学科別に見ると，園芸農学科と地域環境工学科では昨年度とほぼ同様に肯定的評価が７割程度であるのに対し，生物学科では７割から３割へ，生物資源学科で４割から２割，分子生命科学科で３割から２割と減少した。

**設問 8. ②授業評価の結果を改善に利用していますか。**

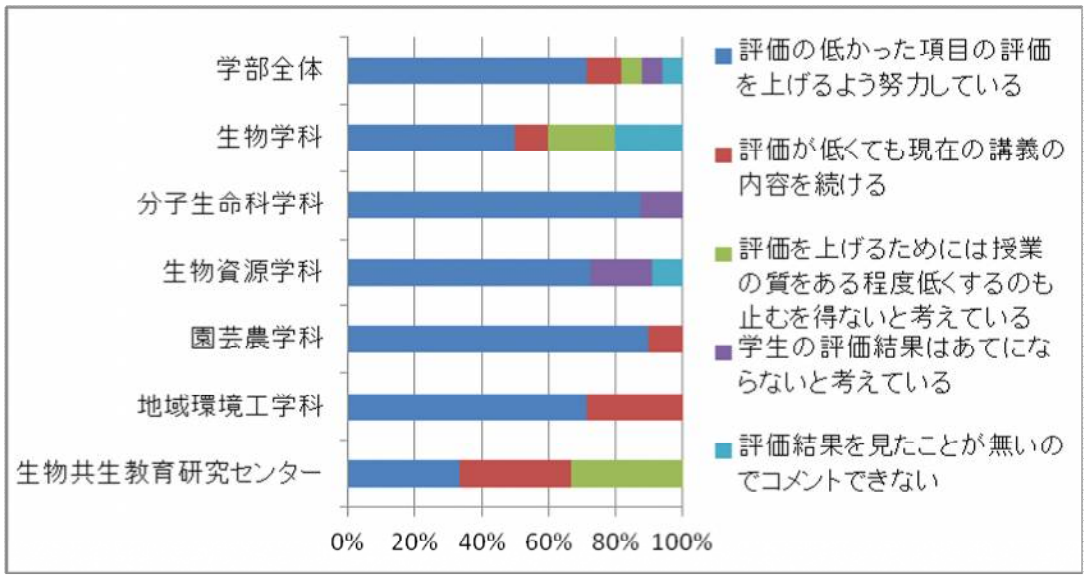


図７(2)　学生による授業評価結果の授業改善への利用

学部全体では今年度は「評価結果を見たことがない」という回答があるため，「評価の低かった項目の評価を上げるよう努力している」という回答率が昨年度よりやや減少した。学科別の傾向は概ね昨年度と同様である。「評価が低くても現在の講義を続ける」は，昨年度皆無であった生物学科で今年度出現し，昨年度存在していた分子生命科学科と生物資源学科では皆無となった。

**設問 9. 本学では授業改善のための各種の研修活動（ＦＤ）が行われています。**
**①この１年間でどのようなＦＤ活動に参加されましたか。参加された回数をお答え下さい。**
**1. 学部主催のＦＤ活動**

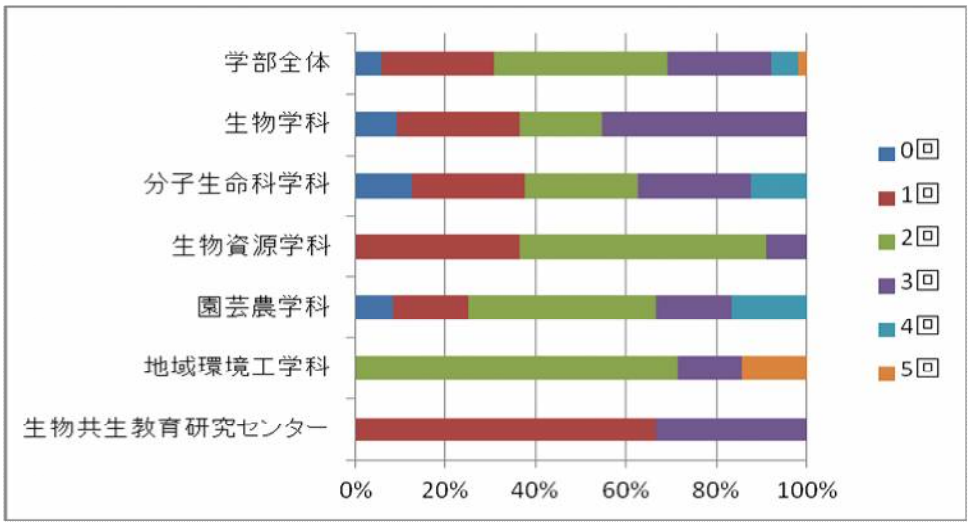


図８(1)　学部主催のＦＤ活動への参加回数

学部全体では昨年度よりも０回が減り３回以上の比率が２割から３割に増加した。生物学科，分子生命科学科，園芸農学科では３回以上の回答が３，４割に達する一方で，１回以下も４割近い。生物資源学科では０回は皆無であるが３回以上は１割と少ない。地域環境工学科では２回以上の回答のみである。

**2. 学科主催のＦＤ活動**

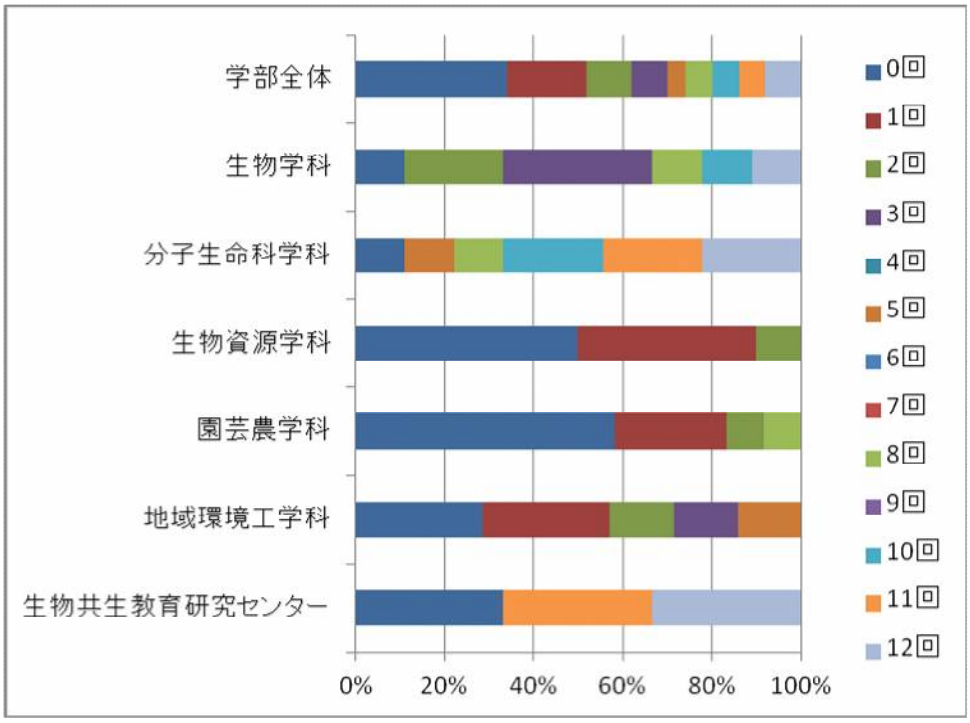


図８(2)　学科主催のＦＤ活動への参加回数

学部全体では０回から１２回まで分布していて，昨年度と同様に１回以下が５割である。学科別では，生物学科で１０回を上回る回答が出現し，分子生命科学科と生物共生教育研究センター

を含む３つの学科等で学科主催のＦＤ活動が活発なことが分かる。特に分子生命科学科では８回以上の参加がほぼ８割となっている。逆に園芸農学科の６割，生物資源学科の５割は学科主催のＦＤ活動への参加が皆無である。

**3. その他のＦＤ活動**

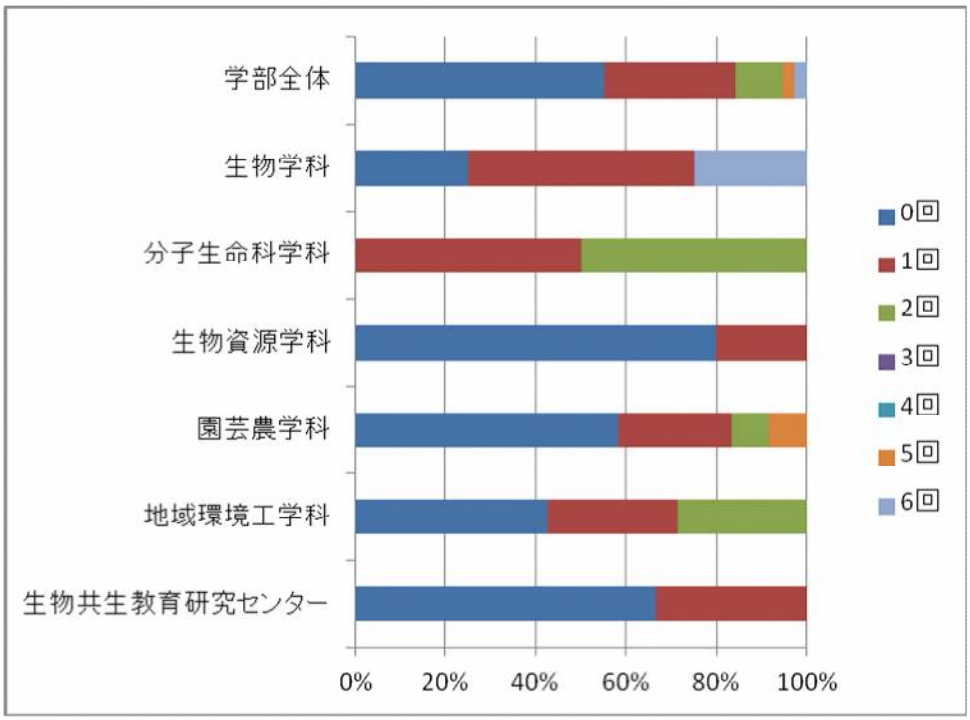


図８(3)　その他のＦＤ活動への参加回数

その他のＦＤ活動としては，大学全体のＦＤ活動や学外でのＦＤ活動が想定される。学部全体では０回が６割近いが昨年度よりも微減である。また，分子生命科学科では０回が皆無であるのに対し，生物資源学科では８割に達している。

**②参加された活動は，教育改善に役立ちましたか。**

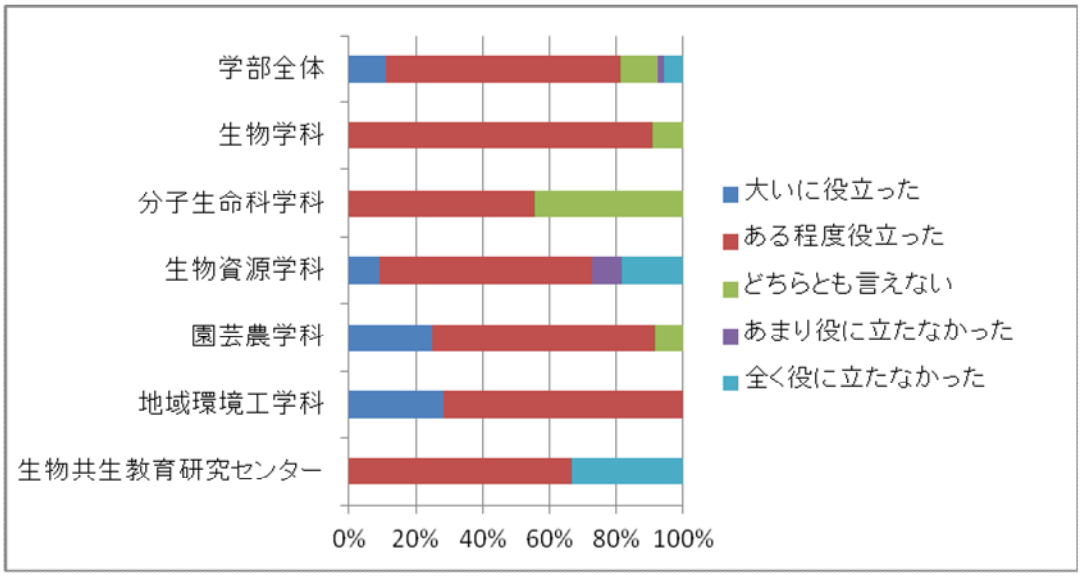


図８(4)　参加したＦＤ活動の教育改善効果

学部全体では昨年度と同様で肯定的評価（「大いに役立った」と「ある程度役立った」）が８割である。昨年度と大きく変化した学科は，分子生命科学科で肯定的評価が昨年度の８割から６割弱へと減少したのに対し，生物資源学科では肯定的評価が４割から７割へと増加した。また，園芸農学科では否定的評価（「あまり役に立たなかった」と「全く役に立たなかった」）が今年度皆無となる一方で，生物共生教育研究センターでは昨年度存在しなかった否定的評価が出現した。

**設問 10. 担当科目において学生の授業時間外の学習を促すためにどのような工夫をしていますか。**

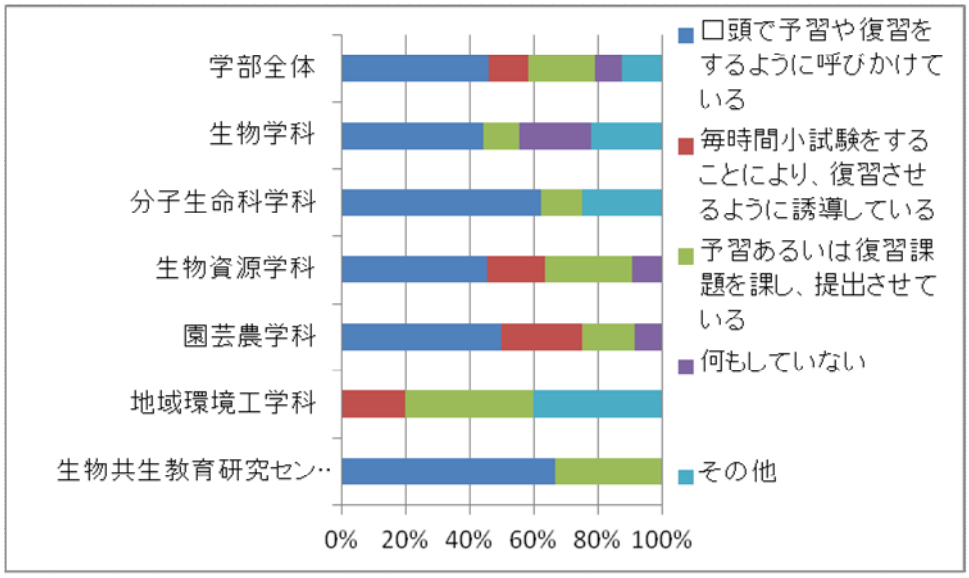


図９　学生に対する時間外学習の促進方法

「その他」の内容

［生物学科］

・参考となる書籍などを紹介し予習復習を

・参考書の紹介など発展的学習を進めている
・参考になる図書の推薦関連する書籍の紹介，読書のすすめ
昨年度・関連書籍の紹介
[分子生命科学科]
・次回に前回の内容について指名して質問する
・ネットラーニング（moodle）の活用
・ときどき小テストをする
昨年度・予習のために授業終了後，次回の講義箇所を示し予習を呼び掛けるようにしている
　復讐のためには授業に即した手作り問題集を配布してあるので，それをやるよう指導している
・毎回ではないが，適宜小テストや課題を課している
[地域環境工学科]
・理解が低い項目はレポートの提出を求める
・小試験を数回行い，学習を促すようにしている
昨年度なし
[生物資源学科],[園芸農学科],[生物共生教育研究センター]※該当者なし

　学部全体では，昨年度よりも「口頭での予習復習の呼びかけ」と「その他」が微増で，その分「予習復習の課題を課す」が減少した。「何もしていない」は，生物学科で昨年度３割から２割へ，生物資源学科で２割から１割への減少した。「口頭での予習復習の呼びかけ」は地域環境工学科は皆無であるけれども，それ以外の学科等では４～６割と主たる工夫となっている。

**設問 11. ① 本学部の以下の施設と設備についてどのように感じていますか。該当する欄に〇を書き込んで下さい。**

**1. 講義室**

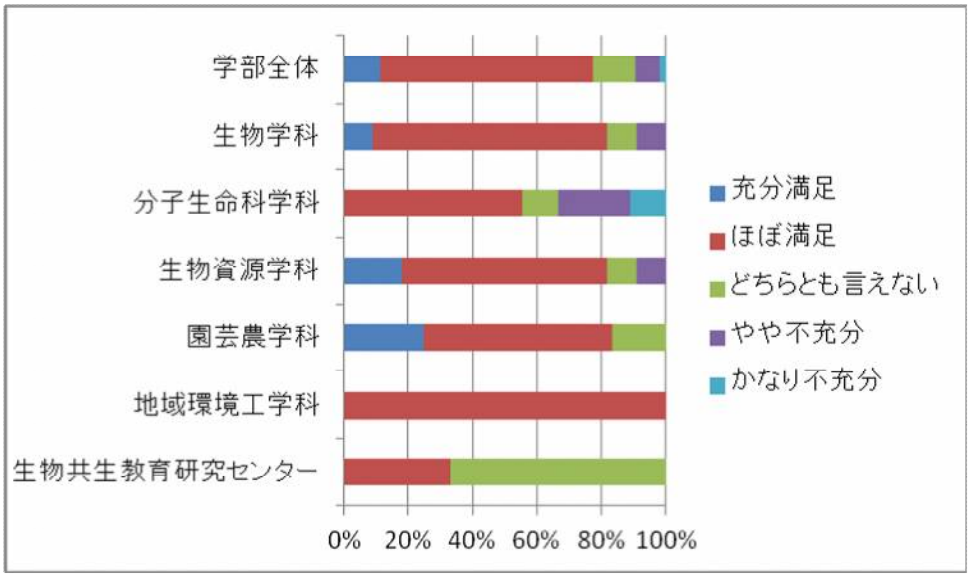


図 10(1)　講義室

学部全体では昨年度と同様に８割の肯定的評価（「充分満足」と「ほぼ満足」）である。学科別では，生物学科では肯定的評価が昨年度全員から８割に減少，分子生命科学科では否定的評価（「やや不充分」と「かなり不充分」）が１割から３割に増加，地域環境工学科では肯定的評価が７割から全員へと変化している。

**2. 図書閲覧室**

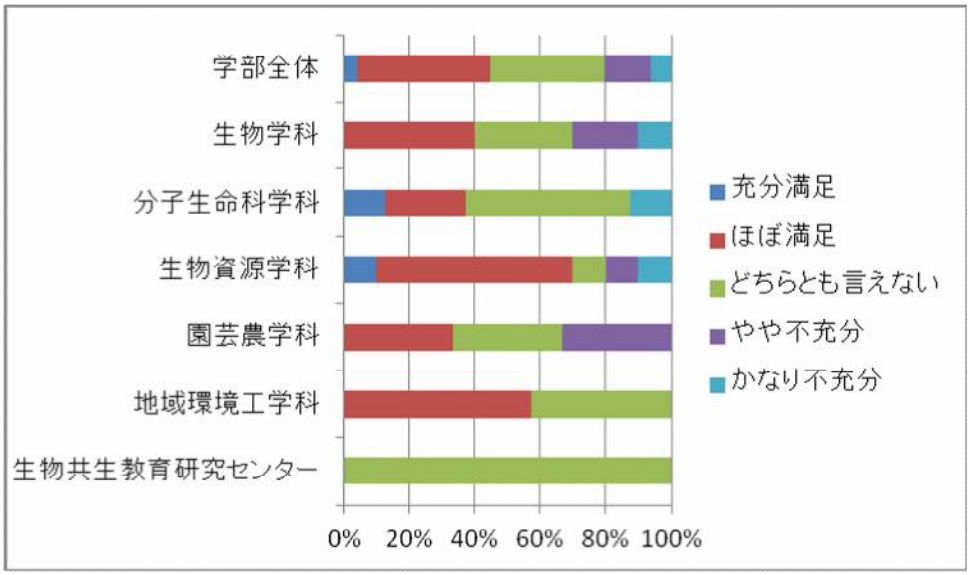


図 10(2)　図書閲覧室

学部全体では昨年度と同様に肯定的評価（「充分満足」と「ほぼ満足」）が４割強で，「充分満足」が微減，「かなり不充分」が微増である。学科別では，生物学科において肯定的評価は昨年度同様４割だが否定的評価（「やや不充分」と「かなり不充分」）が皆無から３割へと増加し，分子生命科学科では肯定的評価が５割から４割に減少し「どちらとも言えない」が増加した。他の３学科では肯定的評価と否定的評価の比率は昨年度とあまり変化していない。

**3. 実験・実習室**

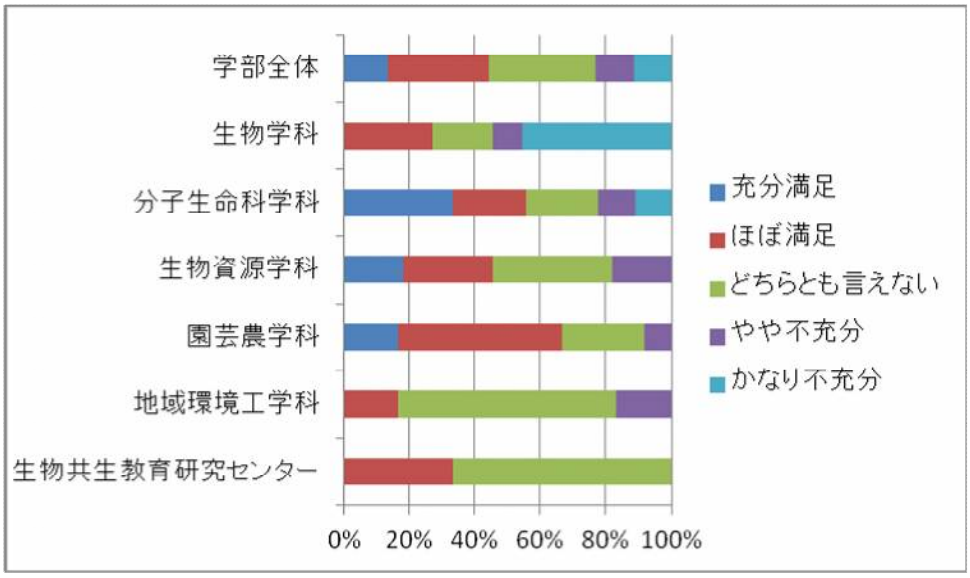


図 10(3)　実験・実習室

学部全体では肯定的評価（「充分満足」と「ほぼ満足」）が４割強で昨年度の６割から減少し，「どちらとも言えない」が増加した。学科別では，地域環境工学科で肯定的評価が６割から２割へ，また生物資源学科で肯定的評価が８割から４割強へ減少し，その分「どちらとも言えない」が増加した。他の３学科では肯定的評価と否定的評価の比率は昨年度とあまり変化していないけれども，「充分満足」が分子生命科学科では１割から３割強へ，園芸農学科でも皆無から２割へと増加し，生物学科では「かなり不充分」が２割から４割への増加している。

**4. 情報処理演習室**

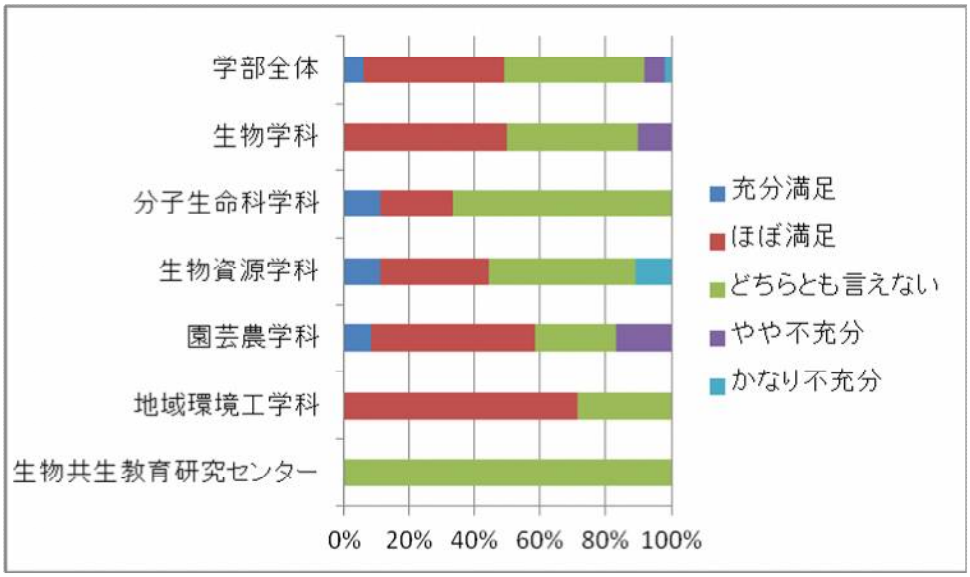


図 10(4)　情報処理演習室

学部全体では肯定的評価（「充分満足」と「ほぼ満足」）が５割であり，昨年度の６割から減少した分「どちらとも言えない」が増えた。学科別にみると，生物学科の肯定的評価が８割から５

割に減少し「どちらとも言えない」が増加，園芸農学科では肯定的評価が８割から６割へ減少し「やや不充分」が皆無から２割に増加した。他の３学科の傾向は昨年度とほぼ同様である。

**5. 研究室**

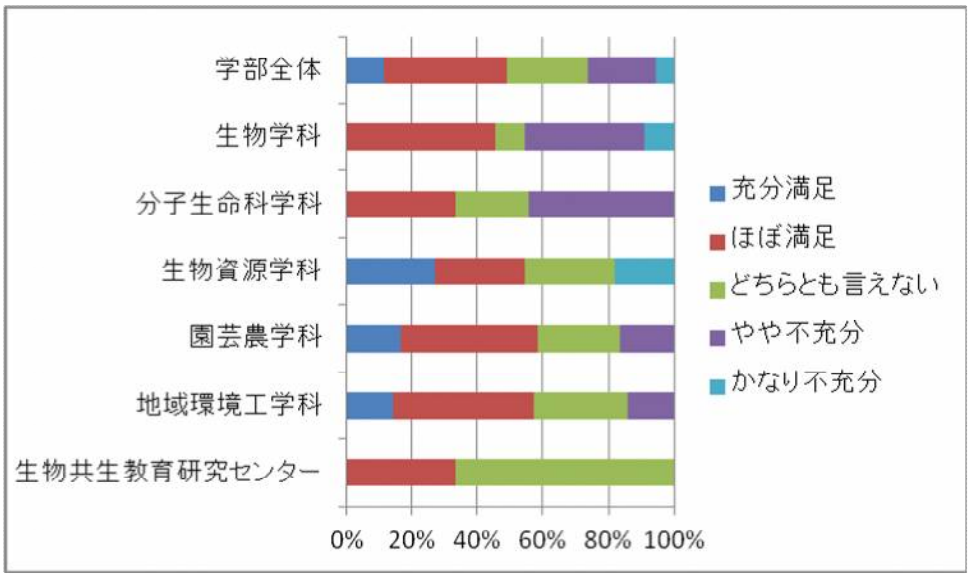


図 10(5)　研究室

学部全体では昨年度とほぼ同様で肯定的評価（「充分満足」と「ほぼ満足」）が５割である。学科別の傾向も概ね昨年度と同様であるが，生物学科と分子生命科学科では否定的評価（「やや不充分」と「かなり不充分」）が４割弱から４割強へ増加し，生物資源学科と園芸農学科と地域環境工学科では肯定的評価が７割から６割に減少し，その分「やや不充分」（園芸農学科）あるいは「どちらとも言えない」（生物資源学科と地域環境工学科）が増加した。

この設問で不充分という回答の具体的な内容については，次の設問の回答を次項で列記するので，これを参考にされたい。

**(2) 上記で「4. やや不充分」と「5. かなり不充分」を選択した場合，その理由を次の欄に具体的に書いて下さい。**
**回答中の番号は以下の施設を表している。**
**1. 講義室，2. 図書閲覧室，3. 実験・実習室，4. 情報処理演習室，5. 研究室**

[生物学科]

・1, 2, 3　大講義室にモニター（後方など）がない。専門誌がおいていない。学生の安全にかかわるほど人数に対して狭い。基本的実験器具の不足（ガラス器具等）

・2, 3, 4, 5　専門雑誌が圧倒的に少ない。学生の人数に対して部屋，机のスペースが非常にせまい。コンピューターの数が少ない。厳密な温度管理が困難

・2, 3, 5　インターネットを使えない。狭くてテーブル間を巡回できない。狭いので学生全員でてくると困る。

・3, 5　狭い

・3,5　狭い
・3,5　実験実習室→備品や教材に必要な予算がほとんどない　研究室→学生の居場所が少ない（スペース少ない）
［分子生命科学科］
・1,2,3,5　スペースが狭い。講義室はスクリーンを下ろすと黒板が使えなくなる
・1,3　スライドと黒板を同時に使えない。実験内容に制限がある作りになっている。
・1,5　可動式の机の部屋は乱雑になりやすい。AV システムの使用後の片づけがひどい時がある。学生数に合わせたスペース配分をする必要があるのでは？
・5　大学院・連大の学生がいると実験するスペースが足りない
・5　学生の人数に対して狭い
［生物資源学科］
・1,5　講義室は黒板とスクリーンがほとんど重なっているため，両方を同時に用いることができない。黒板が汚くチョークの粉がとても気になる。研究室は，すべての研究室は統一の基準で作るべき。学生部屋がなく，所属学生は実験室の片隅にいてもらうしかない。
・2,3　図書室について，十分な図書が揃えられていない。実験・実習室について，備品が十分にない
・2,4　プレゼン機器の室や黒板消しなど維持のために必要なものが不十分。本の質と量。少なくとも良質のものが必要。スペース
・3　学科で１つとすべきである
・5　面積が小さい
［園芸農学科］
・2,3,4,5　スペースが充分に確保されているとはいえないため
・2,4　せまい。オープンにアクセスできる雰囲気ではない
・2　資料の点数が少ない
・2　本・雑誌が少ない
・5　学生の控室が狭隘である
［地域環境工学科］
・3　調査実験機材不足とスペースが狭い
・5　実験装置を置くスペースが手狭になってきている
［生物共生教育研究センター］　※否定的評価なし

**設問 12.（1）卒業研究は必要であると思いますか。**

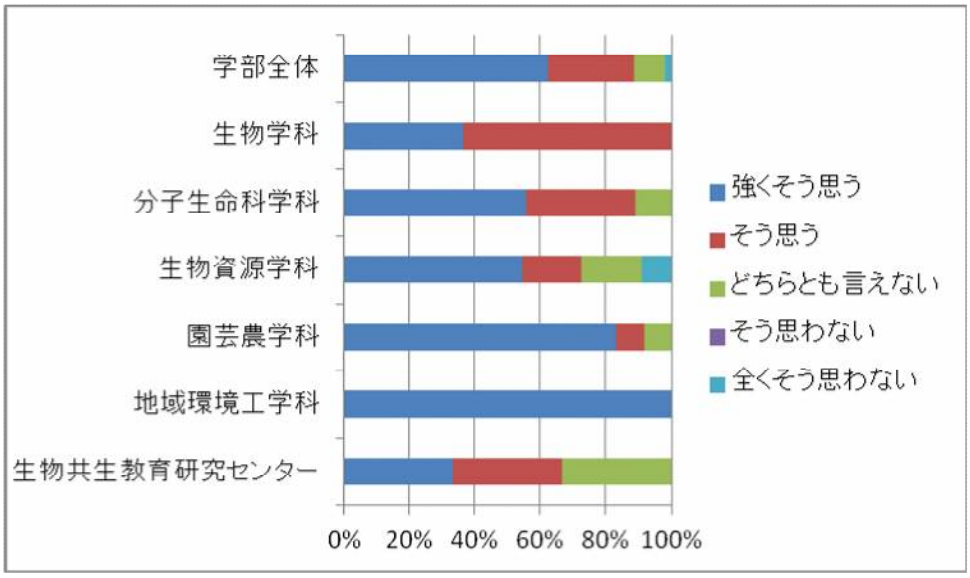


図 11　卒業研究の必要性

学部全体では，昨年度と同様に６割が「強くそう思う」で「そう思う」を加えると９割に達する。学科別の傾向も概ね昨年通りで，「強くそう思う」が地域環境工学科で７割から全員に，園芸農学科で６割から８割に増加した。

この設問の回答理由は，次の設問で問われていて，次項で具体的な回答を列記するので，これを参考にしていただきたいが，次項の回答を集約すると，卒業研究を必要とする教員は講義だけでは養うことの困難な総合的な問題解決能力などの育成を期していて，必ずしもそう思わない教員は，学生の勉学意欲のなさなど，となる。

**(2) 上記のように回答した理由を下欄に分りやすく記入して下さい。**

**1. 強くそう思う　2. そう思う　3. どちらとも言えない**

**4. そう思わない　5. 全くそう思わない**

[生物学科]

・1　研究を通して授業では伝えられないサイエンスを体験させられる。研究室活動は，社会に出る前に必要な常識も学ばせられる

・1　本学部に来た意味を実感できる

・2　大学で受けた教育のまとめとして卒業研究がふさわしいと思うから

・2　研究をとおして主体的に試行錯誤しなくては学べないことはとても多い。大学院進学を前提として教育システムならないでも良いと思うが，今の時代なかなかそうはいかないだろう

[分子生命科学科]

・1　卒業論文の作成とともに，社会にでるために必要な考える力を身につけさせるべき

・1　講義のみで大学教育を受けたと，十分に実感できる学生は少ないと考えている。学ぶことの重要性を理解し，座学と実践の橋渡しとして有効である

・1　学生の経験としても重要。進学のきっかけにもつながる

・1　大学らしさが出る

・1　大学４年間の教育で卒業研究ほど本人の役に立つものはないと思っている

・2　学生にとって問題解力を養い理論的に考え物事を実践しまとめ発表する良い機会となる
・2　自分で行った実験，自分の考えを整理する過程を学ぶ機会である
・2　自分で考え自分で遂行していることを学ぶことができる
・3　最近，卒論を進んで取り組む姿勢か見られない
［生物資源学科］
・1　教育効果が高いから
・1　知識だけでなく技術を学び自分で考える力をつける，大学教育で最も大事なカリキュラムと考えているため
・1　卒業研究がなければ大学は就職活動のための通過点になってしまう。
・1　得られた結果に対する考察・問題点は何か？を見つけ出すこと，得られた結果を他者にプレゼンテーションすること等，卒業研究を通して学ことがたくさんあり，それが学生が社会に出た時の力になると考えているため
・1　卒業研究を通して本当に生きた学問を体験することが出来るから
・1　学習効果の確認と向上心のため積極的参加も求められるので成果が身につく
・2　大学において自主的な研究を行う唯一の時間であり，社会に出てからの問題提起やその解決に役立つ
・2　論理的思考法を身につけるための良い訓練となるから
・3　必要としない学生もいるように感じる
・3　全くやる気のない学生も少なからず存在する
・5　選択制でよい
［園芸農学科］
・1　学生が真に勉強したいというのが卒論である
・1　研究を通して勉強することが多いと思うから
・1　実験計画立案，実施，点検，まとめ，分析，執筆，プレゼンテーションと，社会人としての必要なプロセスを一連の作業として実施できる唯一の授業科目であるため
・1　企画立案→実行→データ収集→情報収集→まとめのプロセスは社会生活上も有益であるから
・1　学生が一個人として，切実に力を時間を注いで学修できる貴重な機会となっているから
・2　学生の自覚を引き出すために必要と考え，またその効果がえられることがあるため
［地域環境工学科］
・1　総合的な知識の形成，企画・調査・分析・考慮・まとめ・課題抽出という多くの仕事でも必要な一連の過程を自分のものとして体験できる
・1　課題解決の訓練をする科目として，かつ長期にわたり取りくむ科目は4年間でこの科目以外にないと思う。その分人間力や課題解決能力が養われる
・1　小学校～大学までの授業の集大成。デザインの能力の育成
・1　これを通して学部講義の全体像を理解するようになる。自らの力で問題を解決しようと努力する
［生物共生教育研究センター］
・1　受け身の学習から自ら考える学習への移行に必要不可欠だと考えるから

**設問 13（1）あなたの学科の大多数の卒業生は，本学部での教育により大学卒業生としての知識**

**と学力を身に付けたと思いますか。**

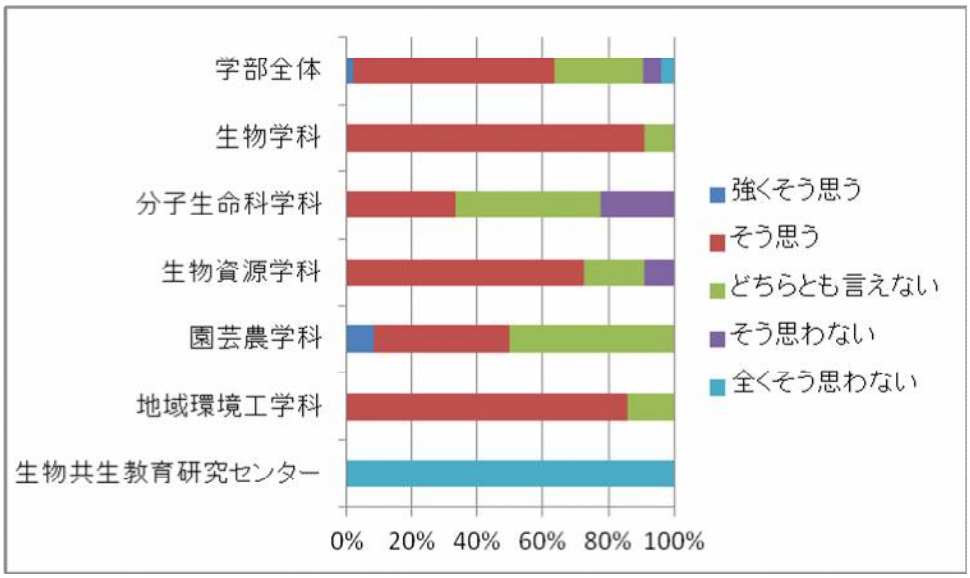


図 12(1)　学部卒業生の知識と学力の修得

学部全体では昨年度と同様に肯定的評価（「強くそう思う」と「そう思う」）を合わせて６割である。肯定的評価について学科別にみると，生物学科は昨年度の８割から９割に増加，分子生命科学科は５割から３割へ減少，生物資源学科では３割から７割へ大幅増，園芸農学科と地域環境工学科は昨年度と同程度である。生物共生教育研究センターでは昨年度肯定的評価が５割であったが今年度は全員が「全くそう思わない」となった。

**(2) 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか。以下の中から選んで下さい。**

**1. 学生に意欲が無い　2. 学生の基礎学力不足　3. 講義内容が高度過ぎた**
**4. 教員に問題　　5. その他（　　）**

表 12(2)　身についていない理由

| 理　由 | 回答数（学科） |
|---|---|
| 学生に意欲がない | 4（2 分子生命, 2 共生センター） |
| 学生の基礎学力不足 | 3（分子生命, 生物資源, 共生センター） |
| 講義内容が高度過ぎた | 0 |
| 教員に問題 | 1（共生センター） |
| その他 | 1（生物*） |

＊ 前問で 4, 5 を選択しておらず回答不要なのに回答
「その他」の内容　まだよくわからない

「学生の基礎学力不足」を指摘する回答が 4 件と最多で，「学生の意欲がない」という回答も 3 件であり，学生側の問題とする意見が多い。しかし，「教員に問題」という回答も 1 件存在した。

**設問 14(1) あなたの専攻の大多数の修了生は，本研究科での教育により大学院修了程度の専門知**

**識を身に付けたと思いますか。**

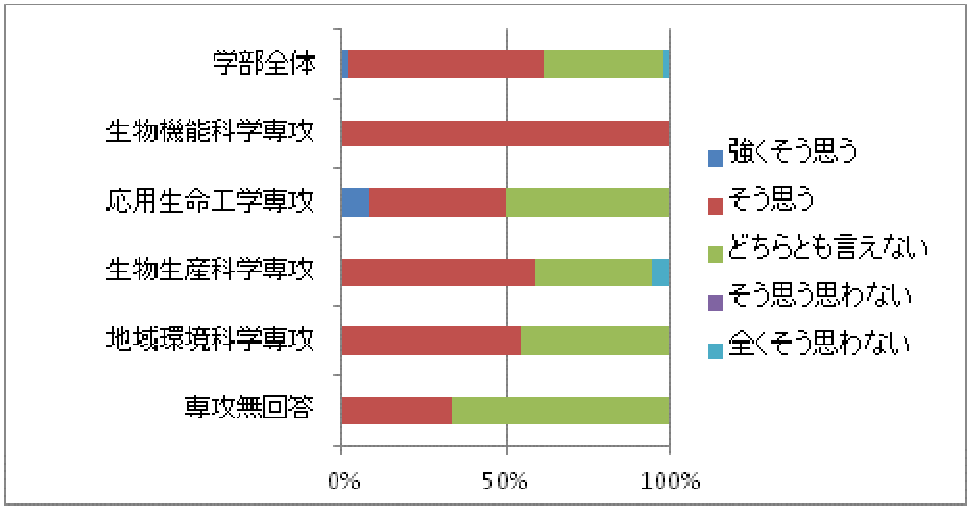


図 13(1)　修士修了生の専門知識の修得

平成 24 年度修了生は改組前であるので，４専攻に区分して集計してある。

学部全体では，昨年度と同様に肯定的評価（「強くそう思う」と「そう思う」）が合わせて６割である。肯定的評価を専攻別に見ると，生物機能科学専攻は全員であるのに対し，他の選考では５割前後である。

**(2) 上記で「4. そう思わない」と「5. 全くそう思わない」を選択した場合，その理由は何ですか．以下の中から選んで下さい。**

表 13(2)　大学院修了程度の専門知識が身についていない理由

| 理　由 | 回答数（専攻） |
|---|---|
| 学生に意欲がない | 1（生物生産科学専攻） |
| 学生の基礎学力不足 | 1（生物生産科学専攻） |
| 講義内容が高度過ぎた | 0 |
| 教員に問題 | 0 |
| その他 | 2（1 専攻無回答*, 1 生物生産科学専攻**） |

＊ 前問で 4, 5 を選択しておらず回答不要なのに回答
　「その他」の内容　まだよくわからない
** 「その他」の記載なし

「学生の意欲」と「学生の基礎学力不足」を指摘する回答が 1 件ずつ存在した。

## Ⅴ．アンケート調査結果に対する各学科の見解

### 生物学科

アンケート結果を見る限り、学科の教育目標やアドミッションポリシーは学生にはかなり承知・理解されてきている。一方、それにカリキュラムが合致しているかについては、学生からの回答を見る限り、高いとはまだ言えないものの評価は向上してきているようだ。しかしガイダン

スにはなお改善の余地が多々あると思われ、昨年度の学科見解にもあった「ガイダンスなどでの説明不足」は引き続き課題として残る。自由記述に見られる学生の個別意見は多様で、これらを一概に考察することは難しいものの、今後検討の価値のあるものを含んでいる。

専門教育への学生の満足度も比較的高かった。これは、教員の側では講義時間数の確保やシラバスを意識した講義など、講義への取り組みは概して真摯だといえることの表れとも考えられる。その一方、学生が授業の予習や復習にあてた時間は、学部全体の平均におよそ等しかったものの、絶対量は決して多いとは言えない。ただ、実験・実習についての個別意見では「積極的に取り組む」姿勢が多く見られた。実際に手を動かして学習することの重要性を示すと思われる。

進路との関係では、「カリキュラムは進路に役に立った」が 60%を超える高率であった一方、「役に立たなかった」という意見も少数あった。ほぼ純粋に生物学を志向し、応用との関連性は決して高いとは言えない本学科であるが、カリキュラムが進路に役に立つとの回答が高いのは、大学院進学率の高さとの関連性があると思われる。全体として、大学卒業生にふさわしい教養・専門知識を得たと考える割合も 60%を超えており、肯定的であった。

最も自主的な勉強を必要とすると考えられる卒業研究に対する満足度については,「強くそう思う」と「そう思う」とを合わせた回答の割合は 6 割超であった。教員の指導・対応への評価も概して高かった。しかし、学生からの個別意見を見ると、改善すべき点はまだまだあると言えよう。施設面では、図書館の利用は高くなく、これは研究科の学生についても同じで、なお充実・改善が望まれる。

大学院の教育研究に対する満足度は概して学部より高いと言える。また、教育研究が実施された施設のうちで、講義室は院生では昨年よりやや低下したものの、まずまずの満足度であったが、図書室や実験・実習室などの満足度については院生、教員とも十分と言えないとする意見が多かった。大学院はスタートしてまだ 2 年目が終わるところである。今後も継続して意見・感想の動向を見ていく必要がある。

## 分子生命科学科

まず当学科のアンケート回答率(58%)が学部の中では最低であり、凡そ 2/3 程度という学部平均をやや下回った。前年度が 72%だったことを考えると、アンケートに対する学生のモチベーションは年度ごとにかなり異なると思われる。アンケート用紙の配布と回収など、作業の進め方を学科内で再確認する必要がある。

本学部の教育理念，教育目的および教育目標などについては、学部の中では高めの理解率を示したが、アドミッションポリシーについては５割程度の卒業生が「知らない」と回答した。これらは入学ガイダンス時に説明されていたはずであるが、記憶に残っていないと思われる。学科のカリキュラムについては６割程度が「教育目標に合致している」と回答した。特にシラバスの利用については肯定的な回答率が高く、学生が授業科目を選択する際に積極的に活用されている事がわかる。学科で受けた専門教育については７割程度の学生が満足しており、個別記述にも特に不満な意見はなかった。一方、講義・実習・演習などにおける学科教員の指導や対応について、当学科は毎年、学部の中で最も低い満足率となっていたが、今年度も同じ傾向が示された。教員の意思が十分に学生に伝わっていないと推察されるが、学生の精神の未成熟さをうかがわせる個別記述もあり、相互コミュニケーションを活発化させる一方で、大学生の幼稚化に歯止めをかける対策も必要と思われる。学生自身の勉強時間については９割程度が２時間以下と回答しており、

そのうち１時間以上と答えた割合は 40%程度だった。授業前に予習したという記述も少なく、受動的な学習姿勢をもつ学生の多いことが窺われる。

施設など環境に対する回答では概ね満足している回答が得られたが、講義室の夏場の暑さに対する苦情が目立った。卒業研究を行ったことに満足したかという問いには、４割強の学生が肯定的な回答を示した反面、否定的な割合も学部内では最も高かった（２割弱）。個別記述では卒業研究の経験を肯定する記述が大部分を占めており、否定的な回答の多くは実験の不成功、自身のモチベーションの欠落など個人的な事情に起因することが窺われた。学部で学んだことが進路にどのように影響したかについては、役に立ったという回答が３割弱と、学部内で最も低かった。これは専門関連企業に就職する学生の割合が低いこと、大学院進学志向が十分に高まっていない状況などが背景にあると思われる。進路支援に対する満足度も学部内で最低レベルである事から、本学科で身につけたものを如何に社会で生かせるか、学生が模索している様子が窺われる。

本学部の教育活動の中でもっとも早急に改善すべきと点として、教育・研究設備とする回答が最も多く、日々の実験環境に学生が不満を抱いていることが強く示された。また、就職支援という回答も学部内では当学科が最も高い割合となり、就職活動や進路選択に対し学生から一層の支援が望まれていることがわかった。

大学院修了生からのアンケートでは概ね教員の指導に対する感想も良好で、８割程度の学生が修士研究を行ったことに満足していた。研究課題に対する学習時間については５時間以上とする回答が６割を超え、学部時代に比べて明らかな増加を示した。大学院授業科目に対する学習時間は２時間以下とする回答が５割近いが、実験室での実験を主体とする分野で、学生は実験と座学に追われている日常が想像された。

## 生物資源学科

学科学生に対するアンケートでは教育目標やアドミッションポリシーに対する認知度は学部平均より低かった。この傾向は昨年も同様であり，今後ガイダンス等において学生の記憶に残るような提示の仕方を検討する必要がある。

学科の専門科目の満足度および教員の講義・実習・演習などにおける学生への指導や対応についての満足度は他の学科と比較して昨年度は高かったが，今年度は最も低かった。そのうえ、大学卒業者としての知識や学力を身に付けたと感じているかとの問い対しては昨年度と同様に他の学科と比較して肯定的な回答が最も少なく且つ昨年度より肯定的な回答が減少していた。このことから「講義内容と学問・社会との関連」「講義内容の学問・社会的な意義」についてより詳しく説明するなどの工夫が必要であると考えられた。

また当学科の本年度の総合的満足度は学部平均並みであり，一昨年度の満足度と比較すると昨年度は大きく減少していたが，今年度はかなり上昇し 70%が肯定的であった。年による差が激しいので，長期間の観察が必要と考えられる。他の学科と比較して就職支援について早急に改善してほしいとの要望が多く，図書関連や講義室・情報処理演習室などの施設面において満足していない傾向が認められた。

これらのことから総合的な満足度を向上させるためには上記に挙げた大学卒業者としての自信を持たせる工夫に加え，就職支援図書や施設に関する改善についても力を入れて検討していく必要がある。

## 園芸農学科

本学科の学部学生に対するアンケートの回収率が上昇して、5 学科の中で最高の 70%となった。主として、担当教員からのアンケート調査協力依頼に応じた学生数の増加として評価される。

学部・学科の教育目標およびアドミッションポリシーについての理解は低いものの、学科の教育目標とカリキュラムとの整合性については高い評価がなされており、学科の特徴については学生に認識されているものと考えられる。実際、多くの学生が幅広い専門科目の履修が可能なことを評価する意見を寄せており、本学科が標榜している自然科学系と社会科学系を融合して幅広い実学的な内容を勉強できる学科と実感して卒業してゆく学生が多いことは喜ばしい。一方で、21 世紀教育科目の履修についての不満が散見されることから、大学卒の学士にふさわしい教養を身につける必要性をガイダンス等の機会に理解させる必要があると思われた。また、今後は、高校進学説明会やオープンキャンパスの機会などを捉えて、受験生に対して学科の教育目標の周知に一層努める必要があろう。

ガイダンスおよびシラバスに対する肯定的な意見が多く、本学科で学ぶべきことや学べる内容が学生に的確に伝わっているものと考えられる。学科で受けた専門教育についての満足度は 8 割以上の高い評価がなされている反面、不満とする回答も 1 割を超えており、広汎な専門分野をカバーしているがゆえに評価が分かれたものと推測される。ここでも、幅広い分野の学修が可能なことを高く評価する者が多いことに加えて、座学以外の実験や演習などの教育効果を高く評価する意見が寄せられている。本学科の特徴として現地視察や実習などの教育プログラムに、今後とも注力することが重要と考えられた。一方で、専門教育における専門性に不満を抱くコメントも寄せられており、研究室配属後の専門教育の充実や大学院進学を促すなど、学生個人個人の選択した専門性を高める方策が必要かもしれない。

教員の指導については肯定的な評価が学部平均程度であり、教員の指導や対応を肯定的に評価するコメントが多く得られている。一方で、「満足できる先生もいれば、そうでない先生もいる」とか「授業のわかりやすさにばらつきがありすぎる」などのコメントが寄せられており、ＦＤなどの機会を活用して、教育方法や学生への対応について教員相互でスキルや認識を共有するなどの対策等を講じる必要がある。成績評価への疑問や異議を抱く学生の割合は低い水準にとどまっていた。予習および復習のために費やす学習時間は依然低い水準にとどまっており、単位の修得を目的とするレベルの受動的な学習態度の学生が少なくないことを伺わせる結果であった。この傾向は数年来継続しているようなので、自発的な学習を促す何らかの方法を具体的に検討する時期に来ているのかもしれない。一方で、実験・実習には前向きに取り組んだとする学生が多かったようである。とりわけ、在学中で最も印象に残った科目として農場実習や専攻実習をあげる者が多く、自発的学習を促す取り組みの方向性を検討する上で示唆に富んでいる。

実験や実習室、卒業研究を行った研究室の施設に満足している割合は高い水準にあるものの、講義室の暖房運転に対する不満を指摘するコメントが多く、寒冷地にある本学の地域性を理解した冷暖房運転が必要と考えられる。また、ゼミ室（研究室、居室？）の狭隘さを指摘する意見も少なくない。改善の方策を根気強く探る必要があろう。卒業研究についての肯定的な評価は 50%強にとどまったが、寄せられたコメントの殆どが卒業研究をやり遂げたことを高く評価するものであった。

本学部の教育活動の中で早急に改善すべき点として、本学科では教員の指導方法をあげた学生が 2 割を超えており、他学科の倍以上という残念な評価となった。研究重視の教員の姿勢を批判

する意見も散見され、教員側も真摯に反省する必要があると思われる。一方で、総合的な判断としては 8 割程度の学生が本学部・学科の教育研究の取り組み・姿勢に満足とする評価を下している。

大学院については教員の指導を評価する回答が多かった。大学で過ごす時間の長い大学院生らしく、「24 時間使える場所が欲しい」や「冷房の設備が欲しい」などの勉学に集中できる環境整備を要望する意見も見られた。大学院進学率の低迷が続く中、学習環境の改善も検討していく必要があると思われる。

**地域環境工学科**

平成 24 年度において，昨年に引き続き学科学生の学科での教育目標や入学者受け入れ方針などの理解度は当学部の中で最も高い。これはここ数年共通していることである。また，年度初めの学年毎のガイダンス内容は，約 95%の学生が適切だと思っている。本学科では学年ごとにガイダンスマニュアルと新入生に対しての「学びの手引き」冊子を作成して配付しており，ガイダンスや JABEE プログラム等でのそれらの明確化・周知徹底が図られていることによると考えられる。また，教員の指導への満足度も平成 23 年度より約 15%増えて 85%と学部の中でも最も高く，指導や対応に満足した学生が増加する傾向がある。これは，当学科の教員アンケートで，ほとんどの教員が休講への代替措置を確実に行っている， 学生のレベルに合わせた講義を行っている，としている点と整合している。また，減少傾向が懸念されている 1 日当たりの予習・復習時間でも 1 時間以上の割合が平成 23 年度より約 10%増えて 70%を超えており同学部で最も高い。この傾向は昨年から続いており，教員アンケートからは，課題や小テストを課す教員が多く，そのことが自主学習時間の増加に繋がっていると考えられる。学生への支援項目として，他学科と異なり「クラス担任と面談」が 40%と高い。本学科では，2 年次から「学びの記録」を配付し，学生に記録させるポートフォーリオを実施しており，合わせてクラス担当が半期ごとに学生面談を実施していることが密接に反映されていることを表している。このように利用が多いということは,学生が気軽に相談や助言を求めやすい工夫を行ってきた成果であると考えられる。

卒業研究に関しては満足した学生が大幅に増加している。これは，当学科の特徴として卒業研究等で学外に出る機会も多く学内設備への不満は出にくいこともあると思われる。また，学科の教育・研究に対する取組み・姿勢に対しては約 80%が肯定的評価をしており，学科の取組の妥当性を表している。

一方,当学科では大学院進学者が他学科よいかなり少ない状況が続いている。この理由として，今年度では約 90%の学生が就職しており，学科の専門性を活かせる公務員採用職種や建設・土木分野など他の学科より顕著に高く，学科としての特徴が表れているためと思われる。ただ，大学院修了生は確実に専門分野の公務員や民間会社に就職していることから，大学院進学者を確保する上でも学部時代のガイダンスや卒業研究を通じて，より専門的な人材を育成させるためには積極的に学生の進学を促す努力が教員側に必要と思われる。

教員の授業で休講した場合の代償措置はどのようにしているかの問に対しては，本学科ではほとんどが休講分を補講している。これは，JABEE 教育での教育改善の一つとして教員個々の自己申告票を作成し，教員相互で自己評価していることが大きく影響していると考えられる。

## Ⅵ．教育改善委員会（平成２４年度教育改善にむけたアンケート調査についての意見）

### 学部卒業時・研究科修了時学生対象教育評価アンケートについて

（１） 学部の教育理念，目的，目標，学科の教育目標，アドミッションポリシーの認識について

学部の教育理念，目的，目標の認知度は，学部全体では５割強で昨年度と大きな変化はないが，学科により３割強～６割強と大きな開きが生じている。学科の教育目標の認知度は，学部全体では５割強と昨年度と同程度だが，学科によって４割弱～６割弱の開きがある。アドミッションポリシーの認知度についも同様に，学部全体では４割弱と昨年度とほぼ変わらないが，学科により１割強～５割弱の大きな開きがある。学科の教育目標とカリキュラムは，学部全体では６割弱が合致していると回答しているが，学科によって４割弱～８割強と大きな開きがある。認知度および評価の低かった学科においては，入学時教育やガイダンス時における教育理念，目的，目標，アドミッションポリシーの説明に努力が求められる。

研究科では，教育目的および目標の認知度は一昨年度から上昇傾向にあり，７割弱である。専攻の概要の認知度は７割弱で，昨年度とほぼ変わらない。アドミッションポリシーの認知度は昨年度よりやや減少し５割弱である。これらの認知度は上昇傾向にあり，大学院説明会等の活動が成果をあげているものと思われる。

（２） ガイダンス，シラバス，専門教育に対する満足度に関して

ガイダンスの内容は，学部全体では７割弱が適切と回答し，昨年度の６割強から上昇しているが，学科によって６割弱～９割強の開きがある。研究科では５割強が適切だったと回答した。ガイダンスにおける説明には，工夫が必要と考えられる。

シラバスの有用性に関しては学部全体のほぼ９割で肯定的な回答が得られている。学科別にみても肯定的な回答はそれぞれ８割を超えている。また，研究科おいても９割弱が肯定的な評価をしている。ここ数年にわたるシラバスの改善の徹底によって内容が充実し，学生の科目選択に有効に機能していることを示していると考えられる。

専門教育に対する満足度は，学部全体で８割弱と一昨年度の５割強から上昇し続けている。学科による開きは６割強～８割強となり，昨年度の４割強～８割強より改善されている。具体的な回答では，「興味が持てる講義が多かった」等の肯定的な意見が多かった。学科の教育目標とアドミッションポリシーの整合性の向上が現れていると考えられる。研究科においては，６割弱と昨年度のほぼ７割より満足度が減少しているため，改善が求められる。

（３） 教員の指導や対応に関して

教員の指導や対応に対する評価は肯定的な意見が約７割であり，昨年度とほぼ同じであった。学科によるバラツキも昨年度と同様，５割程度から８割近くまでと差が開いた。コメント等をみると教員の対応を評価する意見と批判する意見は半々であった。学生の回答として，講義時間外の質問に対する教員の受け答えや指導が丁寧であるとの意見が多く見られた。その一方で，教員による対応のばらつきや一部の講義における対応の不足などを指摘する意見もあり，継続的な検討が求められている。

（４）成績評価について

成績に対し疑問や異議を抱く学生の割合は昨年度の 29%から 5%減少し，24%であった。しかし昨年と同様に成績に対して疑問を抱く学生のうち 95%が問い合わせ等の対応をとっていない。学生

からは教員や教務への問い合わせにより疑問が解決したという意見があがっている一方，問合せ方法がわからなかったという意見も見られた。成績評価に対する学生の疑問を解消し理解を得るためには，対処の具体的な手続きを学生に分かりやすく示し説明する必要があると思われる。

（５）講義への取り組みに関して

１日の学習時間については「30 分未満，30 分から 1 時間」の回答者が過去 60%， 65%， 67%，60%，58%，52%と変移しておりこの 3 年間は下降している。しかも「2 時間以上」の回答者が昨年度は 11%，今年度は 7%しかおらずとても大学生とは思えない学生が大半を占めている。学習意欲の向上策を講じるには，全教員が協力して必修科目の単位認定のレベルを上げるなど，勉学を強制するような改革も必要であると考えられる。同時に学生の講義に望む姿勢についてみると受講態度に関するコメントが大多数で事前事後の予習・復習に関するものはごく僅かである。講義に出席することが学習であるという認識が感じられきわめて受け身の姿勢が感じられる。

一方で実験・実習に対しては学生の積極的な姿勢が強く感じられた。特に興味深いのが学科を問わずグループでの取り組みやチームワークの重要性に関するコメントが数多く見られる点である。仲間と協力し体験しながら学習する仕組みが専門教育に対する学生の意識向上と主体的な学習意識の醸成に好結果をもたらしている。講義と実験・実習の連動性をもった実施が学生の主体的な学習意欲の形成のきっかけとなる可能性がある。

（６）施設等に関して

実験・実習室および情報処理演習室については昨年同様に７割程度の満足度が得られている。一方講義室の満足度も５割程度と昨年と同程度程度であった。コメントを見るとその要因の多くは冷暖房に関する不満にあるように思われる。状況を継続的に確認する必要もあるが設備の新設や更新などすぐに対応が難しいハード面の対応以外に講義時間の配置などソフト面の工夫も検討可能ではないかと思われる。図書室の利用割合は５割程度に留まっている。しかしこのアンケートではインターネットを使用して論文等をダウンロードすることなどについては数字に表れておらず，それを加味すると利用度はかなり高いものと推察される。蔵書スペースの問題もあると思われるが開館時間に対する不満が相対的な増加傾向を示している点は検討の余地があると思われる。また実験室や廊下の照明に関する指摘については安全衛生に直結する問題であり内容を詳細に検討する必要がある。

（７）卒業論文研究・修士論文研究ついて

８割の学生から肯定的な評価が得られた。個々の学生が，長い時間をかけて１つのテーマに取り組み，主体性をもって体系的な学習を経験することになるため，満足感を得ていることが見受けられた。また，９割近くの教員は，卒業研究の必要性を肯定すると回答した。卒業論文研究・修士論文研究は，講義だけでは養うことの困難な総合的な問題解決能力を育成する上で有効であるとの認識が認められた。本年度の卒業論文研究に関する学生の評価は過去最高の昨年度に次いで高く，修士研究論文に関する学生の評価も高い状態を近年維持しており，大学・大学院教育においてこれら研究の有用性は高いと認識された。

（８）学部・研究科の教育のあり方について

平年通り，約半数の学生は，概ね卒業者あるいは修了者としてふさわしい教養と専門知識を身につけたと回答した。一方で，知識不足と認識している学生も多いことから，早い段階からの専門知識の重要性・有用性を説明するなどの学習意欲の醸成に向けた対応が必要であると考えられた。教育・研究への取り組み対して，学部では７割を超える満足度が得られ，平成 19 年度以降で

最高の評価となった。研究科においても 7 割に近い満足が得られた。改善を要するものとしては，学部では指導方法や授業方法，教育研究設備，経済支援制度などが，研究科では就職支援，教育研究設備，指導方法および成績評価の方法などが割合的に多く挙げられた。今後も，本学部・研究科の教員が一体となって検討し，向上を図っていく必要がある。

## 教員対象授業アンケートについて

（1）授業の実施方法について

学部で実施回数が必要回数の 15 回に達していない授業が 20%程度みられる。特に，生物学科，地域環境工学科で実施回数が 11 回以下の授業があり，改善を要する課題といえる。また，この場合の対応について休講時に「何もしていない」場合が学部全体で 25%みられ，昨年度が 10%であったのに比べ大きく増加した。この割合は生物学科では約 60%となっている。研究科でも休講時に「何もしていない」場合は 25%みられ，生物学コースで 40%，園芸農学コースで 50%と多くなっており，改善を検討する必要がある。

（2）授業内容とシラバスとの一致について

学部では，約半数がシラバスに記載した内容に一致させて授業を行っている。その割合は学科間で大きな開きがあり，もっとも高い生物資源学科（約９割）と生物学科（約１割）と非常に大きな違いが見られた。研究科では約 30%がシラバスに記載した内容に一致させて授業を行っている。

シラバスの内容は学部では 67%が同一としており，昨年度（52%）に比べ増加した。一定のシラバス改善が形になりつつあることを示すものといえる。加えて，改善を行った例でも「時代をとらえ，新しい内容の導入した」，「新しい担当科目のため」など積極的な改善努力が進んでいる様子も見られる。一方で，その成果を実感している教員は１割程度と昨年度より 2 割程度減少している。

研究科でも同様の傾向がみられ，前年度と同一のシラバスとした教員が約 7 割，その効果を実感している教員は約 1 割となった。シラバス変更が教育効果向上に寄与するには時間がかかる面もあり，今後も継続的な対応とその評価が求められている。

## 教員対象教育評価アンケートについて

（1）カリキュラムやシラバスが学科・専攻などの教育目標に合致しているか

カリキュラムに関しては，過去２年と同様に，約８割の教員が肯定的に回答した。学科別の状況も過去２年と同様であった。シラバスと授業内容の一致性については，約７割の教員が肯定的に回答し，過去２年と同様である。多数の学科ではより良い授業を提供するために，シラバスと授業内容がある程度異なってもかまわない教員が増加し，授業効果が重視されている。大勢の教員が内容変更時には「学生に説明するべき」と答えており，シラバスの重要性は強く認識されている。

（2）「学生による授業評価」のとらえ方に関して

アンケート評価を信頼できると思う教員の割合と「評価の低かった項目の評価を上げるよう努力している」という回答率が昨年度よりやや減少した。これは昨年度には見られなかった「評価結果を見たことがない」との回答があったことと関係していると思われる。アンケート調査の結果を教員へ伝達する方法を改善するべきである。なお，アンケート結果を信頼できないと思う教

員が全学部で約１割と，昨年度に比べて微増した。継続してその傾向を把握し，アンケート項目の設定や設問の方法が妥当であるか検討することにつなげていく必要がある。

（３）ＦＤについて

学部主催のＦＤに３回以上参加した教員の比率が２割から３割に増加し学部におけるＦＤ活動は着実に進展している。ＦＤの参加が教育改善へ及ぼす効果についてみると，学部全体では昨年度と同様に肯定的評価が８割と高かったが，学科間では５割から９割と差が開いた。

（４）学生の学習促進

約８割の教員が授業時間以外の学習促進に向けた対応を行っている。その方法としては「口頭での予習復習の呼びかけ」が約４～６割と目立つが，学科によっては講義時間ごとの小試験や提出課題を課すなどが５割をしめていた。学生の学習意欲の向上に向けた対応は今後ますます求められる。自発的に学習する形が望ましいものの，より一層の意欲向上を促すために課題等を課すことで学習させるべきなのか，あるいは，学習促進効果をどういうふうに評価するかなど，今後継続して検討する必要がある。

（５）その他

施設・設備に関する質問の中では研究室・実験室が狭いとの不満が依然最も多かった。卒業研究の必要性と卒業・修了生の質についての答えは多岐にわたる。否定的回答をした中からは，基礎学力の不足や学生の意欲の低下を指摘する意見が依然多く見られ，これらへの対応は今後の大きな課題といえる。


**弘前大学農学生命科学部・農学生命科学研究科**

**「平成 24 年度　教育改善に向けたアンケート調査報告書」編集担当者**

平成 25 年度　農学生命科学部　自己評価委員

| | |
|---|---|
| 生物学科 | 大河　浩（編集責任者） |
| 生物資源学科 | 比留間　潔 |
| 園芸農学科 | 本多　和茂（副編集責任者） |
| 地域環境工学科 | 藤崎　浩幸 |
| 生物共生教育研究センター | 伊藤　大雄 |